

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

特216  
34A

九條教會  
四十年小史

日本  
九條基督教會發行

始



特216  
348

教九

會條

四

十

年

小

史



(立てる人々)  
 宮川 老人 人  
 藤木 夫人 人  
 田頭 操 姉  
 眞鍋 民枝 姉  
 松本 氏 人  
 タメ子 さん  
 眞鍋 友子 姉  
 不 明 人  
 同 夫 人  
 長 目 鬼角 氏  
 不 明 子 さ  
 不 明 氏  
 水 野 明 氏  
 神 代 氏  
 大 久 保 氏  
 宮川 氏 長 女  
 神 園 氏  
 中野 小<sup>エ</sup> 姉  
 中野 篤 氏  
 眞鍋 實一 氏  
 葛岡 夫人 人  
 不 明 氏  
 葛岡 醫師  
 西 宜 立 氏  
 (立てる人々)

(着席者)  
 倉 田 夫人 人  
 松 本 夫人 人  
 安 藤 夫人 人  
 同 操  
 オルチン<sup>ン</sup>氏三女  
 オルチン<sup>ン</sup>氏二女  
 オルチン<sup>ン</sup>夫人  
 オルチン<sup>ン</sup>教師  
 オルチン<sup>ン</sup>氏四女  
 ダニエル<sup>ル</sup>教師  
 伏木 勝子 姉  
 同 長 女  
 松 澤 夫人 人  
 安 藤 教師  
 (着席者)

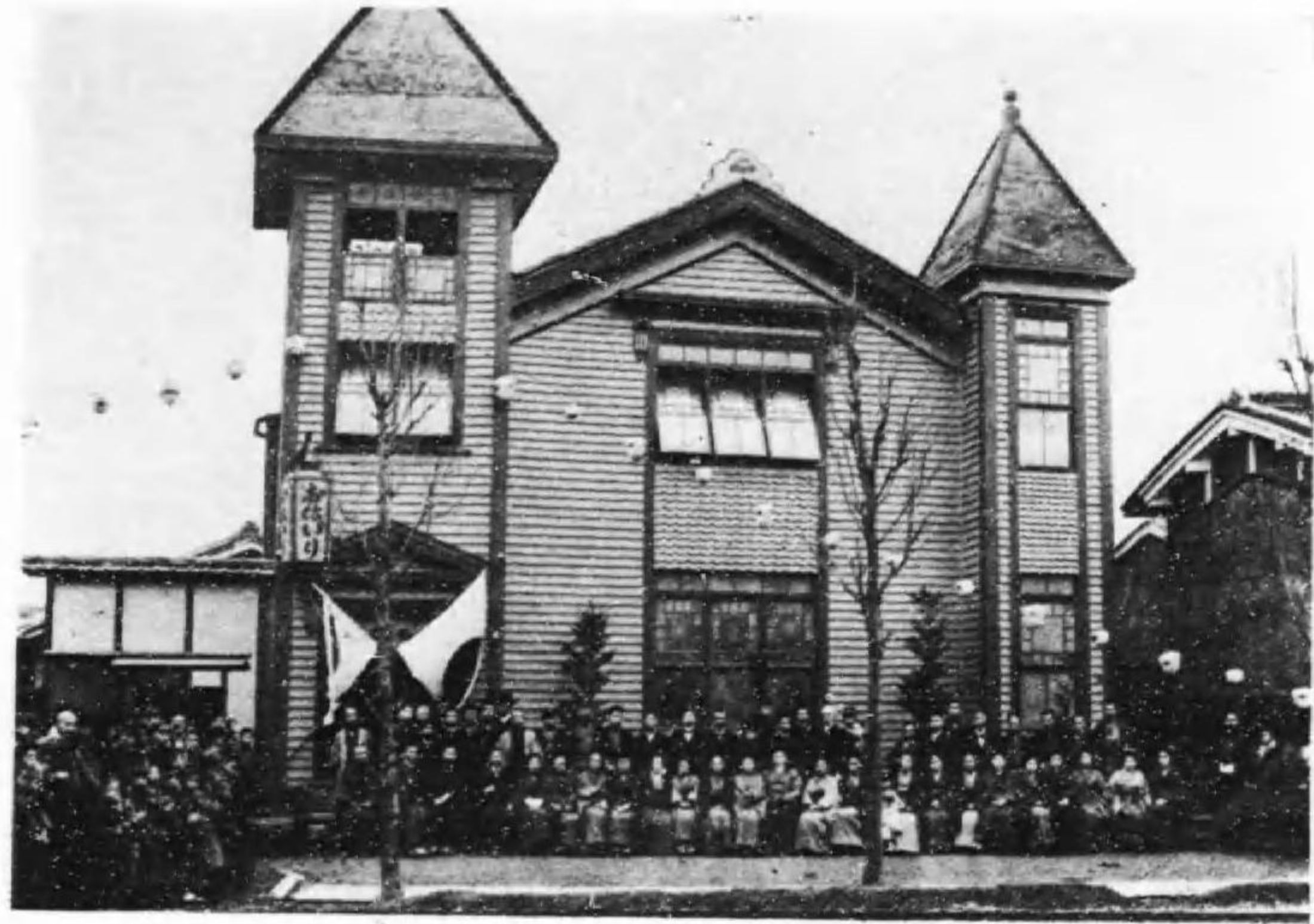
(前列子供)  
 不 明  
 安 藤 美 穂  
 不 明  
 安 藤 加 藤 枝  
 原 田 氏  
 眞 鍋 春 尾  
 松 本 氏 三 女  
 松 本 氏 次 女



(弘道館最初の寫眞)

明治三十四年五月一日安藤教師時代左端安藤教師、中央オルチン教師 (オルチン氏宅)





明治四十年三月九條中通新會堂獻堂式紀念



大正六年六月木村傳道紀念撮影  
(此の會堂は上段のものゝ大修理後)



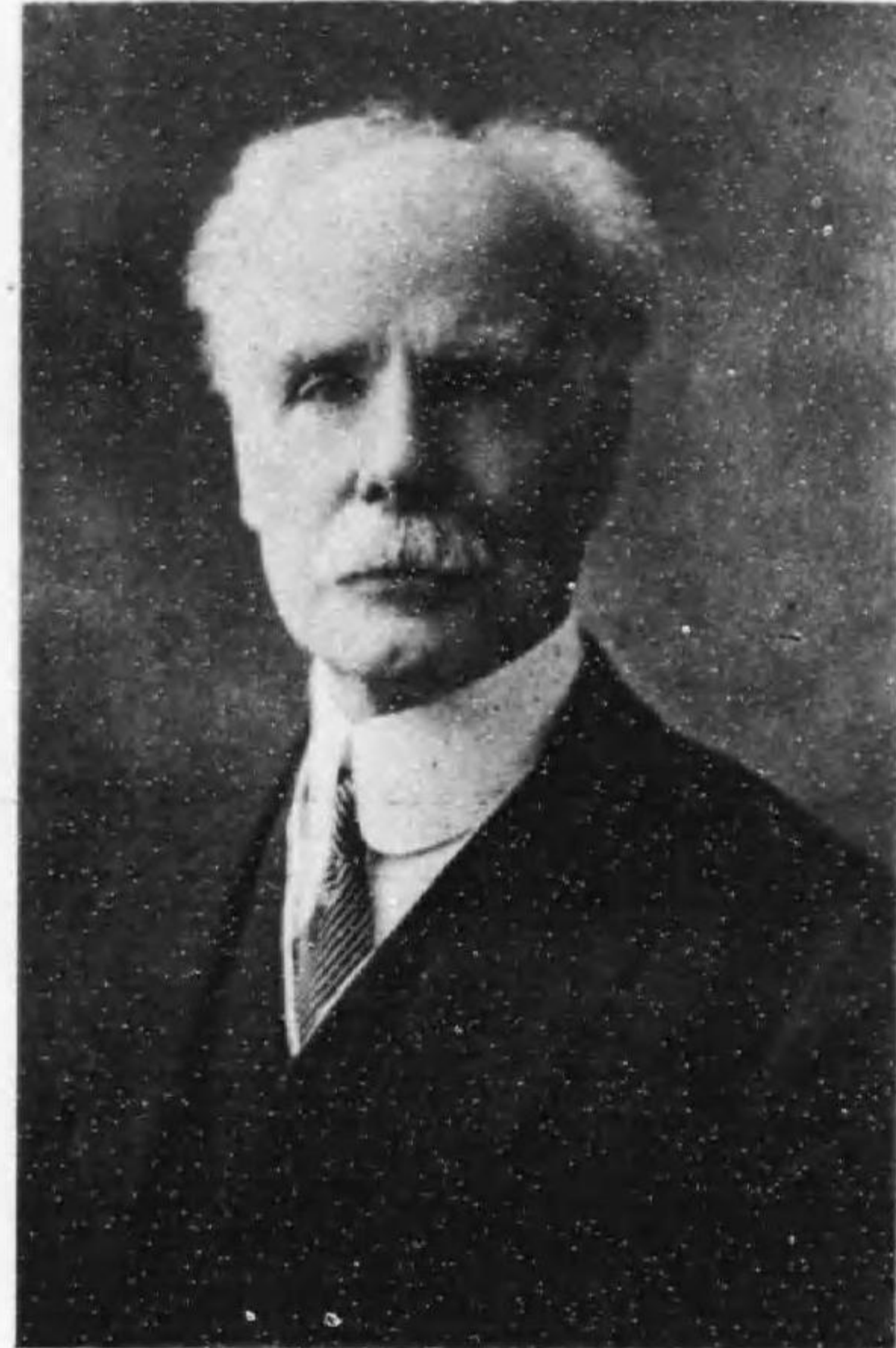
大正八年十月九條南通新會堂竣成間もなく  
開かれし組合教會總會時の撮影



昭和七年二宮牧師就任二十五年祝會記念撮影



故オルチン夫人



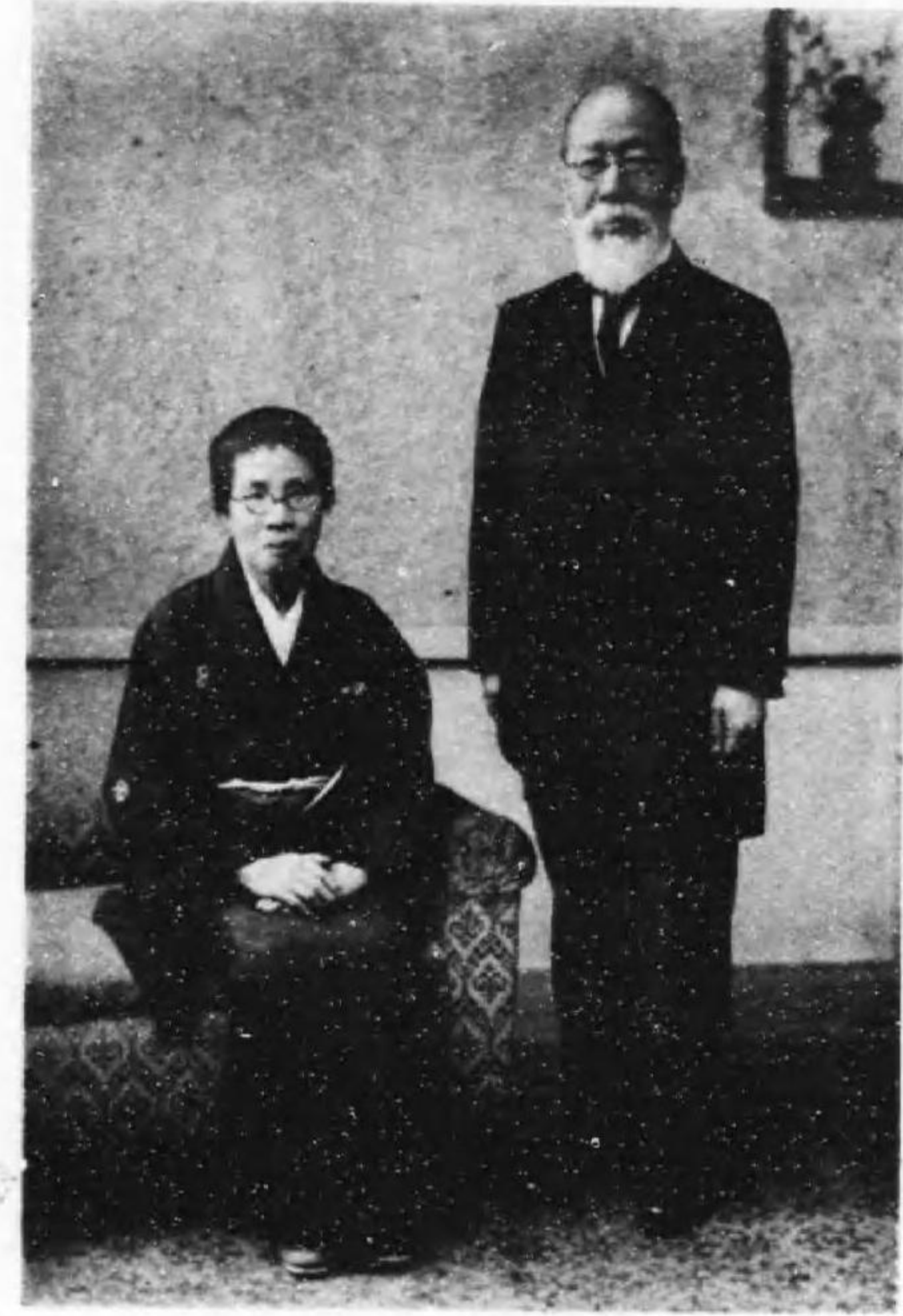
故オルチン教師



内田政雄牧師



故安藤乙三郎教師

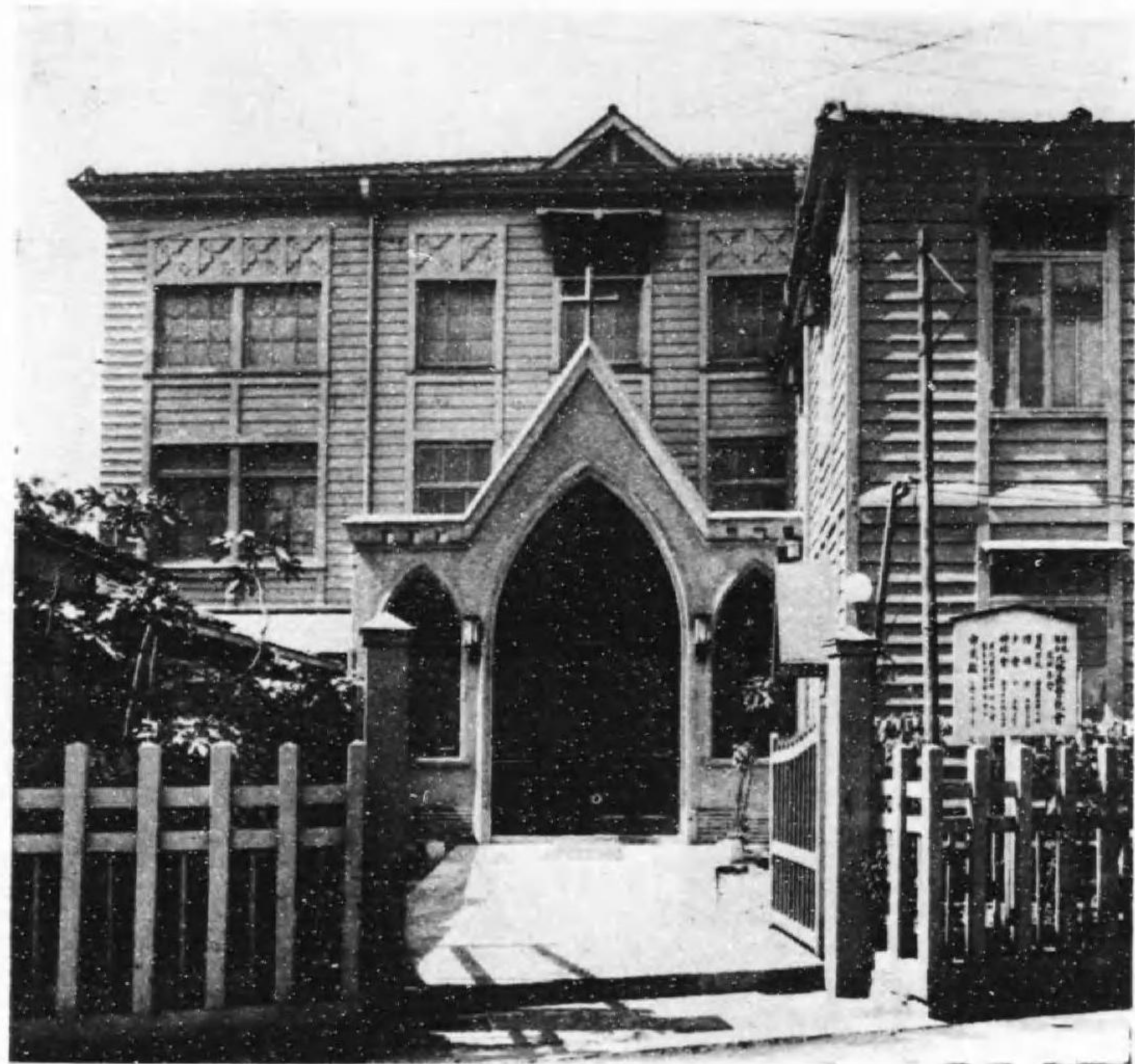


明治四十年二月より昭和九年九月まで  
廿有八年在任せられし二宮平次郎牧師御夫妻



昭和十年二宮牧師送別會記念撮影



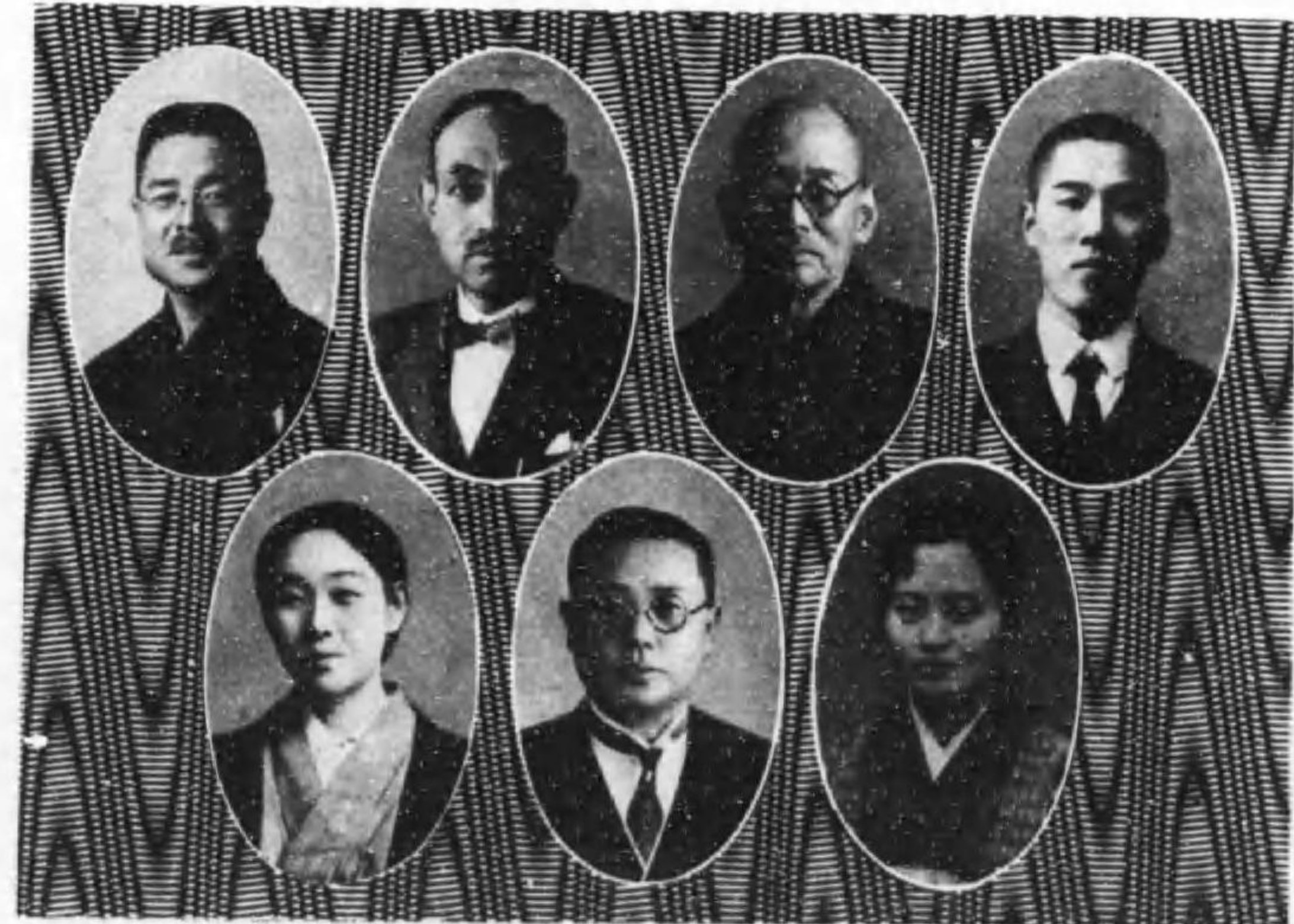


昭和十一年夏玄關大修理後の會堂



現任菅原菊三牧師

員 役 現 及 老 元 會 教



岡本小松姉

古河善録兄

木村清一郎兄

菅原牧師

村田次郎兄

桂住市兄

古河幸雄兄

後 列

齋藤胸一兄

日高傳三郎兄

眞鍋貫一兄

齋藤市次兄

小野虎助兄

西山早之助兄

前 列

坂口政吉兄

日高善市兄

瀧山良一兄

潮成田格兄

武藤夫人

木村寛一兄

石神夫人

## 編者のことば

教會の歴史を只だ總會の報告の如く事實の正確のみ期したゞけでは乾燥無味に終つて面白くない、と申して無論事實を羅列せねばならない。想像のみ逞ふするわけに行かぬ。然かも事實の記録が相當逸散せる間に、稍々全貌を傳へる事と、忘れてならぬ後人への教訓をも加ふる事は、編者に幾分の苦心がなかつたわけでない。然し出來上つて見て豫期に反するものを見出しては、編者自ら無力を詫びる外ない。

又編者の心構へとしては古きを精しく、新しきを幾分粗にした點もある。

何れ五十年記念を俟つて、より完成を期し度い。特に婦人會、青年會、日曜學校方面は全く白紙で終つて仕舞つた。

顧みて我教會進展の理由は、四十年に亘る約四分の三（廿有八年）が、同一牧師に依り牧された事にし。之れ神の御恩寵として感謝すべき事である。嘗て九條は「苦情」に通ずると云はれたが、否「苦情を云はず」に通ずると主張した事が、今日にして見れば、一牧師が一時代を貫いた事實に由つて、然る事を證明したと云へる。

昭和十一年盛夏

編

者

# 九條基督教會四十年小史

## 教會の創始

我が九條基督教會のそも々の創始は、大阪元居留地川口町に在留せる、アメリカン・ボード宣教師ジョージ・オルチン教師の意圖に基くものにして、當時既に堅實なる發達を遂げ居たる所謂組合の四教會（大阪教會、浪花教會、天滿教會、島之内教會）の他に西部大阪に、將來の發展を豫想し、新たに教會設立の目的にて、オルチン教師は、己が邦語教師たりし、安藤乙三郎氏と偕に、新開地たる九條新道に家屋を物色し、漸く奔走の結果、平栗氏所有の家屋にして、中尾八三郎氏の家守せられし一戸を賃借し、安藤教師家族は其所に居住し、主任傳道者格として、オルチン教師と協力、活動を開始せられた。抑もその時たる明治二十九年一月にして、名付けて基督教弘道館と稱した。

一説に安藤乙三郎教師が専ら弘道館に起居し、傳道に盡力するに至つた所以は、同教師は元宮川經輝先生などの關係せる泰西學館の教師にして、遂に經營上同館が宮川先生などの手を放れ、吉岡哲夫氏の手に移りたりしを以て、安藤教師も同時に泰西學館との手を切り、時恰かもオルチン教師等が新地開拓の意圖ありしに楔合し、安藤教師が専ら弘道館の傳道に當る事になつたと謂ふ。又其の時代の經驗とし

て、市内各組合教會（前述四教會）が講義所を始むるも、彌々受洗の場合に臨めば、結局本教會に行きて受洗する事となり、講義所が進歩して教會に成ると云ふ事は絶無に等しき所より、寧ろ夫は最初より新地開拓の方針にて、何れの教會にも所屬せず、單立に取り懸るの説有力となり、前記の如く、組合四教會とは直接關係なく、最初よりミツシヨンのみの手に於て、傳道教會として創始する事になつたのであると。

無論當時の事情は今にして思へば隔世の感に堪へないが、當時九條新道に於ける民家の借料は一ヶ月僅かに十四圓にして、後幾分づゝ家賃が上つたとしても誠に低廉なるものであつた。先づ其の民家の道路に面せる一室を土間として造作し、普通日は一般公衆に新聞雜誌の縦覽に供し、又安治川通に開業し居たりし、クリスチャンの醫師葛岡春造氏の奉仕を得て、無料診察を行ひ、夜分は宣教師ミス・ダニエル、其のアツシスタント高野姉、伏木勝子姉（後の宇佐美夫人）等の援助の下に、當時近傍に工女の住居多き爲め、夫等を集め、習字、裁縫、編物等を教へ、所謂教會の社會的奉仕に由り、傳道の門戸開拓に努めたのである。

當時集會としては、日曜學校はミス・ダニエル之に當り、日曜朝は安藤教師聖書講義を擔當し、日曜夜は専ら傳道集會を行ひオルチン教師之に當つたものである。又ミス・ダニエルは自宅に青年を集め、英語を教へ、教會青年の指導に裨益した。抑も以上の如きが、我九條教會創始の大事である。

斯くて漸時後援者も續出し、中にも大阪教會員故佐々彌三七氏（三軒屋居住）故星野定助老人などは

我弘道館に物質的、精神的援助を惜まなかつた人々である。斯の如くして日を追ひ弘道館は成長の一路を辿つた。

## 安藤乙三郎教師時代

（自明治二十九年一月 至同二十七年三月）

安藤教師は一家を擧げて、創業教會成長に鋭意盡力する所より、明治三十年春（創業翌年）我弘道館最初の受洗者中野周助氏を出した。中野周助氏は中野篤氏の父君にして安藤教師の義父に當りオルチン教師より領洗したのである。次で他教會より轉會するもの續出し、漸時教會の體を爲すに到つた。當時弘道館に出入したる主なる人士は、故松澤氏、田頭操姉、故眞鍋友子姉、長野ミネ姉、神代信平氏、伏木勝子姉、故松本久茂氏等であつた。教會が組織せらるゝや、當初の執事は神代氏、松本氏、婦人にては伏木姉などであつた。特に神代氏は大阪電話局西分局長であられた關係上、其の局に勤務せる青年にして、井上良民氏、神園萬助氏、故竹中悦三氏、伊達朝江姉（後佳谷天來牧師夫人）を初め磯邊敏郎氏、中野篤氏、西宜立氏（氏は後ミス・ダニエルの書記）木田重治氏（秋山氏宅同居人）木下平一氏（質商の息子）堤寅吉氏、少し遅れては橋本和歌氏（青年僧侶）眞鍋貫一氏（明治卅五年五月廿三日弘道館に

て宣教師ケリー氏より領洗し、日高傳三郎氏（明治卅七年十月十三日同志社教會より弘道館へ轉會）などがあつた。是等青年中神園氏は日曜學校教師となり、西、中野氏などは最初その指導を受けたものである。

弘道館は民家借家の教會を以て初めた事は前述した所であるが、最初表通りに面した一室を土間とし椅子を置き集會に用ゐたのであつたが、漸時集會も盛大となり、次で中の間、奥の間と遂に三室打ちぬき、土間として集會に使用する事となつた。之が爲め安藤教師家族は、最早狹隘にして居住に堪へぬ所より、同教師家族は本田町に移り、弘道館は専ら集會にのみ宛てらるゝ事となり留守居に田川ハル姉を置いて、平常は管理せしめた。斯かる發展は一面周圍が人家の膨脹を見たる地理的發達の賜にして、神が此の地の傳道を恵み給へる御恩寵に外ならない。

當時弘道館は新興の力充ち、青年等は路傍に立ちて大に宣傳に努め、又時には遠く生駒山に赴き熱心に祈り、將來の教會に就て神の御聲を聞いた。即ち弘道館目前の目標は會堂を興へらるゝ事である。之が爲め先輩教友などの援助の下に十分一献金を以て、其の準備に着手する事にした。

恰かも此時代の事である、安藤乙三郎教師は説教中突然卒倒し、輕き腦溢血に犯された。時は明治三十六年七月十三日の事なりと記録せられて居る。安藤教師は暫らく休養を餘義なくせられ、其の間當時梅花女學校に教鞭を取り居たりし、二宮平二郎教師は二三ヶ月説教を擔當せられた。後年同先生が約三十年に垂んとする當教會牧師として文字通り、教會の父として働かるゝ攝理の萌芽が、既に此の時に胚

胎して居たとは全く奇縁と言はねばならない。安藤教師の休養は僅か二三ヶ月で回復を見たが當時一方大阪基督教青年會の依頼に由り、同會の會務に當り幹事たりし關係上、オルチン教師は安藤教師の健康を考慮し、何れか一方の責任を負ふの至當を主張し、安藤教師は遂に明治三十七年三月、オルチン教師と別かれて、専ら青年會の會務に當る決意を爲し、弘道館主任者たる事を辭するに到つた。同教師の前後八ヶ年餘に亘る、所謂我が教會創始時代のオルチン教師を助けての功績は、長く埋没してはならぬものである。

當時弘道館傳道は、一方社會の基督教に對する理解の乏しき時にて、小迫害も屢々蒙つた。例へば集會毎に瓦礫を投じて之を妨害し、又氏神茨住吉神社祭禮の際には其の神輿を打ち付ける危険などあつて戦々兢兢たる經驗などもあつた。

### 安藤教師在任中の統計

次の統計は組合教會便覽に負ふものであるが、三十三年度分より掲載せられて居るを以て、同年度より三十六年度分まで掲載する事とする。

年	教會員の數		計	他行	年中の増員		年中の減員		差引	小兒日曜學校 受洗 出席生徒 在籍
	男	女			受洗告白	轉入	就眠轉出	除名		
明治三三	一一	一九	三二	三	一四	一	一	一八	一	(105)
三四	一三	二三	三六	四	二	一	三	五	一	七二
三五	一六	一九	三五	六	二	一	三	五	一	七〇
三六	二三	一八	四一	六	二	二	三	六	一	五三

統計に就ての注意

卅三年の日曜學校生徒數の括弧入は在籍數にて出席數は不明、又之の統計より卅二年の全教會員は十六名なる事廿九年傳道開始より三年にして十六名の會員、四年目に卅四名の會員となりし事を知るのである。

次に經濟上の統計

年	常費	日曜學校費用	會堂建築費	其他集金	傳道部寄附	計
明治三三	三三	三六	一三	七	〇	五六
三四	三四	四五	〇	一八	〇	六三
三五	三五	三一	〇	二五	〇	七二
三六	三六	四〇	〇	五六	九	一〇六

右統計は圓以下四捨五入。

思ふに卅三年は一ケ年の常費として會員の支出せるもの僅かに卅六圓、月三圓である。之を以て見れば弘道館の家賃、主任教師の謝禮等は悉くミッション經濟より支出したものである。然かもミッションが年々幾何を支出したかは、知る由もない事であるが、弘道館創始に當りミッションの支出は相當額であつた事は想像に難くない。尙ほ此の統計の表示する通り、年次向上しつゝある事は看過を許さぬものである。

### 内田政雄牧師及富田政教師時代

(自明治三十七年四月 至同四十年一月)

#### 會堂新築の議

弘道館は安藤教師時代漸時發展しつゝありて、最初土間一室が遂に三室を打ちぬく状態に進み、又有爲の青年もよく教會に出入し、熱心傳道を助け、他のミッション諸教會中、極めて好潮の發展を遂げつゝあつたが、茲に教會として是非要望して止まぬものは、會堂新築の件であつた。先にも記したる如く

純情の青年達は、未明生駒山頂にて祈禱會を催し、各自収入の十分の一を献げ、會堂建築の氣運作興に資し、且つ其の實行に着手した。中にも故汐見常吉氏の如き、川口郵便局の小使を勤め、僅少の收入中より此の十分の一献金の約束に加はりし如きは當時會員共に大なる感激を與へたものと言はれて居る。既に安藤教師時代より内田教師時代に集めたる募金の概要を記せば左の如きである。

金參拾圓	弘道館有志	金拾圓	今川 鬼角氏
金貳拾圓	行徳 弘二氏	金參圓	田頭 操姉
金貳拾五圓	秋山 乙吉氏	金拾五圓	松本 久茂氏
金五圓	汐見 常吉氏	金拾八圓	木田 重治氏
金拾八圓貳拾錢	中野 篤氏	金九圓	長野 ミネ姉
金參圓八拾錢	西 宜立氏	金五圓	眞鍋 友子姉
金拾貳圓廿八錢	神戸教會に開かれし關西婦人大祈禱會席上募金、安藤夫人及伏木勝子兩姉の盡力		
金貳圓五拾錢	西村 輔三氏	金五圓	伏木 勝子姉
金拾圓	内田 政雄氏	金拾圓	美野 甚右衛門氏

等であつた。

## 土地の購入

尤も之より先き會堂建築の必要を見越し、ミッションに在りては、明治卅七年三月、當時築港大道路——今日九條中通り丸信所在地——東側の土地を購入したるものであるが、オルチン氏は斯かる準備工事を爲したるに拘らず、會堂新築に對しては、時期尙早の考を抱き、新任せられたる内田教師の急進的意見とは相合はず、教師は屢々窮地に落つる状態であつた。無論オルチン教師は内田教師に多大の好意を寄せ、又内田教師も傳道上、牧會上、最大の努力を拂つて、教勢の振起に努めつゝあつたが、只だ當面の會堂新築問題、更に之に加へて教會獨立問題に到つては、意見相合はず。然かも此の時に當つて日本組合基督教會は純然たるミッション教會とは手を切り、傳道會社が蹴起する事あり、之は當時内田教師に取り組合派教師としてミッション所屬に甘んずる事は忍ぶ能はざる所であつた。在任僅か一年十ヶ月、遂に辭任する事となつた。

## 内田教師の辭任

當時内田教師の記したる教會記録に左の文章がある。(明治卅九年一月十五日附)

昨年來日本組合教會とアメリカン・ボード日本ミッションとの交渉の結果、全國にある補助教會を擧て日本ミッションより日本組合教會に移し、爾後日本傳道會社の管理に屬する事とし、斯くて日本



組合教會は、全く獨立の一團體となり、外國傳道會社と何等の關係なきものとなれり。其結果として我弘道館はミツシヨソ補助の講義所たる所以を以て、日本組合教會と直接の關係なきものとなれり、是れ吾人弘道館に屬する信徒の痛心に堪へざる處なり。之が善後策に就ては、大に熟慮を要する事にして、會員各自大に奮發すべき時なりと信す。

次で一月十八日には、牧師も非常の決意を以て左の辭表を呈出せられた。

拙者儀乏を弘道館傳道の任に受けてより日夜熱心の足らず力の及ばざるを感じ常に苦心罷在候も幸にして内は會員諸員の同情を得、外は傳道の門戸大に開けたるは神恩の優渥なる事と感謝罷在候。就ては此度日本組合教會とアメリカン・ボード日本ミツシヨソと交渉の結果我弘道館は日本組合教會と直接の關係無之事に相成り、従つて日本組合教會の教師たる拙者は日本組合教會と進退を共にするは當然の事に屬するを以て餘儀なく茲に辭表を呈候。就ては拙者の苦衷を諒とし、何卒御同意被成下度切望に堪えず候。尙貴館の上に天祐愈々加らんことを祈上候也謹言

この事は會員に取り青天の霹靂にして、爾來三月末日まで、數回留任の交渉を重ねたるも遂に内田牧師の意志固く、翻す事が出来なかつた。

### 内田牧師在任中の一、二の事

同牧師在任中忘れ得ぬ一、二の事は、梅花女學校の女教師ミス・マカンドリツシユが當弘道館を援助

せられた事である。又天滿教會員齋藤市次氏夫妻も居所の關係上當教會に出入し、先づ客員として、弘道館を助けられた事である。同時に、教會獨立の氣勢の舉りし事は、當時を知る者には忘れ得ぬ事である。尙ほ明治三十九年總會に於ける諸報告中主なるものは左の如くである。

一、書記日高傳三郎氏會員移動の報告を爲す。

一年間の受洗者數 六名

同 轉入者數 大人一名小兒一名

同 永眠者數 一名

同 轉出者數 一名

差引増員 五名

現在會員總數 五十八名

内男二十九名、女二十九名

内市内三十四名、市外二十四名

一、同 教狀報告

日曜學校出席數 平均五十九名

日曜朝禮拜 同 三十四名

同 夜説教 同 六十五名

祈禱會 同 二十一名

一、會計報告 伏木勝子姉

收入 金五拾圓四拾錢 常 費

金六圓也 傳 道 費

金拾六圓也 日 曜 學 校 費

金貳拾七圓貳拾六錢五厘也 臨 時 費

金壹圓〇四錢也 雜 收 入

金貳拾八圓七拾五錢也 貸 店 料

支出は略

一、役員改選の結果

執事 今 川 氏 (再選)

會計 伏 木 姉 (再選)

同 眞 鍋 貫 一 氏 (新選)

書記 日 高 傳 三 郎 氏 (再選)

一、建築委員 (四氏)

今川氏、堤氏、松本氏、伏木姉。

客員 齊藤市次氏を建築顧問に依頼し土地並に規約設定の事を托する事に決す。

以 上

### 會 堂 建 築

聞く、當時ミス・ダニエルは會員が會堂建築に熱心なるを知り、オルチン教師の漸新主義は手緩しと見、別途の方法を講ぜんと計つた。之は反つてオルチン教師を刺戟し、同教師も速進主義に傾き、遂にミツシヨンを動かし、茲にミツシヨン、教會員共に一致募金に努め、幸ひ各組合教會有志も多大の義金を投ぜられ、遂に内田牧師退任後、富田教師應援時に新築問題急轉して其の年の九月之が竣工を見るに至つた。

誠に新會堂建築に就ては背後に幾多犠牲の存したる事は忘却してならぬ。今其の建築收支報告を記せば左の如し。

### 九 條 教 會 建 築 費 收 支 報 告 書

收 入 之 部

一金貳千貳百六拾壹圓參拾錢也

總 收 入 金 高

内 譯

一金八百〇八圓四拾五錢也

寄附金

(内貳百參拾五圓餘は會員の出金他は大方後援者の寄附金である)

一金千貳百參拾七圓七拾五錢也

米人寄附金

一金九拾貳圓八拾錢也

幻燈會收入金

一金拾圓六拾五錢也

活動寫眞收入金

一金拾貳圓貳拾八錢也

神戸婦人大會に於ける寄附金

一金八拾貳圓九拾九錢六厘

積立金

一金拾六圓參拾七錢四厘

銀行利子

支、出、之、部、

一金貳千貳百六拾壹圓〇八錢也

總支出金高

内 譯

一金貳千〇七拾壹圓七拾九錢也

建築費

一金百七拾參圓七拾九錢也

諸設備費

一金拾參圓也

水道敷設費

一金貳圓五拾錢也

雜費

差引殘金貳拾貳錢也

尙ほ建築費、設備費の内譯を明記すれば

一金貳千〇七拾壹圓七拾九錢也

建築費

内 譯

一金千七百參拾四圓貳拾錢也

大工支拂

一金九拾壹圓六拾九錢也

セメント八樽

一金百四拾圓也

ペンキ屋拂

一金四拾四圓七拾錢也

スレート代

一金四拾圓也

杭木

一金貳拾壹圓貳拾錢也

石代

一金百七拾參圓七拾九錢也

設備費

内 譯

一金拾參圓貳拾九錢也

金物代

一金九圓五拾錢也

椅子直し代

一金拾貳圓也

段通拾二枚代

一金百參拾九圓也

下駄箱、椅子二十脚、ランプ六個

建築に對する同情

尙ほ我が教會建築に當り、市内組合四教會及び各地教友が甚大の同情を現はし、多額の寄附を寄せられたる事は茲に芳名を摘記し永く好意を感謝せねばならぬ。

大、阪、教、會、

- |          |        |     |        |
|----------|--------|-----|--------|
| 五圓       | 原田義一氏  | 五圓  | 星野茂吉氏  |
| 五拾圓      | 高木貞衛氏  | 拾圓  | 田口たけ姉  |
| 拾圓       | 小泉澄氏   | 拾五圓 | 荒井榮藏氏  |
| 五拾圓      | 淺井友太郎氏 | 五圓  | 石神亨氏   |
| 拾圓       | 宮崎ぬい姉  | 拾圓  | 宮浦菊太郎氏 |
| 五圓       | 矢部外次郎氏 | 五圓  | 澁川忠七郎氏 |
| 參圓       | 桂松之助氏  | 五圓  | 片岡利一郎氏 |
| 其他略      |        |     |        |
| 天、滿、教、會、 |        |     |        |
| 五圓       | 石橋爲之助氏 | 五圓  | 堀内謙吉氏  |
| 拾圓       | 今井樟太郎氏 | 五圓  | 松岡歸之氏  |

浪、花、教、會、

- |            |        |     |        |
|------------|--------|-----|--------|
| 五圓         | 前川啓太郎氏 | 五圓  | 小堀平吉氏  |
| 五圓         | 緒方銈次郎氏 | 拾圓  | 青木庄藏氏  |
| 參圓         | 竹内正八氏  | 其他略 |        |
| 五圓         | 大野種次郎氏 | 五圓  | 村上廣次氏  |
| 參拾圓        | 原新七氏   | 五圓  | 前神醇一氏  |
| 拾圓         | 船橋福松氏  | 其他略 |        |
| 島、之、内、教、會、 |        |     |        |
| 五圓         | 荒木和一氏  | 五圓  | 井口昌藏氏  |
| 五圓         | 北村六兵衛氏 | 五圓  | 山口信太郎氏 |
| 其他略        |        |     |        |
| 神、戶、教、會、   |        |     |        |
| 拾五圓        | 田村新吉氏  | 拾圓  | 村松吉太郎氏 |
| 京、橋、教、會、   |        |     |        |
| 拾五圓        | 吉村錢之助氏 | 拾圓  | 福永文之助氏 |

本郷教會 五拾圓 小林富次郎氏  
 鳥取教會 拾圓 奥江清之助氏  
 松山教會 五圓 柳瀬春太郎氏  
 今治教會 五圓 柳瀬義富氏  
 岩見澤教會 拾圓 杉武一郎氏  
 其他略

斯くて竣成せる教會は

敷地 九條中通一丁目百番地

總坪百拾坪一合一勺

建坪 貳拾貳坪半

間口、五間 奥行、四間半

總二階建

前面左右に塔を建設す。

新築移轉時機は明治參拾九年九月であつた。而して當時を追憶する一端として一、土地賃貸借契約證書及び第二次募金趣旨書の寫しを記載する。

土地賃貸借契約書正本

在日本コングリゲーショナル宣教師社團代表者ニシテ右理事ノ資格證明書ヲ提出シタル

神戸市山本通五丁目五拾參番地住居

賃貸主

ゼー・エル・アツキンソン

千八百四拾貳年生

兵庫縣川邊郡尼ヶ崎町ノ内別所村七百七拾八番屋敷士族

賃借主

九條基督教會員

内 田 政 雄

文久三年十月生

大阪市北區中ノ島七丁目貳拾八番地 平民右内田政雄代理兼

九條基督教會員

眞 鍋 貫 一

明治拾參年貳月生

同市西區江ノ子島上ノ町貳拾壹番地士族

九條基督教會員

貸借主

今川 鬼角

明治參年八月生

證人

齊藤 市次

文久參年壹月生

同市同區泉尾町拾四番屋敷平民會社員

證人

齊藤 久

明治六年拾月生

同市同區同番屋敷平民

立會人

中島 瀧藏

明治元年生

右在日本コングリゲーションナル宣教師社團代表者ゼー・エル・アツキンソンハ内田政雄ノ委任狀ヲ所持シ其代理ヲ兼ネタル眞鍋貫一及ビ今川鬼角ト共ニ明治參拾九年四月拾四日公證人古宇田義鼎役場ニ於テ中島瀧藏ノ立合ヲ以テ左ノ契約ヲ締結セリ

但シ賃貸主宣教師社團代表者ゼー・エル・アツキンソン及ヒ賃借主眞鍋貫一今川鬼角等ハ孰レモ其本人ニ相違ナキコトヲ本人ノ面識アリテ氏名ヲ知ル齊藤市次并ニ其妻久ノ兩名ニ於テ之ヲ證言セリ

第一條 大阪市西區九條町番外五百四拾五番地ニアル九條基督教會ハ其會員内田政雄眞鍋貫一今川鬼角

參名ニ於テ組織シ居ル所其教會堂ヲ賃貸主コングリゲーションナル宣教師社團ノ所有地タル九條町百番地ノ拾外四筆ニ建築スル爲メ賃貸其他ノ約旨ヲ次條以下ニ定メタリ

第二條 九條基督教會堂建築ニ要スル敷地ハ壹百九坪九合參分ニシテ之ヲ左ノ賃料ニヨリ賃貸借スルコトヲ約シタリ

一、明治參拾九年七月ヨリ同年拾貳月迄ノ六ヶ月間ハ壹坪ニ付壹ヶ月金參錢ノ割

一、明治四拾年壹月ヨリ同四拾壹年拾貳月迄ノ貳ヶ年間ハ壹坪ニ付壹ヶ月金五錢ノ割

一、明治四拾貳年壹月ヨリ明治五拾年拾貳月迄ノ九ヶ年間ハ壹坪ニ付壹ヶ月金八錢ノ割

右賃料ハ毎月末日必ス賃借主參名連帶義務ノ責任ヲ以テ賃貸主社團代表者方へ持參支拂フ事

第三條 前條期限滿了ノ際ニハ賃借料ハ更ニ双方協議ノ一時價相當額ニ引上クベキ事

第四條 本賃借地百拾坪壹合壹分ハ所定ノ賃料金參千八百圓ニ滿チタルトキハ(所定ノ期間ニ不係)賃

貸主タル社團ハ無償ニテ直ニ其所有權ヲ九條基督教會ニ移付スベキモノトス

第五條 本契約履行上賃借主參名中ニ於テ其權利義務ノ行使ニ支障ヲ生スル場合ハ直ニ除名シ其後任者

ヲ九條教會ヨリ撰定シ之ヲシテ同等ノ位置ニ立タシムルモノトス

但シ本文ニ依リ除名セラレタルモノハ後日何等事情アルモ其權利ヲ喪失シタルモノトス

第六條 家屋及ビ土地百九坪九合參分ニ對スル租稅ハ賃借主タル九條教會員ノ負擔タルベキ事

第七條 本賃借地ハ宗教上ノ目的ニ向テ使用セラルベキモノナレバ若シ之ヲ他ノ目的ニ充ントスル場合ニハ賃貸主社團ノ同意ヲ得ベキモノトス

第八條 本契約ニ關シテ賃貸主社團ト賃借主教會トノ間ニ意見ヲ異ニセシ場合ニハ在大阪組合諸教會ノ教師ニ依頼シ其仲裁ヲ仰キ双方之ニ從フベキモノトス

右關係人ニ讀聞カセタル處一同相違ナキ旨陳述シ左ニ署名捺印ス

ゼイ・エル・アツキンソン

眞 鍋 貫 一 印

今 川 鬼 角 印

中 島 瀧 藏 印

右契約ヲナシタルコトヲ確認スル爲メ左ニ署名捺印スルモノナリ

明治參拾九年四月拾四日公證人古宇田義鼎役場ニ於テ

大阪區裁判所管内大阪市西區北堀江壹番町參拾四番地住居

公證人 古宇田 義 鼎 印

此正本ハ原本ト相違スルコトナキヲ確認ス依テ左ニ署名捺印スルモノナリ

明治參拾九年四月拾四日公證人古宇田義鼎役場ニ於テ

大阪區裁判所管内大阪市西區北堀江壹番町參拾四番地住居

公證人 古宇田 義 鼎 印

## 第二次募金趣旨書

謹啓義キニ宣教師オルチン氏ガ牧師安藤乙三郎氏ト共ニ、大阪西方ノ新開地ナル九條町ニ弘道館ヲ設立シテ傳道ヲ開始セラレテヨリ茲ニ殆ド十年、幾多ノ困難ヲ凌ギ來ツテ基礎漸ク堅ク前途有望ノ幸運ニ向ヒツ、アルハ誠ニ感謝ノ至リト存候、然ルニ最モ遺憾ナルハ、該館ガ借家ナルヲ以テ家主ヨリ屢々轉退ヲ促サレ安ジテ傳道ニ從事シ能ハザル事ト、戶外ニ車人ノ往來頻繁ナルガ爲メ騷擾實ニ甚シキ事ニ有之候、就テハ會員等ハ教會堂建築ノ希望ヲ起シ、明治卅五年ノ春頃ヨリ些少ツ、ノ金圓ヲ蓄積シ、卅七年三月ニ至テハ、大阪築港ノ大道路ニ沿ヘル百坪餘ノ最好地所（九條町百番地、九條警察署ノ北方）ヲ選定スル迄ニ進ミ候處、不幸ニモ安藤氏ハ病ニ罹リテ其職ヲ退カレ、加フルニ日露ノ開戦トナリシタメ、時殆ト休止ノ姿ト相成居候、左レド幸ニ平和ト成リテ我儕ハ建築事業ノ繼續ニ着手シ、牧師内田政雄氏ハ安藤氏ノ後ヲ襲フテ寄附金募集ノ任ニ當ラレ、尙ホオルチン氏ヲ通ジテ之ヲ内外ノ知己ニ訴へ、會員切々神ニ熱來シケレバ、大ニ有志家ノ同情ヲ博シ、大阪ニ在ル組合派ノ四教會有志者ノ如キハ率先シテ多額ノ寄附金ヲ投ゼラレ、今ハ現金ト内外有志ノ豫約金ヲ合シテ壹千八百八圓ノ高額ニ上ルニ至リ候ハ生等ノ誠ニ感喜措ク能ハザル所ニ御座候、然ルニ尙ホ建築及ビ設備費ノ豫算額ニ達セザル事約三百圓ニ候ヘバ、今ヤ少數微力ノ信徒ハ熱誠ヲ凝ラシテ天助ヲ仰ギ且ツ有志家ノ贊助ヲ求メツツアリ、尙ホ牧師

富田政氏ハ本年四月來任以來、内田氏ノ後ヲ嗣ギテ専心募金ニ奔走セラレツ、アル次第ニ有之候、願クハ有志ノ兄弟、姉妹幸ニ生等ノ苦心ヲ賢察セラレ、幾タビカ挫折ノ危難ニ遭遇シテ今ハ殆ンド七八分ノ所ニマデ進ミ來リシ神殿建築ノタメニ幾分ノ献金ヲ投ゼラレ、速カニ成功ノ大慶ヲ得サセ給ハン事ヲ懇願ノ至リニ不堪候、嗚呼コノ樞要ノ地ニ教會堂ヲ建築スルハ精神界道德界ニ一ノ有力ナル砲臺ヲ建設シ軍艦ヲ製造スルモノ也、我儕ハ之ニ據テ滿市ニ横行躡履セル魔軍ト勇戰奮闘セズンバアル可ラズト存候依テ此段貴意ヲ得度ク如斯ニ御座候也 敬白

明治三十九年六月

大阪九條教會堂建築委員

松本久茂

齊藤市次

眞鍋貫一

今川鬼角

伏木カツ

右趣意書は我教會創業時代の概況を述べたるものにして誠に貴重なる資料である。

### ミッションの好意

又茲に一言注意を惹き置く可き事は、中通の百餘坪の地所代價は、全額ミッションが用立て置き呉れしものにして、月々支拂ふ地代金（最初は月五圓五十錢、次年度より月九圓）は、元金消却になるもの

にして僅少の支出を以て遂に我が教會所有になる途を講じ呉れたるボードの好意は大に感謝すべき事である。之に加ふるに建築寄附に於ても、亦幻燈收入に於ても、オルチン氏の幻燈を以て青年會館を借りて擧げ得たる利益にして如何にオルチン教師が、弘道館の爲め活躍し呉れたかは、我ら看過を許さぬと共に、永く感謝すべきものである。同時に當時の會員も、よく一致し、實力不相應の難業を遂行せる努力も先人の功績として、永久に忘却してならぬものである。

斯くて苦心の結晶たる新會堂は竣成したのである。初めて此處に集會を開きしは、明治卅九年九月第一日曜日、大感謝の下に禮拜は守られた。

### 九條の名稱

尙ほ茲に一言すべき事は、我が教會の名稱である。最初弘道館と稱し、創始したるものであるが、漸く教會の體を爲し、特に會堂建築の氣運進むにつれ、地が九條に位置する所より九條基督教會と稱するに到つた。大凡此の稱號は明治卅九年最初の時期なりしかと思はれる。同年六月發表せる趣旨書には明白に九條教會の名稱を使用して居る。尤も此の名稱に關しては語呂が「苦情」に通ずる所より、相當異論も出たものである、然し「苦情が無い」と考ふるならば、敢て九條教會と命名して差支なしとの意見一致を見決定したものである。實に何事につけても「苦情が無い」事こそ基督教會の面目であらねばならぬ。（附言、元來九條なる名稱の起源を尋ぬるに、京都の公卿九條家の定紋ある物品、或る洪水の際



流れて現今九條の地に漂着し、茲にこの地を九條と命名したりとの傳説があると、然らば靈魂の漂流者が落付く可き教會の名稱に、此の名を附するは妥當なりとの考もありしとか謂ふ

### 當時の役員

又我教會の役員功績に就き回顧するに、最も功績ありし人物は第一期に於ては電話局の神代氏、松本久茂氏、婦人にては伏木勝子姉等。又次代に於ては齊藤市次氏、中野篤氏、眞鍋貫一氏の如き、特筆すべき功勞者である。又日曜學校方面にては、西宜立氏清水謙吾氏、眞鍋民江姉、同春尾姉の如きも忘却してならぬ人々である。

### 内田、富田兩師時代の統計

年	教會員の数		年中の増長		年中の減員		差引	小兒受洗在籍	日曜學校出席數
	男	女	計	他行受洗告白轉入	就脈轉出除名	計			
三九	三二	三六	六七	二二	一	七	九	一	六〇
三八	三二	二九	六七	一〇	一	二	五	一	六五
三七	二七	二六	五三	一〇	一	四	二	一	五五

### 經濟上の統計

年	常費	日曜學校費用	會堂建築費	其他集金	傳道部寄附	計	財產
三九	七二	四三	二、二五二	三五	一〇	二、三四九	二、二五二
三八	六八	一三	一、一六	三六	一〇	一、三〇	
三七	四三	一三	一、一六	三五	一〇	一、三〇	

更に此の時代の教會の經費状態を偲ぶ一資料として、明治卅八年度クリスマス寄附金控を記載する  
控書本文のまゝを記す。

齊藤	二、〇〇	小野正道	、五〇
内田政雄	一、〇〇	長野ミネ	、五〇
行徳弘二	一、〇〇	伏木	、五〇
清水謙吾	、五〇	森さく	、三〇
畑	、五〇	八木りゆ	、三〇
田長よしみ	、五〇	田中梨花	、一五
森山とみ	、一〇	吉川橋瓜兩姉	、六〇
倉恒よし	、五〇	木田重治	一、〇〇

楯環	、一〇	ダニエル	一、〇〇
依田増之助	、五〇	オルチン	三、〇〇
湯澤芳保	、二〇	近藤順三	、三〇
汐見常吉	、五〇	田頭みさを	、七〇
眞鍋	一、〇〇	松澤ちか	、一〇
今川	一、〇〇	松澤	、二〇
酒井	、五〇	平井	、二〇
堤	、五〇	黒田いせ	、三〇
秋山乙吉	一、五〇	武田きよ	一、〇〇
松本久茂	一、〇〇	兒島	一、〇〇
鹽谷	一、〇〇	日高傳三部	一、〇〇
吉田秀次部	、五〇	山口、木村	、五〇
大阪谷信子	一、〇〇	中野篤	、四五
合計	二八、〇〇		

クリスマス收支決算

収入之部	支出之部
一金貳拾八圓也	一金貳拾五圓參拾錢八厘
収入總高	支出總高
生徒へ贈物	生徒へ贈物
菓子密柑代	菓子密柑代
福引諸費	福引諸費
教師への贈物	教師への贈物
諸雜費	諸雜費
車代(借品返済の爲)	車代(借品返済の爲)
差引殘金貳圓五拾壹錢貳厘	外に寄贈品
一みかん	貳箱

## 富田 教 師

富田教師と當教會との關係は、同教師はオルチン教師の日本語教師にして、我教會を助けられ、内田牧師辭任後、二宮牧師着任まで、約十ヶ月、主任者の如く精神をこめ盡力せられた好意は忘れてならぬものである。然かも此期間會堂新築の大業は成就し、又齊藤市次氏夫妻の轉會あり（同氏は九月新會堂移轉最初の集會時を、轉會の機會とせられし如し）氏は爾來三十年の長年月忠實なる執事、管理人、日曜學校々長。會計等として盡力せられ、今日も矍鑠として居らるゝ事は、愉快なる事である。同氏轉會間もなく、大に任じ、且つ現にオルチン教師の信望を得、明治四十年一月二日遇々神戸に旅行中の二宮平次郎先生に就任方交渉に赴かれた。而して同年第一日曜（一月六日）應援せらるゝ約を得られたのである。之れ二宮牧師招聘の端緒にして、正式には明治四十年二月一日着任せられたものである。

## 二宮平次郎牧師時代

（自明治四十年一月 至昭和九年九月）

二宮平次郎牧師の着任は、正式に當教會牧師としての招聘にして、就任五ヶ年にして、獨立するとの約束下に着任せられたものである。且つオルチン教師は、同牧師には相當額の報酬援助を惜まざる事を申出でたるに係らず、然かも第一年は月々五十圓、第二年は拾圓の減額、第三年、四年と、遂に五ヶ年にして補助を斷る方針下に、敢て少額の補助に甘んじて就任せられたのである。時恰かも九條中通新會堂は竣成し、移轉後間もなき時であり。牧師就任翌月、即ち明治四十年三月廿二日、大阪部會を兼ね、捧堂式は執行せられた。當時牧師が引繼がれたる會員の實數、男子廿六名、女子廿七名、計五十三名。内現任會員僅かに三十二名であつたと。

今二宮牧師在任廿有八年間の主なる事跡を記すに當り、之を便宜上三期に別かつ事とする。即ち

第一期 明治時代（明治四十年一月より同四十五年末日）

第二期 大正時代（大正二年一月より同十五年末日）

第三期 昭和時代（昭和二年より先生退任せられたる、同九年八月まで）

無論之の分類は、内容發展の経路より見て妥當なるものに非るも、然かも各々の時代は又全體を通じ躍進時代、發展時代、且つ充實時代に該當する所がある。

## 第一期 明治時代

### 當時の情勢と我が教會

時恰かも明治末期であると共に、日本組合基督教會は此期間教會獨立の氣勢大に擧り又其の擴張の意氣大に燃ゆるもの、ありし時代である。即ち明治三十九年元旦を期し、全國補助組合教會中、組合教會關係至密のものは凡てミツシヨン管理を離れ、傳道會社之が經營に任じ、又此年各地に集中傳道を舉行し豫想外の効果を博した。この傳道法は當時に於ける一新機軸にして、受洗者、求道者續出、信徒の信仰を警醒する所甚大であつた。現に其の年の神戸に開かれたる總會の如き非常の盛況にて尠くも此の年は組合教會史上最も紀念すべき一年と稱されて居る。次で四十年即ち二宮牧師着任の年は又集中傳道の熱心に繼續せられたる年にして、前年受洗者の數未曾有と稱せられたるに拘らず、更に前年を凌駕する盛況であつた。翌四十一年前年程集中傳道の効果學がらざりしと雖も、獨立教會の數を増加する點に於て、所謂自治獨立の進歩に對しては一里塚を劃した年である。明治四十二年、同四十三年、同四十四年

は、所謂擴張傳道の行はれし年にして、特に四十三年は、大阪に於ける各教會、就中九條梅田の二教會は一大擴張に狂奔した年である。明治四十五年は有名な三教會同の行はれたる年にして、基督教も亦日本在來の宗教と同等、地勢確立を證左記念せる年である。

我九條教會は、此の所謂外境を背景とし、加ふるに新進の新牧師を得て、異數の受洗者を出し、又教勢の大振起を來たし、將來の教會の地勢基礎の確立に最も目覺しき活動の時代であつた。

### 躍進時代の統計

今教勢躍進の狀況を統計にて見るならば左の通である。

年	教會員の數		年中の増員	年中の減員	差引	小兒SS	禮拜
	男	女					
明治	400	50	37	87	28	20	94
	41	67	57	124	31	96	45
	42	72	65	137	33	93	46
	43	77	70	150	35	91	47
	44	82	75	163	37	89	48
	45	87	80	176	39	88	49
	46	92	85	189	41	86	50
	47	97	90	202	43	84	51
	48	102	95	215	45	82	52
	49	107	100	228	47	80	53
	50	112	105	241	49	78	54
大正	1	131	124	270	51	76	55
	2	146	139	285	53	74	56
	3	161	154	300	55	72	57
	4	176	169	315	57	70	58
	5	191	184	330	59	68	59
	6	206	199	345	61	66	60
	7	221	214	360	63	64	61
	8	236	229	375	65	62	62
	9	251	244	390	67	60	63
	10	266	259	405	69	58	64
	11	281	274	420	71	56	65
	12	296	289	435	73	54	66
	13	311	304	450	75	52	67
	14	326	319	465	77	50	68
	15	341	334	480	79	48	69
	16	356	349	495	81	46	70
	17	371	364	510	83	44	71
	18	386	379	525	85	42	72
	19	401	394	540	87	40	73
	20	416	409	555	89	38	74
	21	431	424	570	91	36	75
	22	446	439	585	93	34	76
	23	461	454	600	95	32	77
	24	476	469	615	97	30	78
	25	491	484	630	99	28	79
	26	506	499	645	101	26	80
	27	521	514	660	103	24	81
	28	536	529	675	105	22	82
	29	551	544	690	107	20	83
	30	566	559	705	109	18	84
	31	581	574	720	111	16	85
	32	596	589	735	113	14	86
	33	611	604	750	115	12	87
	34	626	619	765	117	10	88
	35	641	634	780	119	8	89
	36	656	649	795	121	6	90
	37	671	664	810	123	4	91
	38	686	679	825	125	2	92
	39	701	694	840	127	0	93
	40	716	709	855	129	0	94
	41	731	724	870	131	0	95
	42	746	739	885	133	0	96
	43	761	754	900	135	0	97
	44	776	769	915	137	0	98
	45	791	784	930	139	0	99
	46	806	799	945	141	0	100
	47	821	814	960	143	0	101
	48	836	829	975	145	0	102
	49	851	844	990	147	0	103
	50	866	859	1005	149	0	104

右統計に見る如く明治四十一年受洗者四十四名、轉入者十六名、計六十名を加へた。又同四十三年受

洗者七十八名と云ふ驚歎すべき發展を見た。當時祈禱會の如き九條教會は波が打つて居ると言はれ羨望せられたる程、聖靈の恩化著しいものがあつた。之れ一面全國の組合教會の躍進時代でありしと共に、又新牧師の熱力と指導宜敷を得、且つ全會員も協同的努力を惜まなかつた賜にして、教會歴史上最も愉快な時期なりと言はねばならぬ。

此の時期の經濟統計を掲ぐれば左の如し。

年	常費	SS費用	會堂建築費	其他	傳道部	計	財產
明治 四〇	一〇六	二二		八四		二一四	二、〇七五
四一	三三四	五九				三八二	二、一五〇
四二	四四〇	三三		八七	一三	五七三	二、二五〇
四三	五八六	四〇		二〇三	五	八三五	三、二五〇
四四	五九八	四九	一、〇〇〇	三〇三	一〇	一、八九九	三、二五〇
大正 一	九九二	二二	一九三	二二四	二	一、四三三	三、三五〇

### 明治四十年度

二宮牧師を迎へて一年後、明治四十一年一月十七日金曜日午後七時より開かれたる總會の概況を記せば以下の如し。(之れ四十年度の結果である。)

二宮牧師、議長となり、書記教務報告及び會計報告、會員規定につき議し、役員の改選を行ひ、終りに親睦會に移り一同感謝に満ち午後九時三十分散會した。

書記清水謙吾氏の述べたる教務報告

一ヶ年間の受洗者數 二十名 (男十五 女五)

同 轉會者數 十名

同 永眠者數 一名 (男子)

同 轉出者數 四名

現在會員數 八十七名

内男子五十名 女子三十七名

内市内會員五十九名 市外會員二十名 不明會員八名

教狀報告

禮 拜 五二回 一回平均 三十七名

夜 會 五二回 同 五十九名

祈 會 四六回 同 十七名

聖 研 一八回 同 十二名

求道者會 同 十名

會計中野篤氏の報告

收入之部

一金百貳拾八圓參拾貳錢也  
一金七拾九錢六厘也  
合計金壹百貳拾九圓拾壹錢六厘也

内譯

金百〇六圓四拾七錢也  
金八圓八拾六錢也  
金拾貳圓九拾九錢也

支出之部

一金壹百參拾圓參拾錢五厘  
金六拾六圓也  
金貳拾參圓四拾四錢五厘也

内譯

前年度繰越  
總收入金  
教會臨時寄附費  
別收入  
總支出金  
地價償却金  
薪炭費

以上

(繪入方キ捧堂式)

金貳圓九拾八錢也

金參圓六拾錢也

金四圓五拾錢也

金六圓四拾貳錢也

金五拾貳錢五厘也

金參圓參拾錢也

金拾八圓也

金四圓八拾錢五厘也

差引勘定

一金壹百貳拾九圓拾壹錢六厘也

一金壹百參拾圓參拾錢五厘也

差引金壹圓拾八錢九厘也

一ヶ月平均收入

同 平均支出

八・八七三

一〇・八一五

給水料  
旅費  
保險料  
傳道費  
通信費  
設置具費  
心付け費  
雜費  
給水料  
旅費  
保險料  
傳道費  
通信費  
設置具費  
心付け費  
雜費  
收入高  
支出高  
不足金  
教會費  
總支出

前年比較收入及支出共に三分ノ一強増額

右會計

明治四十年十二月廿五日クリスマス祝祭會

決算報告

一金四拾五圓六拾錢也  
一金四拾貳圓五拾錢也

總寄附金  
總支出金

眞鍋貫一  
中野篤

内譯を略す

クリスマス祝祭會會計主任

白井力

右

教會書記

日曜學校書記

會計

クリスマス會計主任

清水謙吾  
同  
中野篤  
白井力

異議ナク諸報告ヲ受クル事ニ決ス

議事

一 本年度ヨリ執事ヲ三名トナス事 可決

一 新ニ式典委員(葬儀、晚餐、婚禮、其他)ヲ設ケテ男、女各二名ヅ、選舉スル事 可決

三 凡二年以上住所不明會員ハ會員名簿ヨリ削除スル事 可決

次ニ會員衛藤克己君ハ立テ教會ヲ代表シ舊役員ヘ謝辭ヲ呈ス

引續キ役員改選

一、執事 齊藤市次(再) 松本久茂(再) 白井力(新)

二、會計 中野篤(再) 眞鍋貫一(再)

三、書記 井上好光(新) 石上敬治(新)

四、式典委員 眞鍋爲(新) 平井林太郎(新) 長野ミネ(新)

今川フミ(新)

五、日曜學校々長 齊藤市次(再) 清水謙吾(再) 以上

明治四十一年度

二宮牧師明治時代の活潑なる働の一つなる明治四十一年度記録が幸ひ全部残れるを以て、其の概況を紹介し、當時汪努なりし進展振を偲び今日の参考とする。

一月廿四日金曜、集中傳道相談會。

一月卅一日金曜、同傳道準備祈禱會。

二月二日日曜、武田同志社牧師來援。

來る四月に催す可き集中傳道に關する準備的アツピールを爲す。同日夕會「善と惡」と題し説教、來會者男四八、女三〇、計七八。

二月十四日金曜、家族傳道に付き祈ると共に、集中傳道準備の爲め今後毎日曜早天祈禱會を行ふ事を決す。

二月十六日日曜、午前六時より早天祈禱會第一回を行ふ。井上氏司會、會者男四、女一。

二月廿一日金曜、集中傳道準備に就き祈る終つて協議、此の日眞に一致團結正に勝利の感があつた。協議事項 一、二宮牧師の新案則ち自今教友會(求道者會)を組織する事。二、過日來會員が訪問しつゝある求道者の實況報告。三、豫備戰として來月十五日演說會を開く事。

二月廿三日日曜、禮拜後、來る十五、六日に開く集會に對し、委員を擧ぐ。書記主任、相川君。書記井上好光君。準備員、眞鍋貫一君、中野篤君、清水謙吾君等である。此の日の早天祈禱會は出席八名。同日夕拜後、先づ教友會員を募集す。直ちに七名の加入申込ありたり。來月十五、六日演說會の入場券作製に關し打合す。

二月廿八日金曜、集中傳道準備に就き祈る。牧師は悲觀的所感を述べて獎勵。

更にこの二月姉妹教會梅田が創立に際し我が教會の牧師、青年會員等は熱心應援す。

三月二日午前六時、早天祈禱會、來會五名。

三月六日金曜、「福音を傳ふるに恐るゝ勿れ」にて祈る。相川兄熱烈なる獎勵あり。來會者廿三名。

三月八日日曜、牧師は「進乎止乎退乎」と題して説教。閉會後集中傳道委員決定。

書記主任、相川兄、書記井上兄、會計中野兄、石上兄、講師接待員、執事三名、外瀬成田姉、眞鍋民江姉。會場接待員、瀬成田兄、眞鍋貫一兄、平井姉、田長姉。音楽隊主任オルチン教師外數名。訪問員、全會員。以上。

三月八日日曜夜、講師宮川經輝先生「新道德」會者一六三名(但し十五、十六日の豫定を改め八、九日に行ふ)

三月九日月曜、早天祈禱會七名出席。(日曜朝を月曜朝に變更)

同日夜再び宮川牧師説教「新宗教」會者一六三名 聴衆感極て嗚咽に堪へざるものありき。會後教友會員の募集あり、前夜既に三十名の申込あり、當夜は更に八名を加ふ。

三月十五日日曜、禮拜後從來水曜に行ひし聖書研究會を中止し、求道者宅にて行ひ集中傳道の準備とする事。第一回を九條町四、古河兄宅に開き、從來木曜日齊藤兄宅に開きしものを隔週とし、一方野田町なる瀬成田兄宅にて催すことに決定す。

四月三日金曜 齊藤兄司會「集中傳道に對し」てとの題下に祈る。



## 土地買收の件

四月四日記事には、當教會は會堂敷地を其所有主コングリゲーションナル宣教師社團より、代金參千七百貳拾四圓拾錢にて豫め買收する約束を結び、其代金仕拂に付ては八箇條より成る條件下に本日午後七時公證を受く。豫約買主ジョージ・オルチン。豫約買主白井力、眞鍋貫一、齊藤市次、同證人中野篤、井上好光の諸氏である。

### 土地豫約買收條件付契約證書正本

明治四拾壹年四月四日大阪區裁判所管内大阪府大阪市西區北堀江壹番町參拾四番地公證人古宇田義鼎役場ニ於テ末記當事者間ノ契約ニ付本職ハ其囑託ヲ受ケ各當事者ノ陳述ヲ聽キ川端治作ノ立會ヲ以テ其契約證書ヲ作成スルコト左ノ如シ。

第一條 大阪市西區九條町百番地ニ於テ建設シアル九條基督教會其會員白井力、眞鍋貫一、齊藤市次ノ參名ハ其教會堂ノ敷地タル大阪市西區九條町百番地ノ拾外四筆合計壹百九坪九合參勺ヲ其所有者タル「コングリゲーションナル」宣教師社團ヨリ代金參千七百貳拾四圓拾錢ニテ豫メ買取ル約束ヲナシ之レガ代金支拂ニ付次條以下ニ定メタリ

第二條 前條土地代金參千七百貳拾四圓拾錢ハ之ヲ一時ニ支拂フコト能ハザルヲ以テ左ノ方法ニ依リ年

賦支拂ヲ爲スモノトス

明治四拾壹年壹月ヨリ同拾貳月迄ノ壹ケ年間ハ六拾六圓同四拾貳年壹月ヨリ壹ケ年百八圓以上適宜其支拂ヲナス

第三條 前條年賦支拂代金ハ毎年豫約買主參名連帶義務責任ヲ以テ豫約買主タル宣教師社團代表者方ヘ必ズ掛參支拂ヲナスモノトス

第四條 本地即チコングリゲーションナル宣教師社團所有地ハ其年賦支拂額ガ代金ノ金額タル金參千七百貳拾四圓拾錢ニ滿チタルトキハ年賦期限ノ有無ニ拘ハラズ宣教師社團ニ於テハ直ニ其所有權ヲ九條基督教會ヘ移付スルモノトス

第五條 本契約履行上豫約買主參名中ニ於テ其權利義務ノ行使ニ支障ヲ生ズル場合ハ豫約買主ニ於テ之ヲ除名シ其後任者ヲ九條基督教會ヨリ撰定シ之ヲシテ同等ノ位置ニ立タシムルモノトス  
但シ本文ニ依リ除名セラレタルモノハ何等ノ事情アルモ後日一切本件ニ關スル權利義務ヲ有セザルモノトス

第六條 家屋及ビ其土地百九坪九合參勺ニ對スル租税ハ豫約買主タル九條基督教會ノ負擔タルベキ事

第七條 本契約ハ宗教上ノ目的ニ向テ實行ヲ爲スベキモノナレバ豫約買主參名ハ勿論壹名タリトモ擅ニ本約ノ家屋土地等ヲ債務ノ擔保ニ供シ又ハ賃貸若クハ他人ノ使用ニ供スル等ノ契約行爲ヲナサザルモノトス但シ止ムコトヲ得ズ之ヲ宗教外ノ目的ニ充テントスル場合ニハ必ズ豫約買主タル社團ノ同意ヲ

得ベキモノトス

第八條 本契約ニ關シ豫約賣主社團ト豫約買主教會員トノ間ニ於テ意見ヲ異ニセシ場合ニハ在大阪組合諸教會ノ牧師ニ依頼シ其仲裁ヲ仰ギ双方之ニ從フ義務アルモノトス  
關係人ノ表示

在日本コングリゲーシヨナル宣教師社團代表者ニシテ其代表者資格證書ヲ提出シ且ツ中野篤、井上好光ノ兩君ニ於テ其本人タルニ相違ナキコトヲ證言シタル

大阪市西區川口町參拾壹番住居

豫約賣主

ジョージ・オルチン

千八百五拾貳年生

同市同區九條町貳千貳百五拾八番屋敷士族

九條基督教會々員

豫約買主

白井力

文久三年一月生

同市北區中之島七丁目貳拾八番地平民

九條基督教會々員

同上

眞鍋貫一

明治拾三年二月生

同市西區泉尾町拾四番屋敷平民

右眞鍋貫一代理兼九條教會々員

同上

齊藤市次

文久三年一月生

同市同區江戸堀上通貳丁目貳拾八番地平民

九條基督教會々員

證人

中野篤

明治拾七年一月生

同市同區九條町六百五拾四番地士族

九條基督教會々員

證人

井上好光

明治拾參年十一月生

同市同區南堀江下通四丁目貳百八拾壹番屋敷

平民無職

立會人

川端治作

天保八年生

齊藤市次ハ眞鍋貫一ノ委任狀ヲ提出ス  
右關係人ニ讀聞カセタル處一同相違ナキ旨陳述シ左ニ署名捺印ス

ジョージ・オルチン

白井力

齊藤市次

中野篤

井上好光

川端治作

右契約ヲシタルコトヲ確認スル爲メ左ニ署名捺印スルモノナリ

明治四拾壹年四月四日公證人古宇田義鼎役場ニ於テ

大阪區裁判所管内大阪市西區北堀江壹番町參拾四番地住居

公證人

古宇田義鼎

此正本ハ原本ト相違スルコトナキヲ確證ス依テ左ニ署名捺印スルモノナリ

明治四拾壹年四月四日公證人古宇田義鼎役場ニ於テ

右契約ヲシタルコトヲ確認スル爲メ左ニ署名捺印スルモノナリ

公證人

古宇田義鼎

此の契約に依り、九條教會は月々宣教師團に月賦支拂の責任を負ふも、然し會て民家借家時代と異なり、己が土地、己が會堂にて何らの制付なく集會の自由を得たるに至りしは、ミツシヨンの厚意に依るものにて我等は感謝置く能はざると共に、無より有に歸したる今日隔世の感に堪へぬものである。

### 集中傳道

更に本年度集中傳道に就き

四月五日日曜 二宮牧師の「大氣魄」と題し説教、開會後男女十二名残り、五月舉行、集中傳道は内外諸種の關係より豫定運動より規模縮少の要を説き、一同の意向を促す之に對し二時間に渉る討議の結果遂に牧師一任に決す。

四月十一日土曜 牧野虎次牧師「宗教問題の解決」の講演あり會者二四名。

四月十二日日曜 禮拜、武田猪平牧師の説教あり。夕拜も同じく武田牧師「人生革新」にて語る。滿堂靈氣溢る。最後に牧師は決心者に起立を促せしに殆んど全員勇で起立し決心の色歴然たり。會者一〇七名、就ほ當夜の聽衆四分ノ三迄求道者。

四月十五日水曜 教友會懇談會、會者四十七名。

此の頃の集會人員を列記す。

四月十九日 日曜夜	二宮牧師	會者八〇名
同 廿四日 日曜	祈會	三二名
同 廿六日 日曜	禮拜	四六名
同 夜	夕拜	七四名
同 廿七日 月曜	祈會	三〇名
同 廿八日 火曜	祈會	三一名
五月一日 金曜	祈會	三三名
五月三日 日曜	朝拜	澤村重雄牧師
同	夕拜	森山副牧師
同 四日 月曜	傳道	渡瀬牧師
同 五日 火曜	同	牧師
同 六日 水曜	教友會	西尾牧師
同 八日 金曜	祈會及諮問會	五八名
同 十日	禮拜二大禮典	二宮牧師
		七三名

此の日司會相川兄。受洗者廿四名轉會者十名此の内今日も我教會に留まる者、古河善録君。桂佳市君。伊藤貞君。三谷ヨシエ姉。轉會者にては、三谷徳松君である。

五月十三日 水曜 歡迎會、司會瀨成田兄。齊藤執事の挨拶に次ぎ二宮牧師の獎勵、庭野兄の入會者を代表して答辭あり、夫より餘興に移り、迎へらるゝ者交々起て辯するあり、歌ふあり十二分歡を盡す。會者六十七名。

其後祈禱會會衆は五月十五日三十五名。五月廿二日四十九名、五月廿九日三十三名。夕會の如きも五月十七日八十二名、五月廿四日八十三名。五月三十一日八十名と云ふ盛會。

尙ほ追撃戰の意味を持ち、六月七日ロランダ教師、同九日宮川總三郎君この時は一四五名。六月十日加藤直士君一一一名。六月十一日和田琳熊君七七名の状態にて、夫等の結果、七月五日に又受洗式を行ふ。

更に此の年の應援牧師、澤村重雄氏、松本益吉氏、馬場銈作氏等がある。又八月廿八日臨時總會を開き。

一、豫定の集中傳道を廢し、其費用百五十圓を十ヶ月に配分し、毎月凡十五圓を以て小運動を開始する事

二、教會の發展につれ、必要上評議員十數名を新選する事、其の選舉は役員會に一任の事決す。

尙ほこの年のクリスマス、十二月廿五日金曜日開きしが、大人百十名、小兒二百九十名計四百名。菓子準備二百五十人分なりしも更に五十を増したるも其上數十の不足を見たる盛會であつた。

四十二年總會時の報告議事

明治四十二年一月廿二日開きたる總會に於て報告せられたるものは、

一、會員異動

井上(好)兄報告

四十年

四十一年

受洗者

二〇

四四

轉入者

一〇

一六

計

三〇

六〇

就眠者

一

〇

轉出者

四

二

除名者

〇

二二

計

五

二三

差引増員

二五

三七

二、會計報告

中野兄報告

收入之部

教會費實收

二九六・七〇〇

別 收 入

一〇・四四〇

ランプ五、賣却

五・〇〇〇

臨時寄附

五・五〇〇

銀行利息

二・四二〇

前年度繰越金

八・一一一

小 計

三三三・七四三

十一月借入金

一〇・〇〇〇

合 計

三三三・七四三

支出之部

地價償却金

六六・〇〇〇

牧師報酬

九〇・〇〇〇

ガス代

一九・〇八〇

石炭代

八・三五〇

給水料

四・二〇〇

旅費

三・一六〇

火災保険料

一一・〇〇〇

傳道費	六・四九〇
器具費	四一・三九〇
通信費	九七五
諸會催費	四・七二〇
臨時費	二一・三〇〇
心附け	二四・〇〇〇
諸雜費	六・二六五
小計	三〇六・九五〇
合計	一五・〇〇〇
差引殘金	三二一・九五〇
三、日曜學校	一・七九三
在籍生徒	四十年 九八
出席生徒	四十年 九八
四、三錢講報告	四十年 二一〇
	四十年 一三五
	白井兄報告

遂次會衆増加ノ爲メ今ノ會堂ニテハ満足スルヲ得ザルニ付本講ヲシテ右速成セシムルニアリ、信者ニシテマダ三分ノ一位ヨリ支出ナキハ遺憾ノ事ニ付右支出信者ヲ網羅シタキ希望ヲ述ブ。

五、財政ノ件報告 齊藤兄報告  
地代三千圓に對し昨年迄は毎月五、五〇本年よりは九、〇〇を要す。本年の維持費五百圓を要し一ヶ月約四十五圓の割なる事承知ありたし。

六、傳道方法 本年の標語を「傳道」とし會員一致牧師を助け其の使命を全ふすべし。

七、略  
八、役員改選

- |      |     |     |     |
|------|-----|-----|-----|
| 執事   | 齊藤兄 | 白井兄 | 風早兄 |
| 會計   | 中野兄 | 眞鍋兄 | 桂兄  |
| 書記   | 井上兄 | 關本兄 | 伊藤兄 |
| 式典委員 | 桂兄  | 眞鍋兄 | 丸山姉 |
|      |     |     | 長野姉 |

明治四十二年度

四十二年一月會計報告 (此の報告を見れば當時の狀況が一段分明する故紹介仕様う。)

收入之部

前年度繰越金 一・七九三  
 献金實收 二九・三五〇  
 傳道會社補助(ミツション) 四〇・〇〇〇  
 合計 七一・一四三

支出之部

地代償却金 九・〇〇〇  
 牧師報酬 三五・〇〇〇  
 同住宅料 一五・〇〇〇  
 西口氏心付ケ 三・〇〇〇  
 ガス 代 一・三六〇  
 ガス設置月賦 二・九五〇  
 石炭半噸 四・一〇〇  
 給水料第一期分 一・四一〇  
 マントル代 一・二〇〇

總會及送別會不足

雜費 二・一五五  
 合計 六二・〇  
 差引不足金 四・六五二

茲に注意すべきはミツション補助である。牧師着任の時月五十圓、此の年より四十圓斯くて年々減額しつつあるのである。

明治四十二年に於ける重要事項

- 一、二月六日日高兄宅に於て開きし評議員會に、教會保存登記の必要を認め、登記料十二圓支出方に就き相談す。又海老名先生大講演會を計畫したるも、後之は實行不能となる。教會管理者には松木氏欠員となりしを以て日高兄推選。前記保存登記は齊藤市次、白井力、眞鍋貫一の三氏名記にて明治四十二年三月十九日登記終了す
- 二、本年日曜學校は校長齊藤市次幹事關本尾和利、教員白井力、風早實馬、中野篤、木内瀧、ミセス、オルチン、鹽谷菊野、眞鍋春尾、風早千萬、宮川ます、井上茂、小笠原齊、二宮わさであつた。
- 三、明治四十一年六月頃より、教會堂設立願書を府廳に呈出したるも、其の取扱ひに府自ら困却し、然し幾度かの折衝の後漸く明治四十二年六月三十日附けを以て許可證下附となる。許可證寫し左の如し。

本年五月十七日付願九條基督教會堂設立ノ件聞届ク

明治四十二年六月三十日

大阪府知事 高崎 親 章

四、同年四月頃より婦人傳道師招聘の件話頭に上り、七月小林キン姉を招聘、七月十六日その歓迎會を開く。

五、八月一日記録に昨午前四時頃より北區天満より發火、本日午前十一時迄姿燒す。この事件に關し、祈禱會大に燃ゆるものあり。且つ各教會と協力救済に盡力す。

六、此の年の特別傳道、前年程熱意はなかりしも、然かも四月十八、十九、二十日長田牧師(九七名)武田牧師(八八名)、宮川牧師(九三名)を招き特別集會を試み、又夏に入り、木村清松牧師の特別説教會を催す。七月十四日夜は「悲雲慘憺」十五日夜は「鮮血淋漓」と云ふ奇拔な題であつた。兩夜を通じ會者二百五十名、求道者廿數名。尙ほ臨時に、村田平三郎牧師の「福音圖解」を二夜催し多大の教訓を與へ

らる。秋季に入り十一月十七、十八日兩夜、好地方太郎氏の「悔改談」を聴く。之れ又多大の感銘を與へ會者三一四名。

七、同年十一月五日祈禱會後、共勵會發會式を行ひ、委員を學ぐ、更に同月十九日夜役員選舉を行ひ左の如く共勵會役員を決す。

- 會長 濱谷理吉郎 兄
- 副會長 井上好光 兄
- 會計 日高善市 兄
- 書記 中野篤兄 桂住市兄 以上

### 明治四十三年度 擴張傳道之年

明治四十三年は我教會擴張傳道遂行の年である。前々年の場合と異なり、特に大阪を擴張する爲め、總合教會は主力を集む。今二宮牧師の「戰機熟す」の一文を紹介する「こゝ兩三年來成らんとして行はれざりし我大阪組合諸教會の擴張傳道は、天意人心の和する處、機こゝに熟して一月廿三日其準備大會は大阪教會に催された。試みに其中我九條教會に關する基督教世界誌の一節を抜萃せんか。次に二宮牧師の實に愉快なる勸話あり、氏は九條教會の此運動に對する喜悅と興味とを述べて、此大運動に参加するの光榮につき滿腔の感謝を表せられ自分の本年の標語は「並足」なりしが會員は最早並足にては満足



せず須らく「突撃」すべしと云ふ意氣込にて」云々。同志は更に其教會彙報に「九條教會は二日三日兩夜準備説教會を開く由、同教會の意氣込は非常なり」と。又其次號に「市内五教會中の弱者たる同教會は此機に乗じて一大飛躍を試みざるべからずと此處を先途と活動しつゝあり去一、二、三日の三夜は準備説教會を開き何れも大盛況を呈せり、少數の會員各々時と金とを献する約束をなし運動費百數十圓は立處に整へられたりと、會員歡喜の狀見るも心地よし」と報せり」云々と。斯かる氣合にて活動したる結果、茲一年間の受洗者實に七十有八名。寔に驚く可きものである。

本年一月十四日定期總會。主なる件は小林傳道師滿期なれども今一ヶ年引續き依頼の件滿場一致可決更に新役員、執事齊藤市次、白井力、風早實馬、會計、中野篤、眞鍋貫一、日高善市、書記、桂住市古河善録、式典委員、長野みね、井上しげ、眞鍋爲之助、富永芳太郎、校長齊藤市次、同幹事桑村萬吉の諸氏である。

尙ほ一月廿八日夕臨時總會、主題は來三月擴張傳道計畫及豫算の件にて、聯合分擔金貳拾圓、及當教會運動資金百圓(内百圓オルチン氏寄附)決定、即坐募金の結果廿五口百拾四圓五十錢を得、軍資既に早く充實勝利の大勢疑ふ可からずと報ぜらる。尙ほ其の後の寄附者に由り、百八十五圓拾錢に達す。即ちミツヨン補助金を合せ貳百八十五圓拾錢に達したのである。而して行はれたる擴張傳道の概況は

運動日數

四十七日

内白石牧師

二月九日—廿七日

渡瀬牧師

三月四日—十七日

守田牧師

同上

大集會

九回 二月中三回

三月中六回

小集會

廿三回、二月中十三回

三月中十回

大集會聽衆一回平均

一四五名

小集會同上

二三名

求道申込者

七一名

洗禮志願者

八八名

受洗者

七二名

而して應援教師を列記すれば、禮拜説教者、武本牧師、平田牧師、金子牧師、露無牧師、網島牧師にして傳道説教者、東メソヂスト柳原牧師、澤村牧師、東教會川添牧師、長田牧師、宮川牧師、加藤直士氏、白石牧師、渡瀬牧師、デフォレスト師、牧野牧師、網島牧師、守田牧師、小崎牧師、海老名牧師であつた。此機會に教會に加はりし人士にして今尙ほ残り居る人は齊藤胸一兄、田頭規矩一兄、桑田和助兄、及勝部高麗姉、先き頃故人となりし石井谷枝姉もこの時の加入者である。

十月廿一日追悼大記念會を催し、誠に盛大なる會合百十六名出席、内五分演説を爲したる者十數名なりき。

尙ほ本年の消息を語る文章として牧師の「諸愛見姉へ」を紹介する。

拜啓我教會本年の擴張傳道は不準備無經驗なるに拘らず天父の厚き恩寵と諸見姉の熱心なる御奮勵とにより比較的多大の成功をなし且つ我等教會員自身の訓練上大に得たる處有之中候更に掉尾の運動としては青年會の勃興並に其の講演會の盛況の如き教會より何等物質的助力を與ふることなく教會外青年六七分を占め特に其發會式當夜は將來有爲の青年のみ百名を超過し堂上爲に狭き感ぜしめたるが如き誠に感謝致す可き儀に有之候斯く多大なる天父の御愛護を辱ふし神國擴張の一勢力となり魔軍撃退の使命を授けられたる我等は新年を迎ふると共に更に新なる精神を得周到なる計畫を爲し以て天父の知遇に報ひ奉る可きは當然に有之申候云々

以上は本年掉尾の消息を概括せるものと見る事が出来る。更に會計は

總 收 入 一〇七〇・七三五

總 支 出 一〇一九・三一五

差引不足金 四八・五八〇

但し本年の收入中注意す可きは三月迄ミツション補助月額三十圓宛なりしを、四月より二十圓に減額す。

### 明治四十四年度

明治四十四年は「克己」てふ標語を掲げ、我意克服を目標とした。新役員左の如し

執 事 重 任 齊 藤 市 次

同 同 白 井 力

同 新任 濱 谷 理 吉 郎

會 計 主 任 齊 藤 市 次

同 同 中 野 篤

書 記 井 上 好 光

同 同 山 本 慶 行

日曜學校長 齊 藤 市 次

三月十日より連夜大説教會を催す、説教者、保羅教會山田祐、浸禮教會今井革、天満長田時行、鳥之内山口金作、傳道會社幹事澤村重雄氏。

### 信 徒 大 會

四月三日信徒大會を催す。小林傳道師の送別會もあり、新會員歡迎會、各會員誕生奉教感謝會開かる

後臨時總會を開く。主題は

- 一、會堂狹隘に付本年クリスマス迄に増築する事
  - 二、増築委員は齊藤(委員長)白井、濱谷の三執事となし評議員を以て増築評議員を兼ねしむる事
  - 三、設計並に豫算に關しては委員一任
- 因に小林傳道師は四月五日新任地宮崎へ出發せらる。
- 四月音楽會を舉行し、利益金十一圓餘。
- 九月一日青年會主催にて通俗學術講演會を開く「結婚とは何ぞや」法學士小方芳樹氏「天然と科學」工學士宮川總三郎氏

### 百日傳道會

尙ほ年末に「百日傳道會」を組織す。其の主意下の如し「我々有志は普通の傳道方針を手ぬるし」となし「手に唾して咄嗟一城を抜く」突撃的傳道を試み以て局面一變の序幕を開かんとす」而して其の誓約には「天長節より紀元節迄の百日間に於て會員は必ず他に一人以上の悔改者を神に導く事」幹部には幹事中野篤兄、井上好光兄、藤井志成兄、記録委員下森三兄(西村)なりき。

本年受洗者十六名、轉會者八名、禮拜出席四十七名、夕拜六十一名、祈禱會廿八名。

總收入金 一〇七六・六七六

總支出金

九八九・四六六

差引殘高

八七・二一〇

以上

この收入中注意すべきは、三月迄ミツションより月二十圓補助、四月以降十圓となる。

### 明治四十五年 (大正元年)

一月十九日本年度總會を開く。主要なる議事として、増築に關し資金募集の件可決。その委員、奥上重吉、古河善録、石上敬治、眞鍋貫一、藤井志成、桂住市、濱谷康、田頭操、長野ミネ、日高ユクの諸氏である。又献金二割方増額の件可決。新役員は執事、齊藤、濱谷、白井、書記、井上、下森、會計齊藤、日高、日校長、藤井志成氏なり。

### 會堂増築

二月廿三日誠に前年の希望たりし増築が不思議なる助勢に由り落成す。其祝會を兼ね百日傳道會の靈獲者三十餘名の歡迎會も開く。この増築に關しては堀江の旅館主山本葉那老婦人の義舉に由るものにして、奥行一間半の延長である。由來山本老姉は信者に非るも牧師に大なる信任を抱き、増築に關し費用を超越し申込みたりしも、當方は前記一間半にてよしと爲し多少遠慮する處ありしわけなり。その經費

幾何なりしか今も知る能はず。然し會員も亦此増築に加へ、諸設備に出費する所あり、今寄附大要左の如し。

會員の寄附 一七一・八〇〇

宣教師團の寄附 五〇・〇〇〇

某氏寄附 五〇・〇〇〇

其他收入 四・二八四

合計 二七六・〇八四

外に椅子三十脚分木材、長椅子用布團三十脚分、座布團五十枚の寄附があつた。

### 自給決行

更に特筆すべきは、本年四月よりミツシヨシ補助金全額辭したる事、即ち豫定通り五ヶ年にして獨立せる事である。此の斷行に當り會員ならざる某氏、補助辭退に對する同情より、金百圓を寄附す。

五月十四日自給大感謝並に大親睦會を行ふ。

此の年七月英邁仁慈維新の大業を全ふせられたる明治大帝崩御せらる。

九月廿日より十二月卅一日に到る約百日間再び第二回「百日傳道會」を催す。

十月十一、十二日兩夜、山本葉那氏主催の下に故山本他四郎追悼記念演說會を催し、講師海老名。渡

瀬、露無、内田の四牧師を聘し行ふ。兩夜の來會者四百四五十名増築以來の大集會なり。

本年受洗者廿七名、轉會者六名、收支決算、收入壹千百參拾壹圓五十壹錢、支出壹千百五十四圓十七錢五厘、差引不足廿二圓六十六錢五厘。

### 六年間の總括

今二宮牧師就任後六ヶ年の教狀並に財政進歩の跡を辿れば、現任會員卅二名が百七十二名となり、其の間全受洗者二百〇四名。年平均三十四名、經濟は常費百〇六圓が壹千圓を越す事となり。教會は増築し、諸般の設備も整ひ、面目一新の感がある。且つ有形以外に幾多の人物が教會に加はり、大正、昭和を通じ基礎確實となれる土臺を礎く、思へば此の第一期の活躍進展は誠に目覺ましと申す可きである。

## 第二期 大正時代

### 十四箇年の概要

我教會は大正二年以降、同十五年に渉る十四年間の歲月を顧るに、全體から謂ひ極めて健全なる發達

を遂げたものである。第一大正四年春、御座たか姉の決意に基き、中通會堂裏の空地に自己住居を建て之を牧師館の基礎となし、又ミツシヨンの名記より蟬脱し得ざりし舊土地の最後の仕拂ひも御座たか姉の義金に由り全部消却。全くミツシヨンの經濟的支援を斷る事が出来、文字通りの自給獨立の教會となる尤も斯かるミツシヨンの所屬教會としての躍進は御座老姉一人の貢獻のみに由るものに非して、全會員の祈りと努力の賜たりし事は忘れ得ぬ事である。特に奥上重吉兄の如き、之が爲め熱涙を振つて祈つた事なども忘れ得ぬ記憶である。然かも最後に及んで之れが敢行の出来得た事は、前記御座老姉に負ふ事は永く記憶すべき事である。何れ大正四年の記録中再び老姉を偲ぶ事とする。且つ此の事ありしが爲め、大正六年獨立教會として、進んで組合教會に加盟し、又大正七年之を極めて高價に賣却し、現在九條南通二丁目二百數十坪の地所を購入し、新堂宇建築の斷行が出来た。又我教會は新堂宇竣工と相待ち、茲に日本組合基督教會總會の會場たる事を引き受け劃期的奉仕を爲し。然かも一躍先輩教會たる、島之内、浪花教會に互し、否夫を凌駕して發展を見たる、誠に神が我が教會を恵み給ふたと共に、善き牧者の奮闘に負ふ事は明瞭たるものである。今此の十有四年間の足跡を年次に従ひ記述しやう。

### 大正二年度 内部充實

我が教會は明治末期二宮牧師の着任と共に大に傳道戰線を擴大し、集中傳道、擴張傳道に依つて躍進したるが、茲に大正に入り、牧師の方針は内部の充實に向ひ、例へば家拜の獎勵、組分けに由る活動、

集會數の上進を目標とする等銳意充實に力を注ぐ。尤も本年一月我が教會の恩師オルチン教師は來朝滿三十年に達せるを以て、十二日―十四日、來朝三十年感謝紀念大傳道會を催し、講師に宮川、長田、山口、澤村の四牧師と佐島理學士、廣岡女史を聘す。又同月廿一日梅田教會に於て、同教會と聯合の下に大感謝會を持つ。

一月十七日日本年度定期總會、改選せられし役員、執事齊藤、濱谷、白井、會計齊藤、中野、書記井上、下森、日校長、下森、評議員日高(長)石神、池田、石上、小野、奥上、勝部、竹内、眞鍋、古河、木村、宮本、瀬成田の諸氏である。

百日傳道は婦人會に於ても行ひ、活動の主なる方面は、祈禱會五十、日曜夜說教會百を目標にしたものである。

更に此の年の三月より四月に亘り、明治十六年東京に勃發せる信仰復興、恰かも三十年に該當する所より「復興大祈禱會」を聯合にて催し、我教會も幾度も、信仰復興の爲め祈る獎勵者、宮川、桑田、杉田、馬場、武田、森山の諸師なり、大に靈火に浴す。

八月より九月中旬まで、日、火、金の三夜、野戰を行ふ。每會七八十、田中、加茂、奥上、西村、四宮井上の諸士熱辯を振ひ、婦人は「教友」配布に力を盡す。

尙ほ牧師この年の秋「開書」として會員に訴へしものを見るに「此處兩三年來は専ら外部に對つて教會の主力を集注して居りましたが、今秋は役員及特志兄弟諸君の熱心なる希望と同情に由り内部靈力充

實の目的に對つて「家拜同盟」とも稱すべき……家庭禮拜を勃興せしめん爲め活動を開始すること、  
なりました」云々と。

又月番委員制を設け、九條東組、九條中組、九條西組、本田組、中之島組、三軒家組、南組、境川組、  
築港組、浪花組に別け、月番委員は教會報告を配布し、並に其月の献金を取纏め、最終の日曜日迄に會  
計に渡すこと。又會員の轉居、病氣、生死等の出來事を月番委員に通告する事であつた。

本年受洗者十九名。轉會八名、禮拜五十二名、夕會四十三名、祈禱會卅八名、

總収入金 一・一七三・〇一一

總支出金 一・一〇七・〇五五

差引殘金 六五・九五六

### 大正三年度

一月十六日午後七時半總會を開く。議長齊藤市次兄、改選の結果は執事齊藤、濱谷、白井、會計齊藤  
中野、書記井上、木村、日校長、西村(辭任)評議員石神、馬場、堀江、小野、奥上、勝部、竹内、眞鍋  
古河、木村、日高、瀨成田の諸氏

主なる決議、牧師俸給六十圓とする事、御座姉存命中毎年百圓宛寄附の件之を受納し内六十圓は牧師  
増俸に宛て殘四十圓は役員會にて使途を講ずる事、次年度より總會を一月第二日曜午前とする事などで

あつた。

二月廿三、廿四日蠶湖主筆高橋卯三郎氏の説教會を開く、又三月七、八日

信仰生活の秘義 澤村重雄君

國民歴史の轉機 米澤尙三君

ナザレのイエス 松井文彌君

ファウストに就て 山口金作君

聽衆平均百二十名宛

尙ほ二月「活動寫眞會」を催し、百七十餘圓の利益を擧ぐ。目的はオルガン購入、殘金は傳道的用途で  
ある。

四月牧師は挫傷の爲め休養、暫くにして不相變の活動を繼續せらる。

五月御座老姉、毎年百圓の献金を變更し、額面壹千圓の公債寄附せらる。

又同月三、四、五の三夜三井芳太郎、村上教授、神戸の村松吉太郎氏の演說會を開く。

九月頃より來年開かる可き協同傳道につき準備祈禱會初まる。

此の年の受洗者十七名、轉會者七名、日曜學校九十七名、禮拜五十四名。

本年は歐洲大戰の勃發したる年にして、社會一般は一時非常なる不景氣状態であつた。其の影響なる  
か本年少額の不足金を生ず。

總收入金 九九二・九四五  
 總支出金 一・一〇八・七五〇  
 差引不足金 一一五・八〇五

### 大正四年度 協同傳道の年

此の年歐洲大戰彌々進展す。他方日本全國にありては各派協同の所謂協同傳道大に活躍せる年である（大正四、五、六年の三年に渉るもの）我が大阪にて前年より多少の準備を初め、先づ一月本式の準備運動を初め、三月更に第二回準備運動、五月に及び盛んなる協同運動を行ふ。先づ一月廿三、廿四日兩夜行へる運動左の結果なり。

一月廿三日 道德に餘所行なし 大村忠二郎氏  
 信仰生活の妙趣 武本喜代藏氏  
 會衆百五十名 求道者十四名  
 一月廿四日 人生の聖別 川中勘之助君  
 人生の要求と基督 畠中博君  
 會衆二百名 求道者二十名

次に三月十五、十六日の兩夜にも、エルスキン氏、米澤尚三氏、山口金作氏、桑田繁太郎氏の應援を受く。所謂協同傳道大運動は本市は五月一日より十六日まで。其の内十二、三日にも各教會に特別集會を行ふ。

更に六月十三日協同傳道後の集會情況報告を見るに、我が教會は、  
 朝「二つの道」 オルチン教師 四九名  
 夕「趣味ある生活」横川四十八君 一四三名  
 又七月一日より三日間組合派内部のみの集中傳道を行ひ我教會は講師園田重賢氏を招く。

一日「宗教は貿易の如し」  
 二日「不如意は神に至るの道」  
 三日「精神的病氣の最良療法」

の講演會を催す、十數名の求道者を得。

更に夏季八月基督教世界に寄せたる報告を見るに「目下の教勢は祈禱會三十名以上時には五十名に達する事あり、日曜夜の傳道説教は、教會傳道部員の活動大に與てつ力あり。暑中と雖も毎會平均百名の聴衆あり。未曾有の好況とも評すべきかなれど、眞の求道者と稱すべき者は少數なるが、内部の元氣は常に旺盛なり」と。教會當時の状態を描き得て充分である。又此の年組合教會總會、大阪に開かれ、其の機會に持ちし傳道集會は、砂川竹藏氏高橋繁藏氏應援せらる。幸ひ我教會は、大阪教會を除き最多の

會衆を集めた。越へて十一月三日小崎弘道先生を招き特別集會を催す。斯かる協同傳道の餘波を受け一年間の受洗者廿六名。禮拜出席五十二名。

尤も協同傳道で多事なりし此の一年に於て我教會は御座たか姉の特別寄附千八百圓外に登記手数料二百圓を受け、茲にアメリカン・ボード社團の債務に對し、左の決議書を作製す。即ち舊敷地の地上權も時日のみの問題にて我が教會の有に歸す。之れ全く御座たか姉の特別献金の賜にて我等は既に故人となれる同老姉に深甚の感謝を捧げねばならぬ。該契約書寫しは左の如し。

### 九條教會トアメリカン・ボード社團トノ債權債務ノ關係

明治參拾九年九條教會ハ同教會ト右社團トノ間ニ訂結シタル契約ニヨリ無利子ニテ金參千五百圓ノ債務ヲ負ハレシガ大正四年拾貳月迄ニ八百八拾八圓九拾錢ヲ拂込マレ且同年同月一時ニ金壹千八百圓ヲ拂込マレタルニヨリ未拂殘額八百拾壹圓拾錢トナレリ。右社團ハ右壹千八百圓ノ年利五分ノ割合ニテ大正五年壹月ヨリ、右未拂殘金ノ拂込ヲ受ケツ、アルモノト認ム。

アメリカン・ボード社團決議書

アメリカン・ボード社團理事會ハ左ノ次議ヲ致申候

大正四年拾貳月ノ終迄ニ九條教會ガ金壹千八百圓ヲ同社團ニ拂込マルル時ハ同教會ハ同社團ニ對スル債務一切ヲ完済セラレタル事ヲ承認致候且同教會ガ大正拾參年拾貳月迄ニ財團法人トナルノ準備ヲセラ

レ其準備完成シテ愈財團法人トナラレタル時ハ同社團ハ同教會敷地ノ所有權ヲ大正拾參年拾貳月ニ於テ該財團法人ニ譲リ渡スベキ事ヲ契約致候尤モ大正拾參年拾貳月以前ニ於テ財團法人トナル事完成シ且其時以後ノ未拂殘金ニ相當スル金額ヲ一時ニ提供サル、時ハ右期限以前ニ於テモ土地所有權ヲ右社團ヨリ同財團ニ譲リ渡スベキ事ヲ契約致候

附記右土地所有權ヲ譲リ渡ス時ハ登記料外一切ノ手数料ハ該財團法人ニ於テ負擔サルベキ事

アメリカン・ボード社團々長

オーラス・ケリー

同 會計 M D ダニング

九條基督教會牧師 二宮平次郎

同 執事 齊藤市次

同 同 馬場筆吉

同 同 濱谷理一郎

大正四年拾貳月 日

右感謝すべき契約により我教會は同年十二月十日を期し、大感謝祈禱會を開く。幸ひその時の案内狀を紹介し、この欣びを長く記憶する資料と仕様う。

拜啓御存知の通り兼て我が教會の地代は年々ミツシオンへ償却し來り候處此度御座老姉の特別なる御



寄附に由り全然償却の途相立ち我が教會百年の基礎茲に相立ち申候就ては、  
來る十日午後七時より會堂に於て

### 大感謝祈禱會

相開き申候間萬障を排し必ず御光來被下度右御案内申上候 匆々

大正四年十二月五日

九條基督教會執事

殿

〔參考〕 地所代金參千五百十六圓五十錢

内金八百九拾七圓九拾錢 大正四年十二月迄に償却せし總高、殘金貳千六百十八圓六十錢也

一金千八百圓也 御座たか子姉寄附

不足金八百拾八圓六拾錢は該寄附金をミツシヨンに提供しミツシヨンは大正十三年まで保管し其間に於ける利息を以て補充することゝす。

一金貳百圓也 御座たか子姉寄附

此金は 大正拾參年九條教會(法人)への登記に關する諸入費に指定寄附せられしを以て同年迄教會に於て保管利殖の道を立つる事

以上

尙ほ同年に於ける決算概要を記せば

一總、收、入、金、

一・一六〇・四七五

内 譯

常 費 献 金

七三三・五一〇

禮 拜 献 金

三四・三三五

感 謝 献 金

一三八・四〇〇

ク リ ス マ ス 寄 附 殘 高

一五一・五六〇

雜 收 入

二・六七〇

一總、支、出、金、

一・二一四・〇二〇

差引殘高

四六・四五五

クリスマス の爲め集金したる全金額貳百拾七圓六拾貳錢にして、他に諸寄附を得た。然し此の寄附金中クリスマス の全費用六拾八圓〇六錢 殘金百五拾一圓五拾六錢之は經常費中に繰入る。

同年の會計齊藤市次兄、クリスマス寄附に關する委員馬場筆吉氏、白井力氏、小野八郎氏。

尙ほ本年の受洗者廿六名轉入者一名、禮拜五十二名、祈禱會卅四名。

### 大 正 五 年 度

本年總會の結果役員改選左の如し、執事男五、女二、濱谷、齊藤、馬場、日高、小野(八郎)御座たか

濱谷康子、會計齋藤、濱谷、小野(八) 書記近藤、寺西、村田哲休、日校長中野、評議員幹事本村清一郎氏他に十三名。

本年は我教會創立貳拾年記念に該當せるを以て、四月三日祝祭日に、盛んなる祝會を執行す。司會齋藤執事、宮川牧師は「進取の氣分」と題し演説出席者二百五十名。盛會なりき。之が爲め又幾多の講師を招き特別集會も行ふ。その頃青年達大に路傍に立ち活動を試む。更に協同傳道實行の年として大阪にも各教會を中心の集會、秋季に行はれ、相當收穫を納めた。

今我教會を應援せし講師の芳名を列記すれば、園田牧師(二月四日)山口牧師(二月十一日)津荷牧師(二月十八日)渡瀬牧師(二月二十日、廿五日)杉田、澤村兩牧師(四月二日)牧野牧師(七月二日)協同傳道に於ては

十月十五日 一五〇名 同十六日 一四九名。

又十一月十三日 一〇一名

「我の改造」

長谷川 徹氏

同 十四日 一〇二名

「覺 醒」

アキスマング氏

## 牧師の入院

然し斯かる記念の年なりしに拘らず、我が二宮牧師は九月廿四日夕拜後より發病、全快感謝會は十二月八日迄二ヶ月餘、一時はバルナバ病院に入院、其の後は鹽屋コザト氏別荘に靜養せらる。協同傳道中も病床にて祈り暮された模様なり。其の時の牧師「病感」中の一節に左の文字がある。

九月廿四日夕拜の後、十貫目位の鉛を結付けた様うな感じで足を引摺つて歸つた。其翌朝からは頭が擧らなかつた。石神學士の懇切なる治療も病の潜伏期と來ては其驗の著しからぬは無理はない。妻は看病と家政とで晝夜不眠不休の己むなきより、此のまゝにて共斃とならんよりはと、決然十月三日の午後バルナバ病院に入院する事とした……して更に人間の側から云へば余は萬事を暫時抛棄つて置く事が出來た、新聞は固より友人からの信書さへも耳に入れない事にした。して幾日でも何も思はず何も考へず唯泰然自若として居る事が出來、長き秋の夜も左のみ長いとも思はず一睡だも能きないに尙ほ夜の明けを待ち遠く思ふ事もなかつた。が或朝病院内の禮拜の讚美歌が戸の開いて居た爲に、隣室にでも歌つて居る如くに明瞭に聞けた、……めぐみ深き主のほかの歌……余は心の誓を忘れて此節に泣かれた。堰止めてあつた川の水が一時に決潰した様に、神の恩寵が胸中に溢れて來た……如之現在の病床こそは眞のベテルで神の我に恤み給ひし恩寵の絶頂である事を深く感ぜしめられ、最も大なる光明の中に全身浸され居る身の嬉しさを感じずには居られなかつた。が忽ち是すら感情的になり過ぎては聖旨にあ

らじと思ひ直ちに之を制して元とく、の虚心淡懐となつた。云々

此の牧師靜養中、園田牧師の應援を受け朝夕の集會を續く。

基督教世界の掲載に由る「十二月十日聖日には朝拜會衆五十五、二宮牧師の「恩寵の餘瀝」と題する説教。夜は「國民全體」の題下に園田牧師の傳道説教あり。會衆七十五名。因に久しく病氣療養中なりし、二宮牧師は今回病氣全快せられしを以て去る八日感謝祈禱會を催し、一同天恩の渥きに感謝した。會衆八十名、寔に靈氣に充てる會合であつた。なほ同日は親睦會を開き出席百二十名を算し、盛會にて各歡談に時を移して散會した」云々と。

### 會費制度の採用

又此の年に教會財政上一大英斷を試みし事は特記せねばならない。即ち一方會員は會費として一人二十錢、而して別に維持費を募り、現在の教會財政の不足を補充する案にて、一の目的は全會員が誰人でも平均に會費は納入すべきものとの原則に立ち能ふ事ならば教會維持は會員全體の僅少の會費にて支持する理想に立つものである。之れが實行は大正五年七月より行ふ。

此の年の受洗者及財政左の如し。

受洗者十七名

轉入者二名

計十九名

轉出者 八名

除名者二名

計 十名

禮拜出席平均五十五名

祈會平均廿九名

### 會計報告

#### 收入之部

常費 献 金 (自一月至七月)

三九九・七二〇

會費 献 金 (自八月至十二月)

一三〇・六〇〇

人員百六十人

維持 献 金 (自七月至十二月)

一三九・六五〇

戸數四十戸

禮 拜 献 金

四六・七八五

感 謝 献 金

九九・三八〇

前年度末不足補充献金

六七・五四〇

二十年記念會特別寄附金殘額

二四・九一五

クリスマス寄附金殘額

一六二・〇六〇

雜 收 入

七・九五〇

合 計

一・一七八・六〇〇

#### 支出之部

牧師報酬	七二〇・〇〇〇
堂守手当	八四〇・〇〇〇
傳道費	三六〇・〇〇〇
瓦斯代	三八・六〇〇
電燈代	一〇・六二〇
石炭代	一六・六〇〇
印刷費	三三・七五〇
給水料	四・七九〇
器具及修繕費	一四・五一〇
地租	一七・〇八五
火災保險料	一七・一〇〇
親睦會其他會催費	一三・三五〇
日曜學校	七・〇〇〇
部會費	六・〇〇〇
通信費筆墨代	八・五一〇
生花代	二・二五〇

臨時費	六六・〇〇〇
道路撒水費	六・〇〇〇
諸雜費	一三・八一〇
大正四年度不足金繰越高	二三・六三六
本年度剩餘金	三八・九八九
合計	一・二七八・六〇〇
我教會は別途積立金を現に有し其の勘定左の如し	
大正五年度繰越	三一四・六〇七
利息	一一・三三九
合計	三二五・九四六
更に傳道費會計は左の如し	
大正五年度繰越	八一・〇九五
内演說會費用	六・六〇〇
會堂二階天井板張代	七四・四九五
差引	零
以上	

## 大正六年度

本年度に於ける最重要事件は、當教會が一月十九日開催したる總會に於て、自給獨立後五ヶ年の成績より毎年大凡壹千圓以上の収入あるに鑑み、自給の基礎堅固なる確信より七月を期し日本組合基督教會に加入の件を満場一致可決した事である。而して執事改選の結果齊藤市次(重任)日高善市(重任)水谷好太郎、木村清一郎、竹内正紀、瀬成田静子、眞鍋千枝子の七氏を擧ぐ。  
又二月六日青年會左の宣言を爲す。

### 倍加傳道宣言書

我等青年會員は我が教會決議の主旨に基き其目的を達せんが爲に一人が他に一人を導く所謂倍加傳道を開始勵行し大能者祝福の下に諸兄弟の賛同を得以て本年中に新なる悔改者一百名を神の聖壇に獻げんとす。

#### 参 考 (總會決議)

我等教會員は我が教會創立廿五年記念祝會の當日大正十年一月迄に現在會員を一千名に増加せしめん事を期す。

以上の如き決意の下に大飛躍を期待する所があつた

三月二日、執事齊藤市次兄、婦人會書記小笠原トシ子姉、十年間役員として在任せる感謝會を開く、婦人會、青年會、教會等より夫々紀念品送呈、教會代表として木村兄、青年會古河兄、婦人會二宮夫人瀬成田姉、夫々感謝の辭を述べ和氣藹々の中に散會した。

三月廿五日以後毎日曜大毎に説教廣告掲載を竹内正紀氏の好意にて實行、之れ今日に迄及べる事は同氏を永く記念すべきものである。

又本年變れる集會としてオルチン教師の「天路歷程」幻燈會を一月を初めとし毎月第二日曜夜五回に涉り集會せる事である。會者多き時は百四十六名、平均百十六名の出席を見た。九月青年會の運動として向ふ三ヶ月間青木由太郎氏應援を受け毎土曜夜幻燈説明説教會を催す。十一月十七、十八日繼續傳道として協同傳道延長の特傳を行ふ、武本牧師、宮川牧師の講演あり、兩夜を通じ二百名の出席。

其他我が教會の功勞者御座たか子姉喜壽祝賀會を六月廿二日開く、男八十、女七十三、計百五十三名の盛會裡に一夕を感謝す。其他當教會特別應援に援助せられし講師は山口牧師、園田牧師等である。特に園田牧師は四月廿二日より廿六日迄五日間連夜講演會を催す。今その題は、「表面と暗流」「百年前の夢」「人を動かす途」「偉人の温情」「安全第一に就て」であり出席、平均五十餘名。

十月廿六日、木村清松氏を聘し「南洋視察談」を聴く。

又十一月十七、八日武本牧師の「信仰の根據」「靈能の天地」の講演あり、毎夜百餘名の出席。

### 組合教會へ加盟

更に此の年我教會はミツシオンを離れ組合教會に加盟したりし事は前述せるが、當時ミツシオンと交渉せる記念文書を紹介す。

拜啓天恩の下各位益々御清適奉恭賀候 陳ば弊教會事五年前より全く自給致し候處基礎漸く堅實なるを得將來限りなく我西大阪の靈的燈臺たるの任務を果され得可き確信相生じ申候これ全く天佑の致す處たるや勿論に候へ共又貴社ミツシオンの經營と指導者たりしオルチン教師の畫策宜しきを得たるものとかねく感謝罷在候然る處今日迄は一に自教會の發展にのみ全力を傾注し來りしも今や同主義教會即ち日本組合教會に加入し以て神國擴張の爲に貢獻致し度ものと會員協議の上決議致し候茲に貴社より蒙りたる多年の恩誼を感謝すると共に、此旨御通告に及び申候 尙ほ過去廿年間ミツシオン又は個人として同情を賜はりし各位別て恩人オルチン教師夫妻へ宜敷御傳達下され度更に將來と雖も友情的御援助相仰ぎ度願上候 終に貴社の世界的偉業の上に皇天の祝福の裕かならん事を相祈申候

敬 具

紀元千九百十七年五月廿日

九條教會牧師 二宮平次郎  
同 執事 連 名

アメリカンボードミツシオン 御中

此の感謝狀に對するミツシオンよりの返書左の如し。

拜復御鄭重なる御書に接し、我がミツシオン年會は非常に歡喜に滿され申候 貴教會は愈々増々御隆盛の域に進みつゝありて、既に五年前より自給致され、その基礎も強固に赴き近く組合教會に御加入の御計畫の由承はり一は以て神の御祝福の豊かなるを感謝し二は以て貴教會の牧師役員及諸兄弟の篤信と御熱心による事と奉慶賀候 何卒此後ともに益々主の御指導により貴教會が幾重にも盛大に赴かれん事を祈願する所に御座候先は御挨拶迄斯の如くに候 敬 具

大正六年六月一日

アメリカン・ボード・ミツシオン

書記 オーチス・ケリー

九條教會 牧師執事殿

更に日本組合教會は幹事の名に由り左の書信を寄す。

拜啓天恩の下愈々御清榮の段奉賀候陳ば兼て御申出に相成居候貴教會加盟の件今回理事會に於て御承認の事に決議相成り申候間何卒左様御承知願上候尙ほ今後一層の御同情御協力により本會發展の爲め御盡力被成下度切望仕り候先は右乍略儀御通知旁々御挨拶申上候也 早々敬具

大正六年七月十一日

日本組合基督教會幹事

九條教會牧師 二宮平次郎様侍史

又本年は右の如き獨立、且つ加盟教會となりしを以て教務も振起し、一時聖靈の火焰に燃さるゝ状態であつた。又教會は憲法を制定し七月六日臨時總會にて議決し、更に教會自體の組織革新を計り共勵會の組織に倣ふ所あつた。

十二月より市岡中學のブリツチヨン氏のバイブル、クラス開設す。

本年の受洗者二十名、轉會者九名、禮拜六十六名(躍進である)、祈禱會廿七名。

本年の收支を記せば

一總、收、入、金	一・四七二・六九五
一前年繰越金	三八・九八九
合 計	一・五一一・六八四
收入金内譯	
會員義務 献金	二九五・八〇〇
維持 献金	四九五・六三〇
禮拜 献金	七一・〇一五
感謝 献金	二〇九・一〇〇

クリスマス寄附金残り

雜 收 入	三九二・五〇〇
一總、支、出、金	八・六五〇
差引 残 金	一・三九七・七〇五
別、途、積、立、金	一一三・九七九
繰 越 金	三二五・九四六
利 息	一一・二九七
常 費 残 金	一一三・九七九
一月十五日迄の収入残高	一・二四八
合 計	四五二・四七〇

大正七年度 前進運動の年

本年我教會の標語は「戦争気分」我組合教會は向ふ三ヶ年間「前進運動」を遂行す。之れ日本を三分し、六千八百圓を以て活動する意気込みなのである。

又社會一般も本年は非常時気分にて、八月十六日米騒動あり、尤も十一月に入り、大正三年來の歐洲大戰は、聯合國勝利下に平和克復を見る。同時に新時代又改造の新語大に流行す。我教會は「前進運動」

を利用し、誠に稀有の大運動を試む。

先づ一月十五日大阪教會に於て京阪神三部會、卅八教會教師有志信徒百二十三名相會し、前進運動發會式を擧ぐ。我教會より、日高、同い、齊藤、桂、同孝、井上、同茂子、櫻山、同久子、村田、前田、小山、久保、石上、大塚、眞鍋等諸氏出席、翌日も懇談祈禱會を行ふ。

二十四日總會 新役員は

執事 齊藤市次	同 日高善市	同 水谷好太郎	同 木村清一郎
同 瀨成田格	同 星野たか	同 眞鍋とも	
會計(主)齋藤市次	日高善市		

の諸氏である。

### 青年會の運動

尙ほ夫より先き二十日夕拜後青年會總會には會長古河氏副會長村田哲侖氏役員重任、本年度傳道作戰計畫を立て、倍加を前進に改め、路傍説教を繼續する事、求道者を導く事特に青年會特別運動に百二十圓、婦人會も同額の寄附を依頼し、大に活躍せん事を期す。尤も其資金調達法に關し意見沸騰し、遇々古河氏立ち、先づ自ら五十圓寄附を申出す、御座姉も三十圓支出の内意ある事を漏す。之を以て勇氣百倍し、夫等を基金とし別に青年會は方法を講じ資金獲得に當る事とし、大覺悟を與へらるゝと共に感謝

充滿の會合となる。

二月七日執事部長の就任式加ふるに前進運動發會式を執行す。

二月十、十一日はケリー、オルチン、ヤングレン、エルスキン四氏の外國人のみにて説教會を開く會者百十九名成功せるものであつた。

### 前哨戰

三月三日彌々前進運動前哨戰として五日間に亘り武田猪平牧師講演會を開く。

其演題及會衆左の如し。

三日	暗より光へ	會衆 一二〇
四日	基督より神へ	八七
五日	死より生へ	八八
六日	生甲斐ある生涯	八七
七日	眞の基督者	八一
八日	婦人會(野の百合を見よ)	
十日(日)	朝拜 基督の兄弟思想	六四

之の運動の結果求道者三十六名與へらる。



四月一、二日前進運動資金獲得の音楽會を開く、兩夜を通じ五百五十の入場者成功せるものであつた  
四月十一日より三日間同志社日野眞澄教授講演會を開く、之も前哨運動である。演題及會衆は  
十一日 神の愛と世の向上心 七六  
十二日 基督教の記號 七九  
十三日 救済の靈力 七二  
求道者五名。

更に五月一日より三日間最後の前哨戰を行ふ。講師賀川豊彦氏

一日 イエスの態度 一一九

二日 神の友アブラハムの信仰 九七

三日 神に歸る心 一〇三

特に賀川氏の各集會のあと、連夜六七十名の有志残り、前進運動の爲め熱烈なる祈禱會を催し、戰はざるに勇氣充ち、靈獲戰に臨む戰鬪氣分漲るものがあつた。

### 木村牧師の運動

彌々五月十一日より三十日まで、二十日間講師、木村清松氏未曾有の準備の下に活動の火蓋は切らる今此の運動の片鱗を當時の感激の文章そのものを以て紹介仕様う。

「木村講師を迎へるも待遠く感ぜられた。いよ／＼十一日午後四時四十四分大將梅田に着くの電報を手にし、青年達は名士優遇の意味で自働車を命じ、大將は氣嫌美はしく出迎人と一々握手小供等まで楓の如き手を延ばしてその榮譽に浴した。日暮れて後歡迎會、集りし者四十五名。決して多しとは中さぬが講師を目の當り見た一同は一種靈感を得ずしては居られなかつた。講師の獎勵は歡迎會を大祈禱會と化した。凡ての者は靈火に燃されて了つた。

十二日朝拜「靈的障害」男五五女四四名、同夜は二宮牧師の紹介にて講壇に起れた木村牧師は説く事數分にして豫言者と化し、更に數分にして恰かも將軍の如き權威を滿堂の聽衆に認めしめた。百六十名の聽衆中に應じて、我バプテスマを受けて基督者たるべしとの決意を表白した者が四十人聖壇の下に集つた。教師は慈母が愛子に諭すが如く一に聖書を讀め、二に祈禱をなせ、三に教會へ出でよ、四に人々に傳道すべしとの警告を與へられ、二宮牧師の祝禱にて閉會。其の間一時間半、全く神の靈動顯著にして人々を慄然として肌粟を生ぜしむるものがあつた。講師も最初はこんな心算はなかつたらしいが聖靈彼を用ゐて奇しき聖業をなさしめ給ふたのである。此夕の集會は特に廣告はしてなかつたが滿堂の聽衆とは驚いた。次回からは椅子の準備を更に多くするつもりである。

十三日夕(信仰修養會)木村講師の最も有益なる講話あり露骨と直截とを極めたる獎勵には會員たる者一本二本のみか何本も／＼參らされたが講師の無邪氣と親切とに對して誰一人感情を害しさうな者もなく悉く喜んで容れた。當夜は會員のみの積りであつたが、未信者も加はり九十九名、例の決心を催された

時之に應じた者が十一人あつた。

會員の覺悟。準備に取懸る最初こんな覺悟をした。人誰か瑕瑾なからん木村氏と雖も聖人でない夫故  
今回は何等批評の眼を開かぬ事先生は先生で、否大先生として待遇し世人に紹介する事。第二は廣告に  
最善を盡す事、第三は牧師をして悠々旗を振らしめ會員は其指揮のまに〳〵活動する事。特に第二は町  
内會堂側の家々に紅提灯を吊るし、會堂前の大掲示板には講師の紹介文に添へて其顔丈けの水彩畫六尺  
四方なるを掲ぐる事とした。又肖像入りチラシ一萬枚其他も教會相等以上の力を盡されて居る」云々。  
十六日より彌々前進運動説教會である。以下要項目だけ記し概況は想像に任せる。

日	講演會	男	女	計	決心者
十六日	第一回	一八八	六七	二五五	四〇
十七日	第二回(大雨)	八〇	七〇	一五〇	一九
十八日	第三回	二〇〇	一〇二	三〇一	四八
十九日	禮拜	五一	五〇	一〇一	
	第四回	二四八	一〇二	三五〇	五一
二十日	第五回	一九一	八七	二七八	二〇
以上五日間の延人員と決心者				一、四三五	一七八
二十四日金曜		洗禮試問會		告白四四名	出席八七名

二十六日日曜二大禮典

禮拜出席者男一〇六、女七二、計一七八名  
献金六圓七十一錢

洗禮者 五三名 轉會者 一〇名  
尙ほ引き続き運動は繼續せられ。

廿六日	木村牧師(雨)	六八	四二	一一〇	六
廿七日	同 (雨)	七四	五五	一二九	一〇
廿八日	同 (雨)	八九	五七	一四六	一〇
廿九日	同最後の晩	一二〇	七三	一九三	二〇
計				五七八	四六

三十日 新入會者歡迎會及牧師慰勞會 出席一二七名

以上の數字的結果に註釋を加へ得るとせば、會堂は間口五間、奥行六間、椅子以外疊十數枚を敷き婦  
人席を設け、かろうじて三百五十餘の聽衆を收容す。然かも多數は立ん坊状態會場の廣さより云はゞ無  
理の無理である。又他教會員來聴お斷りの掲示を貼出す、之は感情を害した向もないではあるまい。然  
し他教會員は集會見物者である、前回その點經驗済である。然かも今回は前回(九條教會は波が起つて  
居る」と評した)の比でない、ペンテコステさながらなりと評するが至當の勢であつた。

尙ほ二十一日以降二十三日は

廿一日午後一時婦人會 會衆六十名決心者七名

廿二日家庭講演會、古河氏方、會者廿七名

廿三日同 佐原氏方 會者三十名

以上諸結果を綜合せば

全會衆 二、六〇五名

決心者

二八二名

受洗者

五三名

轉會者

一〇名

九條教會四十年の歴史中比肩するなき大活動大成功と云つて過言でない。成功の理由を求むれば、第一講師其人を得し事、第二會員の祈禱と努力に依る事、第三講師と之を迎へたる牧師會員の氣合終始合一したりし事、第四兵站部に懸念せざりし事等である。

此の前進運動の影響は其の後にも及び教勢益々順調を極む。尙ほ茲につけ加ふ可きは本年より久保勢一氏を依頼し訪問に盡力して貰ふ事になる。更に六月九日女學院横川教授を招き、翌十日今泉牧師の來援、前夜八十五名、後夜七十九名の集會。七月廿一日二回目洗禮式を行ひ、更に廿四名領洗當日の會衆百三十餘名。

尙ほ廿一日より八月にかけ日曜夜堂前に椅子を列べ集會す。新しき試みにて頗る盛會。

七月廿六日金曜新入會員歡迎會、其頃會堂の狹隘且つ電車通りの喧囂を理由とし、適當の場所に移轉

の議が起る、恰かもその矢先き、日高執事は日頃の奔走の結果當夜現敷地が、坪四百五十圓程度を以て買手ある報告を齎し、一同驚き且つ欣ぶ。越へて廿八日、臨時總會、相當の替地ある場合、直ちに賣却の件執事たる委員一任の決議を行ふ。

八月十六日米騒動突發、集會に多少の影響あり。

### 新地購入と新築問題

九月廿九日禮拜後臨時總會、更に建築委員を擧ぐ、日高執事委員長となり以後建築に關しては萬事委員委任の件決定す。此の決定後幸ひ、九條南通二丁目、中山海士館跡、二百四十坪買收、十月廿三日登記を終了す。誠に一瀉千里である。

何れ會堂建築竣成の件を記す際、改めて全報告を記載するとするも、此の十月廿三日は、一日間に舊敷地賣却、中山海士館跡土地二百四十坪買入登記、舊敷地が未だ宣教師團名記にて、敷地料精算金を渡して後初めて處分可能となる必要上夫等一切の手續き等々を終了す。次に第二段の大問題新會堂の設計及新築の件である。設計の骨子は全く二宮牧師一人の理想を根本とし、之れに會員阪尾廣太郎氏奉仕的に當り、建築は三谷徳松兄の盡力に預り、倉本氏請負はれ、萬事親切に進捗す。今舊敷地、舊會堂、之に拂ひし會員の祈りと苦心、又アメリカン、ボードの援助、オルチン教師の先見の明、幾多のものが渾然一如となり、遂に現敷地現會堂を現出するに到れるのである。思へば大能の神の見へざる聖手、先人の苦

心且つ未曾有の好況、斷の二字、今人の我等は今更感謝の辭を惜むわけに行かぬ。我九條教會は二宮牧師着任以後、萬事幸運に恵まれ、祈りの如く五年にして獨立、會堂増築、更に大發展之れ、見へざる聖手の御啓導にして只だ感謝の外はない。又殊に敷地處分に就きアメリカン、ボードの示されたる好意も感謝する所であるが、夫の記録が保存され居るを以て茲に挿入し同傳道團に對する感謝を表示仕様う。

### 九條教會敷地に關する依頼狀

我が九條教會にして大正十三年十二月までに財團法人となり、且つ債務完済せし時は、同教會敷地の所有權を該財團法人に譲渡する事、尤も同期間内に財團法人となり且つ其時以降の未拂金に相當する金額を一時に拂込む時は右期限内と雖も土地所有權を右社團より同財團へ譲渡すとの契約に對しては、我が教會發展の必要上此度右敷地を賣却し新なる土地を購入し度き旨二宮牧師を以て社團へ協議せし處社團の委員會は此提議を容れ且つ新たに購入する土地所有權は未だ財團法人たるの暇なきの故を以て數名の教會代表者の名義にても譲渡すとの決議を通告し來れり、此通告に接したる我が教會は直ちに右土地の希望者と適當なる候補地の所有者とに對し賣買に關する契約をなしたり、而して十月十日前後に於て右法律上の手續を完了せんと欲す尙ほ我九條教會とアメリカン、ボード宣教師團と協議の上契約したる未拂金額八百拾圓拾錢に對しては大正五年一月より同七年九月までの二年九ヶ月分金千八百圓年利五分の利息金貳百四拾七圓五十錢に達したれば、差引殘金五百六拾參圓六拾錢の不足となれり。由て此際該

不足金を拂込めば債務一切を完済せし事となれり、茲に是等を認め教會を代表し、御依頼申上候間至急御取運び下され度候

大正七年十月一日

九條教會牧師	二宮平次郎
同 執事	齊藤市次
同	日高善市
同	木村清一郎

アメリカン、ボード宣教師社團御中

尙ほ舊敷地購入金及牧師館建築の基礎を供したる御座たか子老姉は、以上の交渉の最中十月廿一日七十八歳の高齒を以て天の召に應じた。我教會に寄せられたる老姉の義學は我等長く感謝を示さねばならない。翌廿二日崇巖且つ盛大なる葬儀會堂にて執行す。老姉の靈永へに安かれ同年十一月故御座老姉の舊宅は先づ取壊され之を増築し牧師館建築を議決し、翌八年三月、先づ牧師館落成し、同月十五日に牧師一家は移轉す。之れ今日の牧師館である。

之れより先き牧師は十年以上住なれし、境川の居宅は臨港鐵道線路に當り立退を要求され、借家拂底の折柄一時會堂裏、又坂口氏宅等に轉じ、漸く牧師館に納まるに到れるものである。

本年は實に多事今年を顧み、その總括を示せば、受洗者總數八十二名（明治四十三年七十八名より

多き事四名、未曾有の多數)轉會者十一名、合計九十三名、禮拜會衆平均七十一名(之れ又我が教會の最多)祈禱會二十八名。

同年度收支決算報告

収入之部	四〇七・〇〇〇
會員義務献金	五六〇・五二〇
同維持献金	九〇・七五五
禮拜献金	一一二〇・三七〇
感謝献金	一八・二四〇
六年度クリスマス献金残	一一三二・三二〇
七年度同	二・五〇〇
借館料	二・四五〇
聖書販賣	一・五三八・一四五
合計	一・四九四・〇七二
支出合計	四四〇・七三
差引残金	一一三・九七九
大正六年度繰越金	

此の残高合計

別途積立金勘定

大正七年度繰越金	三三七・二四三
銀行預金利子	一一・六三〇
合計	三五八・八七三

クリスマス寄附金

収入之部

寄附金(二二二〇)	四六一・一五〇
-----------	---------

支出之部

クリスマス諸費用	二〇七・六四〇
----------	---------

露國窮民子女への寄附金

二五・〇〇〇

經常會計へ支出

二二九・五一〇 (其後の収入にて二三二・三二〇)

同會計 水谷好太郎・三谷博通

教會移轉會計(重要の點のみ摘記す)

収入之部

舊會堂敷地賣却代 五一・〇〇〇・〇〇〇  
舊會堂及雜品賣却代 一・〇八〇・〇〇〇

支出之部

新會堂敷地購入代 三二・〇〇〇・〇〇〇  
登記印紙代 六九八・七八〇  
敷地未拂殘金宣教師團へ支拂 五六三・六〇〇  
地所賣買周旋料 三二一・〇〇〇  
税 金 三三五・九九〇

以上

大正八年度

一月十七日夜、總會を開く極めて活氣に満てるものなり。

三月二日彌々舊會堂へのお別れ、朝夕とも二宮牧師説教。

朝「殉教者」男三八、女三六 計七四名

夕「世界改造」男二七、女二四 計四一名

三月七日(金)牧師館に於て新築感謝會を開く、本會堂の竣成する迄、日曜學校は激減を豫想しつゝ、兎

に角繼續す、朝夕集會も、牧師館にて開く。此の日建築問題に就き一少部分の者策動し、委員長排斥の書面發送す、誠に無暴の不幸事である。

建築委員

三月九日臨時總會を開き、前記の前後所置を取る。日高委員長辭任申出でられしも、理由薄弱總會は全會一致信任を表白し、建築委員は改めて十二名とし、工事監督に古河善録兄當る事に決す。即ち十二名とは

委員長日高善市兄、會計齊藤市次兄

委員 木村清一郎兄、瀨成田格兄、佐原傳藏兄、竹内正紀兄、三谷博通兄

白井力兄、小野廣助兄、阪尾廣太郎兄、星野たか姉、眞鍋友子姉である。

其後委員の聯絡を密にする爲め殆んど日曜毎に委員會を開く。

オルチン教師の歸米送別會

六月十三日オルチン教師歸米せらるゝに付盛大なる送別會を開く會堂竣成を見ずして同師を送る事は甚だ物足らざるも、亦同師は我教會の名助産婦として、隆々たる躍進の姿を見つゝ、我が使命全ふせられ

たりとの感を抱きて故山に赴く同師の意中にも亦必しも満足なきに非る可し。  
 八月十日建築も大半竣成足場懸りのまゝ、禮拜堂に於て最初の禮拜を守る。  
 八月三十日午後七時、建築委員會を開き施設不足金二千四百〇四圓の補填につき協議、その時出席者  
 木村、日高、齊藤、古河、小野、竹内の六氏同氏等で之を纏める事と爲し、茲に新築問題は一段格を告  
 ぐ、その頃夜の集會は多く青年會員、門前説教を試み、勇敢なる進出に努力す。  
 九月五日、新築感謝會を開く。土地賣買、及新築の會計報告を左に報ぜん。

收入之部	
賣却土地代	五一〇〇〇・〇〇〇
同 建物代	一〇〇〇〇・〇〇〇
同 敷石及煉瓦代	八〇〇〇〇
銀行預金利息	五五〇〇・〇〇〇
寄附金	六〇五六・四七〇
雜收入	一七・四六〇
合計	五八・七〇三・九三〇
支出之部	
買入土地代	三二・〇〇〇・〇〇〇

土地賣買手數料	三二・〇〇〇
建物賣買手數料	一〇〇・〇〇〇
教會堂建築費	一六・五〇〇・〇〇〇
牧師館建築費	二・七二一・六四〇
(御座老師住居材料を使用す)	
堂守住居改築費	五・一三・八九〇
宣教師團敷地料精算金	五・六三・六〇〇
土地賣買用印紙代	六・九八・七八〇
道路石垣及門改築費	二・四九・九〇〇
帽子掛新設費	五・二・四〇〇
ペンキ塗賃追加分	九三・〇〇〇
會堂建築模様替及附工事費	五〇〇・〇〇〇
納屋新築費	七・四・八〇〇
税金	三・三五・九九〇
火災保險料(三口)	二・九七・三〇〇
久保氏報酬	一・二〇・〇〇〇

堂守へ心付	三〇・〇〇〇
什器一式	二・四〇四・三五〇
樹木植替其他人夫賃	七四・七五〇
建築設計謝禮	一八五・〇〇〇
雜費(建築用)	三七一・五四〇
受負人への心付	二〇〇・〇〇〇
落成に付久保氏へ謝儀	一〇・〇〇〇
電話急設申込金	一五・〇〇〇
献堂式辨當及菓子代	一九五・〇〇〇
日曜學校設備費	三九・五五〇
雜費(献堂式用)	九一・二九〇
合計	五八・七五七・七八〇
差引不足金	五三・八五〇

此不足金は別途積立基本金を以て補填す。  
斯くて竣成したる新會堂は  
會堂の部

梁間七間半	桁間拾參間
木造二階建瓦葺	地坪九拾七坪半
牧師館の部	
梁間四間半	桁間五間
木造一部二階建瓦葺	地坪廿二坪半
堂守住居の部	
梁間一間	桁間三間
木造平家建銅板葺	地坪三坪
外に納屋	
九月五日落成感謝祈禱會會衆約二十名	
九月七日落成感謝禮拜會衆約六十名	

献堂式

本會堂の献堂式は九月十七日、大阪部會の機會に行ふ。當日の記事一斑を紹介すれば、同日午前十時より舉行す。日高執事司會し、古河氏聖書朗讀、司會者の祈禱後、齊藤執事會計報告「支出總計五萬八千百餘圓」現在不足金二百圓程、尙ほ六百圓の寄附約束あるを以て差引多少の殘金あり感謝に堪へず、



先き頃迄建坪三十餘に過ぎざる前會堂に比し、建坪百坪に餘る新會堂を見る時、其の膨脹の大且つ急なるは一面神恩を感謝すると共に、又一面恐懼の念なくんば非ず。且つ建築請負倉本氏(三谷氏下受負者)の誠意ある努力は我ら多とする所である」と。二宮牧師の獻堂祈禱、少女歌の組の讚美歌。次に武本牧師王上八ノ三二以下を題とし説教あり。田中部會長の祝辭、今泉牧師の祝禱にて閉會、正に十二時。終つて午餐の後部會總會を開く、其の會場に本會堂を使用す。

新會堂に移轉してより特に日曜學校は空前の盛況を呈し、従前の約三倍の生徒參集する有様となる。又廿一日より廿三日まで特別集會を開く講師西尾、宮川兩師毎夜來會者百七十「新築移轉後形勢頗る良しと見受けたり」と記録せられて居る。

### 總會々場となる

尙ほ特筆すべき事件は十月二日より六日迄、我新會堂を會場とし、日本組合基督教會第三十五回總會を開きし事である。且つ按手禮も同所にて行ひ、其の時現任牧師菅原菊三氏は綱島佳吉牧師按手祈禱の下に同勞數名と受按す。

更に十一月十四日夕新築委員慰勞會を行ひ、夫々記念寫眞を送呈し「教會堂新築に關し、貴下の御盡力を記念せん爲めに此寫眞を呈す」と記入す。

且つ同夕新たに着任せる龜井婦人傳道師歡迎會も開く。

### 奉仕會

十一月廿八日夕婦人會及青年會協力に由る全く新しき試みたる「奉仕會」の發會式を行ふ。之には池上市長代理の福士學務課長初め前府會議員吉川吉郎兵衛氏、府會議員筒井民次郎氏、市視學山榊儀重氏等の祝辭演説あり、後大林宗嗣氏の「富の力愛の力物語」西野貞子女史の「汝等何を求むるか」の講演あり、會後方面委員、區會議員等數氏居残り將來の協調につき挨拶を交換し、十一時過ぎ散會す。此の會は教會對社會の交渉の開かれしものにして一同希望に充たされたるものである。

十二月廿五日クリスマスは約一千名の來會者にして頗る盛大なる祝會なりき。

大正八年度受洗者七名、轉會者四名、特に教會は大整理を斷行し、除名百〇四名を出す。之は特別運動の急進信者の止むなき結果であるが、誠に悲しむ可き事である。禮拜會衆五十四、祈禱會廿二。總收入一、八三三、一四二 總支出一、九一六、三七五 差引不足八三、二三三 財産は急激の増加を見、五萬六千餘圓に昇る。

今前會堂建築時代に比較せば、全く隔世の感なきを得ぬ。之れ我が教會の飛躍的大發展を物語るものである。

## 大正九年度

本年我教會の標語「奉仕」本年總會は一月十六日開く流感の爲め會者比較的少數なりしも、齊藤市次兄議長の下に一般會計及會堂改築の會計報告あり、特に本年より義務献金を従來廿錢を參拾錢に爲す事家族は十錢の件議決す。新役員執事齊藤・日高・古河、木村、小野、竹内光、瀬成田靜の七名。會計は齊藤、日高兩兄。豫算は貳千六百貳拾六圓となる。

本年組合教會は京阪神を中心とせる近畿革新運動を計畫し、三月廿八日聯合禮拜を公會堂で行ふ事とす。我教會の「奉仕會」教談會は一月廿八日中岡洲堂を聘き來會二百餘名又社會教育講演會は島村育人氏を招き舉行、次で林歌子女史・富田象吉氏等を招きて講演會を催す。

この年よりミス、マゲー女史を依頼し、バイブル、クラスを開く。先づ一月廿二日のバイブル、クラス新年大親睦會は三十五名の出席者を見、頗る盛會を極む。

此の四月十一日齊藤會計は古河氏に其の任を譲る。

四月廿四日青年會、婦人會協力にて奉仕會資金獲得の音楽會を開く。純益二百七十餘圓、五月二日野外禮拜は武庫川畔松林に開き來會百餘名。

六月十一日を初め特別祈禱會を催す。目的は祈禱の精神を求道者にも味はしむるにある。先づ獎勵者宮川牧師語り、順次感話祈りを爲す。第二回同十八日、杉田牧師、第三回廿五日岸野牧師、第四回七

月二日桑田牧師。

八月頃より丸山房吉氏名譽傳道者を志願し又堂守を兼ね。且つ基督信徒結婚媒介にも勞する事を出さず。夏は小公園にて路傍宣傳を試む主として丸山兄活躍。

本年教界に於ける最大事件は日曜學校世界大會東京にて開催さる。我教會より校長辨官氏出席せらる本年度より電話開通す。

本年の受洗者十名、轉會者四名。禮拜會衆五十八名、祈禱會廿二名、常費二千七百餘圓。

## 大正拾年度

本年は奈良協議會申合せを中心に、大阪各組合教會協力に由る協同傳道を遂行す。此の頃より組合教會は協力の聲旺盛となり、教勢には案外進展の見る可きもの少なし。

我教會も協力の波に乗り、先づ三月一、二日協同的運動のトップとして集會を持つ、之の運動の特色は部内に應援團を組織し聯合運動の實効を計るに在る。

更に我教會は三月廿五日特別講演會を開く。

「勝利の生活」

溝口悦次氏

「靈的宗教と內的宗教」

森田金之助氏

同 廿六日

「隠たる眞珠の發見」

賀川 春子氏

「基督の歡喜」

林 歌子氏

同 廿七日

「社會的福音」

松村 敏夫氏

同 廿八日

「佛教より基督教へ」

道旗 泰成氏

同 廿九日

「人としての偉大」

海老名 彈正氏

「外遊中の所感」

同 夫人

寒さと雨の爲め出足をそがれし遺憾ありしにも、流石講師の經歷の賜か最後の日の如き三百七十餘名、平均二百五十名、求道者八十餘名を興へらる。

十一月に入り、六、七、八日秋期特別傳道を行ふ。

「基督者の心」

畠中 博氏

「人間の煩悶と基督教」

山口 金作氏

「基督教の起點と着點」

大林 宗嗣氏

來會者初雪に防げられしも二百五六十名。

十二月十一日、十二日の兩夜、特別傳道の志道者を招き、神戸女子神學校織田やす子女史の「何處に在りや」の講演を聞く。來會者三百餘名。志道者七十一名、本年興へられたる志道者數實に五百名、此の多數の志道者に對し我らは何等施す手段がなきを悲しむと報ぜらる。

本年の受洗者十一名、轉會者四名、禮拜五十二名、祈會十七名。常費千八百圓、其他を合算し、貳千四百八拾五圓である。獨立教會として彌々健全なる進境に在る。

### 大正十一年度

我教會は前年度數回の特別講演會にて署名したりし求道者五百餘名に對し、一月十四、十五、十六日の三夜志道者會を開く。

十四日 信仰の力

白戸 良作氏

四二名

十五日 眞理の力

渡瀬 常吉氏

六八名

十六日 愛の力

藤本 壽作氏

七〇名

之の集會の會衆を見るに信者と未信者の割合二と八の割合。

### オルチン夫人追悼會

二月廿一日夜、我教會にて昨年十二月三十日歸米中永眠せられたオルチン教師夫人追悼紀念會を飾

妹教會梅田と共同主催にて開く。來會者市内各組合教師教會役員其他有志信徒、女學校關係者、約七十餘名遺憾なく追憶す。我が教會にては同姉の婦人會指導、讚美歌練習、等の盡力は忘れ得ぬものである。尙ほ來會者一同の署名を求め、同夜の模様を詳記し、孤獨病を養はれ居る老オルチン教師に送り慰籍の一助に供す。尙ほ當日故人の息女ミセス、アイグルハートは出席不可能なりしもわざわざ感謝の辭を送らる。

本年は昨年十一月以來大阪に起りし大阪基督教會振起運動第二回運動を三月に行ひ大に氣勢を擧ぐ。別に其の餘波と云ふに非るも、五月五、六、七の三日間春季特別運動を行ふ。講師演題左の如し。

「最近宗教界の特徴」

日野眞澄氏

「吾人は生くる爲め何を考ふ可き乎」

長谷川 敏氏

「新使命の自覺」

海老名 正氏

前二夜とも二百四五十名、後夜は四百名以上、頗る盛會であつた。

更に秋季運動十月十四日より三日間開く。

「華府會議の真相」

網島 佳吉氏

「信仰生活の真相」

澤村 重雄氏

「歐米視察談」

米澤 尙三氏

毎夜百名づゝの集會。

此の年又日野眞澄氏を招き神學講座を開く毎回七、八十名。知的啓蒙に資す。又十一月十二日夜織田女史の應援を受く、女史の演題は「疑惑の中にも」である。來會者百六十餘名。

本年クリスマスに當り、西九條公園内の青年會館において、青年有志クリスマスが舉行せらる。その爲め何等關係を有さぬ二宮牧師はクリスマス説教を依頼し來る。之れ畢竟奉仕會の影響にして、牧師は大なる歡喜と熱誠をもつて語らる。之れ教會對社會の接觸を表示するものにして教會進出上有意義である。

本年の受洗者廿五名、轉會者七名、禮拜五十四名、祈禱會廿一名。常費貳千貳百廿八圓其他を加算して經費貳千八百七拾九圓に達す。

### 大正拾貳年度

本年は關東大震災の年である。組合教會は此の年全國に三年繼續の應援傳道を決議す。尤も大阪部會は大に市内傳道の爲め活動を試み、各教會聯合的運動に精進す。我教會も三月三日より五日迄此の聯合運動に加はり左の集會を開く。

三日 講師今泉牧師 一七八名 決心 七名

四日 同 西野貞子女史 二八七名 一五名

五日 同 海老名總長 三八五名 一四名

更に決心者を開き更に十四名の新決心者を與へられ、合計五〇名の決心者となる。尙ほ六日より八日迄伊藤牧師を主任とし午後と夜間有益なる志道者教育集會を持つ。五月は中央公會堂にて聯合大讚美禮拜を守り、大デモンストレーションを試む。

九月一日大震災は凡ての活動を之れの救済に向く、我が教會は傳道を休止せるに非ず。この九月二日二宮先生御夫妻の將來を慮り婦人會有志により平和會組織の相談を爲す。その名稱は、平次郎先生の平と和佐師の和を取りしものなり、此年の總會は東京なりしも震災の爲急に大阪に變更す。其機會澤村牧師、福井牧師の應援を受く。一年の受洗者二十名、轉會者十名、告白入會者二名。禮拜五十八名、祈禱會廿二名である。常費二千九百廿七圓、教會に於て集めたる全額四千二百八十四圓に上る。

### 大正十三年度

組合教會は應援傳道第二年を迎へ、全国的に活躍せんとし、又本年十月より聯盟關係の全國基督教化運動起る。我教會は先づ一月十三日總會を開き、二十日に執事就任式を執行。執事の新顔には瀧山良一氏、岡魏氏及桂住市氏が擧げらる。日曜學校は校長村田次郎氏從前通り、岡本三郎氏は教頭である。二十日の禮拜會衆約百名盛んなるものである。

之より先き一月十日、婦人會青年會主催にて、過日恩賞に浴されし、富田象吉氏、小橋氏夫妻、林歌子女史を社會の恩人とし招待し表彰會を開く、各々所感演説あり、會者百五十餘名、期せずして僅少な

がら記念物を謹呈する事になつた。

四月廿八日組合教會青年同盟主催にて市内三教會(天満、大阪及九條)に於て日米問題講演會を開く、本年は日米問題の沸騰せる年である。當教會は開會の辭(尾柳氏)

日米問題の過去及將來

荒木和一氏

基督教徒の覺悟

山川英一氏

日米基督教徒國際問題

島中博氏

來會者七百餘名頗る盛會であつた。

本部傳道部應援にて、青年會及婦人會共同主催、基督教夏季特別修養會を八月一日より五日迄開く。第一夜「宗教的權威の所在」森田金之助氏、第二夜「現代人の宗教心理」渡瀬常吉氏、第三夜「神學的に見たる基督教の生活」石田次郎氏、第四夜「宗教的感情と其涵養」長坂鑿次郎氏、第五夜「宗教改革の史的考察と現代人」青木律彦氏で何れも百名以上熱心傾聴す。更に秋期十一月部内諸教會一齊應援傳道を舉行す。

八日(土) 講師海老澤亮氏

來會一三〇名

九日(日) 同 中路ちか子

來會一三二名

十日(月) 同 長坂鑿次郎氏

來會一二六名

志道者七二名。本年受洗者三十名、轉會者九名、禮拜六十三名、祈禱會二十五名。又常費二千八百七

十四圓、日曜學校百十一圓、其他集金四百五十圓本部寄附四百九十九圓、計三千九百六十四圓。尙ほ本年は増築に手を染め初めたのである。

### 大正十四年度増築

本年教會は參千餘圓を投じ、増築を遂行す、地坪九坪二階建にて上階は婦人會堂の間、下階は幼稚科室、其の地ペンキ塗替、小使室屋根を赤瓦に變更等新装を呈した。その會計報告左の如し。

收入之部

會員の献金 二・二二五・五〇

バザール利益金 五一六・二六

三谷徳松兄材木寄附金 三五二・八四

雑收入 一三・〇〇

合計 三・〇〇七・六〇

支出之部

建築總支出金 三・〇〇七・六〇

以上

又本年大阪に大博覽會あり教化運動に活動す、我教會は四月十三、四日特別運動を爲す。

### 財團に加入

年頭總會の決議に基き單獨財團設置を思ひ留め、本部財團に加入す。決議書左の如し。

### 決議書

大正十四年一月廿一日大阪市西區九條南通貳丁目百五十二番地ノ武九條組合基督教會ニ於テ定期會員總會ヲ開キ左ノ決議ヲ爲シタリ。一、從來當教會ノ所有タリシ大阪市西區九條南通二丁目百五十二番地二百四十坪一合三勺及同地土ニ有之木造瓦葺二階建本家一棟此建坪九十七坪五合、二階坪七十八坪、附屬建物木造瓦葺二階建離家一棟此建坪十八坪二階坪八坪、木造瓦葺平家建離家一棟此建坪八坪二合五勺ハ財産管理上當教會々員大阪市西區泉尾町三百九十一番地ノ二齊藤市次大阪市東區東平野町十丁目三十九番地日高善市大阪市東區寺山町四百九十番地ノ一木村清一郎ノ三名ノ名義人タリシヲ今般右不動産一切ヲ財團法人日本組合基督教會維持財團ヘ特別財産トシテ寄附ヲ爲スコト  
二、右寄附ニ關スル附帶條件並ニ之ニ關連セル總テノ手續等一切ヲ右三氏ニ一任ス  
右議了可決ス

大正十四年一月二十一日

議長(執事) 日高善市

會員代表者(執事) 武藤純一

同 (同) 古河善錄  
牧 師 二宮平二郎

寄附證書

大阪市西區九條南通二丁目一五二番地ノ二

一、宅地 二百四十坪一合三勺

但九條組合基督教會堂其他附屬建物用敷地

二、上記地上現在ノ建家

イ、禮拜堂

二階建(瓦葺木造洋風建物硝子窓)

總坪數 一百七十五坪五合

ロ、牧師館

二階建(瓦葺木造)

總坪數 二十六坪

ハ、附屬家屋

平家建(瓦葺木造)

總坪數 八坪二合五勺

前記ノ物件拙者所有名義ニ候處今般貴會財團法人日本組合基督教會維持財團寄附行爲第四條第二號及第六條ニヨリ九條組合基督教會ノ用途ニ供スル爲寄附仕候也

大正十四年 月 日

大阪市西區泉尾町三百九十一番地ノ二

寄附者 齊藤市次

大阪市東區平野町十丁目三十九番地

同 日 高善市

大阪市東區寺山町四百九十番地ノ一

同 木村清一郎

財團法人日本組合基督教會維持財團

專務理事 高木貞衛殿

寄附申込書

大阪市西區九條南通二丁目百五拾貳番地ノ貳

一、宅地 貳百四拾坪壹合參勺

但九條組合基督教會堂其他附屬建物用敷地

二、上記地上現在ノ建家

イ、貳階建(瓦葺木造洋風硝子窓)總坪數壹百七拾五坪五合 禮拜堂

ロ、貳階建(瓦葺木造)總坪數貳拾六坪、牧師館

ハ、平家建(瓦葺木造)總坪數八坪貳合五勺、附屬家屋

前記ノ物件ハ別書添付ノ土地登記謄本及建物登記謄本ノ通拙者所有ノ名義ニ候處從來九條組合基督教會  
共同所有ノ物件ニ相違無之候就テハ今般當該教會總會ノ決議ニ基キ貴會財團法人日本組合基督教會維持  
財團寄附行爲第二條第四條第二號及第八條ニ依リ今後九條組合基督教會ノ爲前記ノ物件一切ヲ寄附致度  
依テ牧師及教會管理者連署ノ上申込致候間可然御取計被下度候也

大正十四年 月 日

所有名義人 大阪市西區泉尾町參百九拾壹番地ノ貳 齊 藤 市 次

同 大阪市東區東平野十丁目參拾九番地 日 高 善 市

同 大阪市東區寺山町四百九拾番地ノ壹 木 村 淺 一 郎

九條組合基督教會牧師 二宮平二郎

九條組合基督教會管理者

齊 藤 市 次  
日 高 善 市  
木 村 清 一 郎

財團法人日本組合基督教會維持財團

理 事 會 御 中

斯くて我教會の財産は、獨立せる財團に非れども、同主義組合教會の財團法人に寄附行爲をせるを以  
て、爾今、財産の安全は保證せられたのである。巨額の教會財産も今後は枕を高ふする事が出来る上に、  
管理者も、極めて責任が軽くなり、基礎彌々強固になれる事を保證されたのである。

次に本年度教會行事の記録を續ければ六月十三日日曜學校生徒大會を開催。錦織貞夫氏「最も大なる  
もの」の有益なるお話あり五百餘の生徒參集す。

七月八日より十二日まで毎夕左の如き宗教心理講演會を催す。

第一夜 「信仰の心理」 鈴木浩二氏

第二夜 「希望の心理」 海老澤亮氏



- 第三夜 「愛の心理」 牧野虎次氏
- 第四夜 「回心の心理」 赤澤元造氏
- 第五夜 「再生の心理」 石田次郎氏

初夜と後夜は共に大雨の爲め九十名餘の來會者なりしも、他三夜は各百五十の來聽者を得たり。増築は(九坪)六月三日附を以て建築物使用認可證下付を受く。

### 牧師の銀婚式

尙ほ十月卅一日二宮牧師の銀婚式典あり、頗る有意義盛大なる集會を持つ。又本年は創立三十年に該當するを以て十月より十二月に亘り記念傳道を行ふ。

講師金子卯吉、今井新太郎、田崎健作、賀川豊彦、外村義郎の五氏に依頼し大集會十一回を開く、聽衆三千二百五十人、志道者四百二十人、尤も結果に於て大書する事なく終れるは残念なり。思ふに今後此の種の運動への期待は大なる可からず。

本年受洗者廿六名、轉入者六名。禮拜六十三名、祈禱會廿六名。本年の經費三千九百餘圓、外に三千餘圓の建築費を支出。總計約七千圓を動かす。

### 大正十五年 度

本年も組合教會市内八教會聯合にて三月より約一ヶ月運動を試む、廿一日より廿五日は、上町及九條兩教會の傳道。

又夏季聖書研究會を起し、七月五日より連夜七日迄三日間行ふ。此の研究會には初めて會費を徴收す

- 第一夜 「聖書の話」 山本忠美牧師 一三〇名
- 第二夜 「約翰傳研究」 高 中 博牧師 一四〇名
- 第三夜 「聖書の讀方」 宮川己作氏 一四〇名

之の研究會前三十分錦織貞夫氏の應援を受け讚美歌の指導講演あり。三夜とも雨に禍されつゝも尙ほ成績に於て良好なり。

秋期運動は賀川豊彦氏を招き十一月廿五、廿六、廿七日の三夜舉行。

- 廿五日 「神に對する態度」
- 廿六日 「苦難に對する態度」
- 廿七日 「罪惡に對する態度」

### 教化同志會起る

尙ほ本年掉尾の事業とし、大阪基督教同志會を組織す。其の條文は、

- 一、我らは大阪の教化を期す。
  - 二、我らはクリスチャンの互助愛運動の旺盛ならん事を期す。
  - 三、大阪教化の速かならん爲「家の教會」運動をなす。
  - 四、我らは全市を救ふ祈禱團體を無數に組織せんことを期す。
- 而して右の組織に當り、我が二宮牧師は常置委員となり、明年を期し大に活躍せんことを期し、又共濟組合を組織す。

本年特記すべき一事件は六月六日牧師館便所裏手より火災起り、遂に便所一部祝融氏に見舞はれたる事である。然し幸ひ其の程度にて済みしは不幸中の幸と謂ふ可し。

本年の受洗者廿四名、轉會者六名、禮拜七十三名、祈禱會廿六名、常費二千九百廿一圓、日曜學校百二十圓、其他集金六百三十圓、本部負擔寄附四百二十五圓、計四千〇九十六圓此の外建築の爲めに三百四十七圓支出す。

統計

今大正二年より十四年間の諸統計を總括すれば左の如し。

年	教會員の數		年中の増員		年中の減員		差引	小兒S S	在籍出席	禮拜	祈會
	男	女	計	計	計	計					
大正	二	二	二	八	二	三	一九	一〇	九	五	二
	二二二	一〇五	二二八	一六五	五二	一六二	一九	一〇	九	五	二
	一一一	一一一	二二二	一七七	五九	一四六	一七	〇	七	二	二
	一三六	一三二	二六八	一九五	六三	一七六	二六	一	一	一	一
	二六七	二六七	五三四	二〇〇	一〇	二〇〇	一七	〇	二	〇	〇
	二七八	二七八	五五六	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九	六五八	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二〇	三二〇	六四〇	二〇〇	二〇	二〇〇	二六	〇	二	〇	〇
	三二九	三二九									

十四年間の經濟狀態

年	常費	SS費用	建築費	其他集金本部寄附計	財產
二	1,073	38	800	151	3,350
三	913	47	800	66	4,000
四	1,100	34	3,000	36	4,000
五	1,098	7	14	92	4,150
六	1,083	6	30	0	10,000
七	1,190	26	18	0	30,300
八	1,346	25	58,757	116	30,300
九	1,975	19	320	170	56,500
一〇	1,801	98	11	276	56,500
一一	2,232	134	11	247	56,500
一二	2,927	66	11	331	56,500
一三	2,276	54	1,028	363	58,100
一四	2,874	141	3,007	484	68,000
一五	2,922	110	3,477	430	74,000

之を以て見るも大正二年に漸く壹千圓の常費に達して發展を欣喜し我教會が、十四年後に到り參千圓に

達し、集金四千圓を越すに到た事である。之れ歐洲大戰と云ふ我邦未曾有の躍進の機會に恵まれたとは云へ教會も亦經濟的に此躍進に並行し、特に會計の積極的方針及び見へざる神の御指導に由るものにして、誠に感謝に堪へない。特に會堂建築と云ふ大業を完成し、茲に劃期的大成功を博したる如き。一は先人の明、又幸運なる機會、且つ其の間機會を失はざりし明敏なる決斷、全く見へざる聖手が我教會を恵み給る御恩寵にして我等は之に對し、彌々己を謙り、特別なる御恩寵に答へ奉らねばならない。

第三期 一宮牧師昭和時代

我九條教會は二宮牧師が、明治四十年二月着任せられてより、全く面目一新、教會の體を爲したるものにして、着任の時、オルチン教師より、五ヶ年にして獨立を敢行せよと申渡され、最初ミツシヨンより月々五十圓の援助を受けたるが、翌年は四十圓、又翌年三十圓と云ふ風に、遂に五ヶ年にして獨立の教會となり。更に教會常費壹千圓程度に達し又數年經て獨立の基礎安固となるを見極め、日本組合基督教會に加盟し、更に幾年ならざるに、茲に南通りに大殿堂を建築し、資産一躍八萬餘圓に達したるは一に、時勢の幸運に恵まれたと雖も、亦牧師の手腕才幹及人物に依り急速順調の發展を遂げたのである。元來牧師は非堂な健康にして精力絶倫と云ふ體質ではなく、然かもよく身體をこなし、精力絶倫者のごとく武者振りを以て活動せられた。然し、自ら翁と唱へる様になられてより、幾分身體の思ふに任せぬ

節生じ、固執の病魔も持たれ、着任廿有八年、遂に昭和九年九月、自ら任を辭され、後任に之を譲りて、忽然關東片瀨に居を移さる。今其の牧師最後の約十年間の活動、更に精しく云へば、昭和二年より同九年の足跡を辿り、教會充實の姿を偲ぶ事とする。

### 昭和二年度 同志會の活動

昨年來大阪各教會聯合運動として大阪教化同志會なるもの起り、我が牧師も之に加擔し、其の役員の席に加はり、活躍する所があつた先づ一月當初の「新時代修養會」のプログラムを見るに、YMCAを會場と爲し、賀川氏を初め牧野、杉山氏等の九名士が講師にして、一言以て云へば社會的基督教の進出を計つたものである。且つ一月四、五、六日には中央公會堂に於て、賀川氏の神の國運動大講演會を開く之は大阪教化同志會の主催にして、少くとも協同聯合の力に依つて大阪教化に一進飛躍を試みたるものである。又此の運動に隨伴し「家の教會」と稱せる、家庭中心特別集會を催す「家の教會運動」の我が教會の二三の例は、講師吉田源治郎氏幻燈應用を以て一月七日、教會にて、百三十名。一月十七日齊藤胸一商店にて、同講師又一月廿四日、築港武藤純一氏宅、同日講師橋本牧師、佐藤清氏宅にて、同日三谷清水氏宅、廿六日吉田源治郎氏講師にて古河善録氏宅、此の時は會者百三十名と註せられて居る。此の外の運動は共濟組合事業を試み、相互扶助の實を擧げんと企つ。

更に本年異狀の靈雨に浴せる堀貞一牧師の運動、同志社、梅花女學校に火花を散らし其の靈火を我教會にも及ぼす。その主催は市内組合教會協同下にして二月十日、十一日は我教會なり。

十日 「余が感激」 堀 牧師 二〇〇名

十一日 「余が體驗」 同 二〇〇名

尙ほ「百日祈禱團」と稱するものを組織し一月より四月まで、水木兩夜毎週家庭集會を催す、最初三十分二宮牧師聖書講義、續て三十分間祈禱會。之は出席者十名乃至二十名を算し信徒の靈育に資する所多大であつた。

先きに記したる「家の教會」運動も、更に其後六回實行、四回は幻燈を利用し、二回は講演會を行ふ三月七日奥丹後に大震災起る、之が救護事業に協力す。

### 牧師病む

三月廿四日二宮牧師咽喉の痙攣的症狀起り二時窒息せられしも、幸ひ呼吸を回復し、四月三日赤十字病院に入院、幸ひ快方に向ひし爲め、退院後紀州湯崎に靜養に赴かる。牧師の留守中青年會主事石田次郎氏及福田愼一氏應援せらる。六月十九日花の日にも福田氏のお話あり、牧師は六月一杯にて歸阪、茲に七月八日夕左のプログラムにて大感謝會を開く。

司會 武藤 執事

一、感謝祈禱會 (約二十分)

聖歌三〇八、朗讀村田執事、祈禱日高兄、同有志、聖歌四八、主禱

一、夕食會

御挨拶婦人會石神姉、食前感謝古河執事

一、懇談會

聖歌、有志合唱、所感(五分以内)、齊藤市次氏、福田慎一氏、林歌子女史

謝辭 二宮牧師

頌榮 四六二 祝禱 閉會

九月より牧師講壇に立たれしも、尙ほ無理ある所より、朝拜は最近支那より歸來、基督教世界に入社せる、清水安三氏、夕拜は青年會福田氏應援を受く。

尙ほ我が教會のバイブルクラスを助けられしマゲー女史永眠さる。

遺族より傳道の爲め金三百圓寄附あり。四月先生お不在なりしも意義ある追悼會を催す。

### 三十年記念

當教會は本年創立參拾年記念の年なるを以て、十月十八、十九日午前五時半より早天祈禱會、同廿二日に「大晚餐會」秋季傳道として「基督教講座」講師清水安三氏を以て行ふ。

十三日(日) 神 清水安三教師

十四日(月) 基督 同

十五日(火) 救ひ 同

尙ほ此の年の日曜學校に就て摘記すれば、校長吉信直忠兄、新任教師に佐藤(清)廣瀬、伊賀の三教師新に加はる。又三宅、大井兩教師も加勢す。

本年の教務報告

朝拜 男二六名女一六名 計四二名

夕拜 男三五名女一一名 計四六名

祈會 男一八名女 四名 計二二名

講演會は十四回、延人員九七七名平均七〇受洗者男九名、女七名轉入者女一名、永眠者一名、  
常費決算報告

收入之部

會員義務献金 四二四・二〇〇

同 維持献金 一・八四一・四〇〇

禮拜 献金 一八四・七八〇

大正十五年クリスマス献金 一一六・〇〇〇

本年クリスマス献金 一・〇六一・三〇〇

臨時寄附金	一六七・四〇〇
感謝献金	二五二・〇〇〇
借入金	二六三・五四〇
合計	四・三一・六二〇
支、出、之、部、	
總支出金	四・三一・六二〇
會計 古河善錄	

之を要するに本年牧師が健康を害されし所より、上半期大に爲さんと欲して爲す能はざりしは遺憾であつたが教勢上平衡状態にあるは感謝なり。

### 昭和三年度

一月十五日開きし總會に於て、二宮牧師の述べたるもの左の如し「私は病氣の爲牧師の分を盡す所がなかつた、然し兄弟姉妹の働に依り教勢が夫程異常を來さなかつた事は感謝に堪へない。之れ兄弟姉妹の熱心なる働の致す所と思ふ。即ち教會の信仰上の堅實を示すものとして感謝す。求道者の方は大分淘汰しつゝあるも、尙ほ六百餘りもあり。一層努力すれば救靈増加の見込がある。此は教會の隠れたる勢力と見てよい。今一つ喜ぶ可き事は先達の受洗者の多くは日曜學校出身であつて、一寸這入つたのと

違ひ多くは二代信者で其の中には四代信者もある位で、今後は吾々會員の家庭より多くの信者を出す事と思つて居る。

昨年中は會員中に可成り多くの子女が生れ、合せて十六、七名ある。私は之等の子女を教養する丈けでも任務は充分だと思ふ位である。又外部的に喜ぶ可き事は、執事の中より武藤氏の支店長、村田氏の學校長、瀧山氏の助役を出す等、其他個人々々が世の光、地の鹽として世に立てる者あるを思ふ時感謝せざるを得ません」と。又此の總會に於て二宮牧師感謝會として五百圓寄附せらる、之に關し多少議論ありしも牧師の意のまゝと爲す。

且つ本年度の執事は 武藤兄、古河兄、村田(次郎)兄、桂兄、吉信兄、瀧山兄、松井兄、石神姉、岡本姉。

牧師は昨年は健康を害され、靜養に多く時を用ひたりしが、本年は一月より講壇に立ち、清水安三氏福田氏は前年にて應援を斷る。

三月四日聖日特別の試みとし受洗後滿二十年に達せる者各々信仰感想談會を開き大に惠まる。

三月十八日、十九日

林龍太郎氏及び佐藤定吉博士特別集會を開く、來會者前夜四百十八名。後夜四百八十五名。

市岡方面に青年會の活動に基く土曜學校開かれつゝありしも事情あり、五月限り一時休止の止むなきに到る。

六月十二日、部會運動にて協力下に訪問傳道の援助あり、部會の全く變れる催しなりき。  
 本年の受洗者十五名、禮拜會衆四十名、祈禱會十八名。

常費收支決算

收入之部

會員義務献金	四二六・〇〇
同 維持献金	一九三四・三〇
日曜禮拜 献金	一三三〇・〇五
感謝 献金	三一六・一五
臨時 献金	四一九・〇〇
御大典記念協同傳道費	二九・〇〇
前年クリスマス献金	五・〇〇
本年クリスマス献金	一・四四三・五〇
合計	四・八〇二・九八
支出之部	
支出合計	四・八〇〇・〇七
差引剩餘金	二・一九

其他修繕會堂及門柵改築費決算

收入 高	三五七・八八
支出 高	三三三・一〇
差引剩餘金	二五・七八
	以上

昭和四年度

本年我教會の標語「新心」總會は一月二十日開く。

賀川氏運動

上半期傳道集會五月、賀川豊彦氏大集會を開く。先づ五月一日より三日間特別傳道準備祈禱會を行ひ各部署を定め準備に遺漏なきを期す。

十九日 會衆六五〇	決心者 一二八名
二十日 同 六二〇	同 九八名
廿一日 同 六三〇	同 八二名
合計 一九〇〇	同 三〇八名

三夜の献金 六十七圓貳拾七參也

引續き六月七日志道者歓迎會

同 十四日志道者修養會

更に引き続き毎金曜五回に涉り志道者會を開く、夕會時に三十分間説教以外に聖書講義を行ふ。本年の特傳は準備と追撃に萬遺漏なきを期し、之の點劑期的の方法を用ふ。

此他五月十二日「待兼山」に野外禮拜、六月二日、林龍太郎氏の講演會、六月九日小川清澄牧師の幻燈應用イエス傳の講話あり。

### 牧師再び病む

尤も以上大活動の最中牧師は兼ねくゝの心身の疲勞加はり六月十八日心臓の痙攣症を起し、再び暫らく靜養の止むなき事となる。賀川傳道も有志傳道團の活躍によりて遂行したるものである。五月より一時坂本喜多男氏を補助とす。

越へて十月三日三夜連続「基督教修養會」を行ふ。講師ウイルミナ森田校長、第一夜百三十八名、第二夜、九十五名、第三夜九十五名。牧師は心身の疲勞にも拘らず、一日と雖も教會發展を忘れず誠に悲壯なるものである。

十月より夕拜田中左右吉氏の應援を受く。十一月四日、乳兒保護の講演と映畫の夕を持つ。

十一月六日、錦織くら子女史の新著「六疊の王宮」出版披露講演會を開き、齊藤潔氏も助勢講演せらる。

十二月一日二大禮典は本年掉尾を飾る盛大なる禮拜にして、會衆百十六名。

同二日今回ロンドン會議に聲援の爲め赴く、日本婦人の代表者、林歌子女史送別講演會を開く。林龍太郎氏も共に立ち會衆は約三百餘名頗る盛會なりき。尙ほ本年十一月より約一ヶ年會員野澤長藏兄を訪問委員に委嘱す。

本年の受洗者二十名、告白一名、轉會一名、禮拜五十名、祈禱會十名。

本年度收支決算は

收入之部

會員 献金 二・五五〇・七〇

禮拜 献金 二〇八・七九

寄附 金 七五・〇〇

感謝 献金 三二・〇〇

前年度クリスマス献金 九〇・〇〇

クリスマス献金 一・一七四・九〇

前年度繰越金 二・九一



合 計 四・一三四・三〇  
 支 出 合 計 四・一三〇・八一  
 差引剩餘金 三・四九

但し本年より義務献金維持献金の別復雜なる所より、其の區別を廢止す。

### 昭和五年度

本年の標語「敬虔」本年は須貝トシ子、千代木文君を傳道師とし聘く。一月廿四日總會を開き、新役員の改選を行ふ。本年は一面大阪聯盟にて「神の國」運動を行ふ。他面組合教會に於て五ヶ年繼續特傳第一年を迎ふ。傳道多事の年と云ふ可きなり。牧師は傳道師招聘の爲め、自らの報酬激減を申出づ。

「神の國」運動は大阪各派教會一齊傳道を行ひ我が教會は左の集會を開く。

一月廿四日夕七時半

「社會淨化と基督教」 富田象吉氏  
 「最高の愛に生きよ」 錦織久良子姉  
 同 廿五日夕七時半 林 龍太郎氏  
 「千古の奇跡」 淺井治子姉  
 「追ひ迫る神」

同 廿六日夕七時半

「私の信仰經歷」 小山憲佐氏  
 「神の國を奪ふ者」 田中左右吉氏

右集會は毎夜百廿名内外の來會者。青年宣傳隊は連夜街頭に立ち道を説き又集會の廣告を爲す。

二月十六日午後二時、天滿教會に於ける傳道團員大會には我教會の爲したる報告に由れば團員四十五名、神の國新聞を利用し、近親者傳道を企てつゝありと。

四月古河會計は滿十ヶ年會計の任にありしが竹内正記氏に會計を譲る。

五月十一日阪和上野芝に野外禮拜に赴く。

五月十八日夕、ロンドン會議より歸朝せる林歌子女史を招き左の講演會を催す。

「ロンドンへ使して」 林 歌子女史  
 「基督かマルクス乎」 林 龍太郎氏

五月廿五日夕

「日本の舊道徳と基督教」 小山憲佐氏

之より先き會堂修繕の目的にて四月に映畫會を催す、大約三百圓の純益を得。

尙ほ六月に入り、一日夜、本間重慶氏の講話「暗夜の燈」あり。

七月廿七日夕「國産愛用」の題に、林龍太郎氏講演あり。

越えて十月總會の歸路、部會應援として  
 八日 「恩寵の宗教」 額賀 牧師 一二三  
 九日 「厄介な無花果の木」 田崎 牧師 一二四  
 の集會を持つ。

十月十六日須貝トシ子姉を宇和島に送る爲め婦人會主催送別會を行ふ。  
 十月廿六日、ロバート・レックス記念禮拜を守る。

本年の受洗者十八名、轉會四名、禮拜五十四名、祈禱會十八名。夕拜四十二名。

經常費決算

收入之部

總高 四・六四六・〇八

支出之部

總高 四・六四六・〇八

其他

二宮牧師寄附五百圓消費の内譯(四年度) 五〇〇〇

クリスマス 一五〇〇〇

阪本氏へ支給(五、六、七) 一五〇〇〇

河村教師其他への謝禮 六六・〇〇  
 清水安三氏への謝禮 一〇〇・〇〇  
 餞別、市電バス其他乗物代 二二・〇〇  
 夏期訪問傳道の慰勞金 四〇・〇〇  
 野澤氏七ヶ月手當 七〇・〇〇  
 福田氏五ヶ月謝禮 五〇・〇〇  
 待遇費 一五・〇〇  
 臨時書記 二〇・〇〇  
 田中、須貝二氏への謝禮 六〇・〇〇  
 合計 六四四・〇〇  
 差引超過金 一四四・〇〇  
 昭和五年度特別會計 四二四・四〇  
 總收入 貸館料其他 四二四・四〇  
 總支出 傳道用、及前記不足金百四十四圓も合算 五一七・七五  
 差引不足金 九三・三五

昭和六年度

以上

本年の標語「十字架」一月十七日禮拜引き續き總會を開く。議事後、晝食、午後一時より、日高執事司會の下に懷舊談話會を開く。  
本年度の教務一班を紹介すれば

禮拜參列者	男	女	計	戸數	配偶	戸主又 主婦	家族	家を さぬ人
同不參者	一〇	六	一六	一八	五	一	〇	七
計	二六	二三	四九	三三	五	一	〇	七
他行者	一六	一五	三一	三三	六	六	〇	三
準會員	三三							
増	減(増一二)			出席平均			特別集會	
受洗者	男	女	計	朝	夕	拜	特別祈會	修養會
	七	四	三	拜	拜	五	六	五
							八	回

轉入者	六	四	一〇	祈會	三	說教會	三回
轉出者	〇	一	一	志道者	三	講師數	二名
永眠者	一	一	二	家庭會	一八	其他集會	一六回
除名者	八	八	一六				

日曜學校は前年迄村田次郎氏校長であられしも本年は錦織卯四造氏校長副校長大井豊二氏なる。  
本年十月オルチン教師八十歳の高齡を以て舊知を尋ねる目的にて來朝梅田教會と聯合し大歡迎會を開く、當時村田執事通譯の勞を取る。

本年教會の人事として手代木傳道師を十月綾部丹波教會へ送る。  
本年度の會計竹内正紀氏、村田次郎氏、副會計吉信直忠君、井田義治君

會計報告

收入之部	
契約獻金	三・九九一・八〇
特別獻金	九〇・〇〇
禮拜獻金	一三五・三六
クリスマス獻金	四二五・二〇
事業獻金	一〇〇・〇〇

臨時献金

三〇一・三五

合計

五・一四四・七一

支出之部

報酬及手當

二六・四〇・一〇

事業費

五五〇・四五

税金保険料及負擔金

六三三・四二

經費

七二〇・七四

積立金

六〇〇・〇〇

合計

五・二四四・七一

○外に特別費として基地購入基金及基本金合算して五百〇九圓〇貳錢あり

特別會計

貸銷料 廿八回分

二九五・〇〇

傳道用宣傳費等に支出

一二二・九一

差引残金

四七・〇五

以上

本年特に注意すべき事は我が教會は契約献金に於て前年より異常の多額に上れる事である。思ふに會

計竹内正紀氏村田次郎氏の積極策の賜にして、我らは長く會計者の努力を感謝せねばならぬ。

### 昭和七年度

本年の標語「志望を立て」總會は一月十七日禮拜後開く、議長瀧山良一氏、新役員は左の如し。日高善市氏、瀧山良一氏、村田次郎氏、桂住市氏、古河善録氏、吉信直忠氏、齋藤市次氏、齋藤胸一氏、竹内正紀氏、武藤純一氏、木村清一郎氏、小野虎助氏、石神愛子氏、岡本小松氏、瀬成田静子氏の十五名である。

本年は特傳三年目にして大に振起する考より組合教會大阪部會に於ては傳道振起懇談會を一月七日天満教會にて開きしを手初めに、一月十三、四日は江州石山にて盛大なる協議會をも開く。

尙ほ之の年より先き二三年教會内部にも互助方法問頭起り、會員相互の友情の自然發露として、十日以上病氣の者に對して金參圓入院せし者に金五圓、此の外眼科、齒科、内科には會員の醫者のある所より費用は凡て半額と云ふ申合せ組合を作る。經費に就きては會員の感謝献金を充當し、その不足補填の場合は常費中よりと爲す。

### 二宮牧師就任滿廿五年祝賀會

更に四月廿四日(日)午前十時半より、二宮牧師就任滿廿五年祝賀式を學く。プログラム左の如し

司會 日高善市  
 奏 樂 (天地創造ハイドン) 橋 牧師  
 頌 榮 四六二 一 同  
 主 禱 一 同  
 聖 歌 五六 一 同  
 聖 書 ヨハネ傳十五ノ一十七 (廿五年前の求道者) 小野 執事  
 祈 禱 (牧師の最舊友) 三宅 平太  
 聖 歌 一四四 有志 合唱  
 感 話

相互扶助の實現 齋藤(胸) 執事  
 教會基礎の堅實 小野 執事  
 禁酒事業に就て 桂 執事 移  
 移轉改築の貢献者 古河 執事  
 二老婦人の貢献 齋藤(市) 執事  
 隠れたる貢献者 日高 執事  
 美しきホームの数々 村田 執事

網羅せる各階級 木村 執事  
 社會奉仕の一面 岡本女 執事  
 教會の潜勢力 石神女 執事  
 祝 辭 (青年會代表) 松尾 會長  
 聖 歌 四〇四 一 同  
 牧師への謝辭 齋藤(市) 執事  
 記念品贈呈  
 古河治君より牧師へ  
 石神洋子嬢より牧師夫人へ  
 祈 禱 瀧山 執事  
 献 金  
 頌 榮 四六〇 一 同  
 祝 禱 二宮 牧師

誰人も牧師に對する讃辭謝辭の外述べざるはなく、牧師に養はれたる教會員的美點を、相互賞し合ひし事は誠に美しき集會なりき、續て階下市民殿に記念午餐會を開く。星野教師の食前感謝にて食卓開く。一時半より古河執事司會下に中村教師祈禱にて開會、橋教師のピアノ獨彈、村田少年のヴァイオリン

獨奏、つゞいて大井三君外數氏の感話、少年少女等の歌等の後牧師の挨拶久保勢一氏の最後の祈禱にて閉會、續て受洗二十年以上の會員、その家族を始め、夫婦揃つて出席せる者を牧師紹介し、順次活動寫眞に收め、記念撮影を爲す。出席者二百四十餘名、家族信者の多き事木村執事の三夫婦を始め中々盛大に榮ゆく教會の礎を偲ぶ。

本年會堂の大修繕を行ふ。先生御夫妻のため企てし平和會の醸金六百十六圓を土臺とせるものである。本年の受洗者十三名、轉會七名、禮拜六十五名、祈禱會二十名であつた。

常費は昨年より向上せる通り三九七九圓、日曜學校費二〇八圓、會堂の大修繕を行ひ、九八二圓を消費す。其他集金には壹千圓、本部の寄附金額四七二圓合計六、六四一圓の支出である。教會の財産も正しく見積八萬四千餘圓。之を二宮牧師來任の廿五年前に較ぶれば、異常の發展と云はねばならない。尙ほ本年は教會の進展を圖り星野三雄、中村愈、の二氏を招き、大に訪問及び志道者誘導に力を凝く。

### 昭和八年度

本年の標語「今は眠より覺むべき非常時也」であつた。一月十五日教會創立記念日に二大禮典を守る夫より先き十二、十三、十四の三夜「現代聖徒傳講話會」を催す。

- 十二日 新島襄先生を語る 堀 貞一氏
- 十三日 植村正久先生を語る 桑田(繁)牧師

十四日 ゼンス大尉を語る 龜山 昇氏

一月廿二日總會を開く。更に二月十三、十四日にも二回目「現代聖徒傳講話會」を催す。

十三日 ウヰリアムス監督 名出保本郎氏

十三日 石井孤兒院長 富田象吉氏

三月十九日夜「國運振興」特別大講演會を開く、講師青柳博士、林龍太郎氏。

四月四日藤澤婦人傳道師來任。

本年の野外禮拜武庫川畔にて行ふ。

六月廿三日、星野教師の送別會を行ふ。

九月十七日第三回現代聖徒講演會を開く。

前代小林富次郎氏を語る 山崎麻吉氏

九月限り藤澤傳道師は臺灣に赴任するにつき辭任。

十月十三、十四日佐藤定吉博士の講演會を開く。

十一月廿三、廿四日信仰復興祈禱會を開く。

本年の受洗者廿四、告白入會二、轉入者二、禮拜平均六十名、夕拜平均四十四名、祈禱會廿一名、求道者會十三名、家庭會十八名である。

### 會計報告

歳入之部

契約献金	三・五三三・〇〇
特別献金(故竹内正紀兄其他)	二六〇・〇〇
禮拜献金	二二六・三三
クリスマス献金	四六四・四五
臨時献金(日曜學校其他)	六三二・八二
雑收入	七三・八三
歳出之部	
報酬及手当	二・九九二・七〇
事業費	三五六・四〇
税金、保険料負擔金	七三八・一八
經費	二九一・三二
積立金	三〇〇・〇〇
合計	五・一八〇・四三

會計村田次郎氏 副會計桂信雄氏 井田義治氏  
 尙ほ二宮牧師は本年十月廿八日週報に左の文を記し牧師の意中を告白す。

私は私が此教會に來てから、來年の一月で廿七年に、して其翌月で七十即ち古稀の齡に達するのであります。

私は六十になつた時に生理心理共に活動期を終つたのであるから退職の決心をしたが愛兄弟の切なる御引留に遭ひ、其至誠に動かされて留任する事となり。其後大患に罹つたなどで、退くにも退かれぬため、私は私の欠陥を補つて貰ふ積りで、前には清水福田石田田中諸教師を、後には須貝手代木山本星野中村藤澤の諸教師を煩はしたのであつた。幸に現状維持は出來たものゝ、時勢にも影響されて目的通り涉しうかなかつた。教勢の振はぬ時に退くのでは濟まぬ、何とかして好轉の潮時を見て勇退せんものと只管私は私の最善を盡して來つた。今も盡しつゝある積りだが、年は争はれぬものである。であるから前記の機會を逸さないで勇退する事に決心しました。就ては此の教壇に立つのも長い事ではありません敢て乞ふ今後算ふる程の私の説教を努めて聽て戴き度い。之は私の愛する教友に對する遺言の様な意味のものとなりませうから。云々と。

昭和九年度

本年度の標語「精進」一月廿一日總會を開く。新役員村田次郎兄、日高善市兄、瀧山良一兄、桂住市兄、古河善録兄、齋藤市次兄、齋藤胸一兄、清田榮之兄、瀬成田格兄、木村清一郎兄、小野虎助兄、武藤純一兄、石神愛子姉、岡本小松姉、小枝八重子姉。

二月四日夜小百合會主催キリスト一代記の映畫會を開く。

二月廿一日より廿三日の三夜左記講師の講演會を開く。

廿一日 田崎健作氏

廿二日 平岡徳次郎氏

廿三日 前田彦一氏

三月十、十一日青年會主催にて岩橋武夫氏の講演會を開く、兩夜を通じ四百餘名の來會者あり。

三月廿三日夕前年物故せる故人追悼會を催す。

本年の野外禮拜、南海助松にて五月二十日行ふ。

六月十日中村愈傳道師を靈南坂教會へ送別す。

六月十二日二宮牧師は靜養の目的にて三朝温泉に赴く。約一ヶ月にて歸阪。

八月二宮牧師は後任者の見當付きたるを以て、自ら住み馴れたる牧師館を立退き、急に大軌沿線長瀬に移る。此の期間臨時總會開かる。

### 菅原牧師着任

九月三日後任者菅原菊三氏家族同伴天保山に着く。

九月廿一日午前八時未曾有の風水害に見舞はれ、教會牧師館浸水し三日間退水せず、阪日政吉氏末子

惠君平野小學校倒壊にて壓死す。  
本年度の教務報告左の如し。

### 一會員

現在員	男一〇七	女一一六	計二二三
他行者	男一六	女一八	計三四
不參者	男三一	女一五	計四六
準會員	男一	女二	計三
不明	男六	女二	計八
合計	男一六一	女一五三	計三一四

一受洗者 一名、轉會者 四名、轉出者 八名、

一禮拜 五五名、夕拜 四五名、祈會 二三名

日曜學校 八九名、家庭會 一九名 聖書研究 一五名

### 決算報告

歳入之部

契約献金

特別献金

三・三八〇・〇〇

五五・〇〇



禮拜獻金	二〇八・九八
クリスマス獻金	五四一・一〇
臨時獻金	四六六・〇四
雜收入	七八・〇〇
合計	四・七二九・二二
歲出之部	
謝金及手當	二・七三七・七一
事業費	四四一・五七
税金保險料(負擔金)	七一〇・七三
經費	八〇四・七三
特別會計へ	三四・三八
合計	四・七二九・二二
風、水、害、修、繕、費、會、計、報、告	
總收入高(會員寄附)	一・〇九〇・六二
總支出高	九六五・〇七
內譯	

修繕費	八八七・八二
墨代	三九・七五
硝子代	三七・五〇
差引殘高(臨時獻金へ繰入)	一二五・五五
教會基金、墓地基金、特別寄附金	
一墓地基金	五八五・〇〇
一基金	一六・六三
一特別寄附	五五二・五〇
合計	一・一五四・一三

### 二宮牧師の辭任

二宮牧師廿有八年、慈父の如く慕ひ、九條教會は二宮の教會と迄云はる、程至密の關係に在りし先生が、遂に辭任し、且つ會員の名譽牧師たる懇請も退け、遂ひに居を神奈川縣片瀬に移さると云ふ、全く自己功績を棄て、顧みぬ超越の姿は一段敬慕を深くせしめられた事である。教會は茲に昭和十年三月多年の恩顧、功績への感謝として、謝恩金募集を企つ。その趣旨書こそ先生御夫妻の片鱗を物語るものにて左に記し本稿を終る。

### 謝恩金募集の辭

我が教界の耆宿二宮平次郎先生は老齡の故を以て今回九條基督教會の牧師を辭任せられました。先生は幼にして獻身の熱意に燃え身を以て牧會の事に當り神の爲め日本國のため幾度か死線を越えつゝ道を説く事四十有餘年 其の間郡山、岸和田、丹陽の諸教會を牧し梅花女學校に教鞭を執り到る處先生の人格と識見とは崇仰の的でありましたが明治四十年二月我が九條基督教會は牧師として先生を迎へ茲に今日に到つたのであります。

最近二十八年間 先生は我が九條教會のために主として熱と愛とを傾注せられました 爾來先生は日猶ほ足らずとして牧羊の聖職に當られ 然かも身を奉ずる事極めて薄く人に盡す事甚だ厚く温容寛貌の裡又犯すべからざる嚴正の御人格を拜しては會員一同は神の人たる典型を先生に見出し或は慈父の如く或は慈祖父の如く唯々敬慕の目を見上げつゝ先生に教護せられたのであります。

併し先生を斯く遺憾なく其の聖職を全からしめた裏面には同時に わさ子夫人の偉大なる内助の力を偲ばねばなりません。

毅然として郷里會津を辭した年若き女性の不拔の意志と犀利なる知力とは基督教的教養に依つて彫琢せられ練磨せられて爰に至誠にして謙讓、柔順にして貞淑而も犯し難き威力の持主たる 二宮夫人を完成したものと思ひます。

夫人の暖なる同情によつて幾十百人からの同胞が如何に慰められ助けられ疲れたものが力を得憐めるものが勇氣を興へられた事でありませう 身は邊幅を装はず權門にこびず謙虛にして人の爲め婦人のために盡し以て先生を助けられた偉勳は得がたき婦人の鑑であると思ひます。先生已に七十一歳 辭意黙し難く遂に愛惜の涙と共に我が教會は此處に先生御夫妻と袂を分つに到りました。

就きましては發起人一同相計り聊か感謝の微意を表はすため お二方の先生に心からなる謝恩金を捧げ先生方老後の御慰とも致し度いと存じます何卒趣旨を御賛同被成下まして出来るだけ此の學を成功させ給はります様只管御願ひ申し上げます 終りに臨み上なる祝福の豊かならん事を祈ります

昭和十年九月

九條基督教會内

二宮先生謝恩會

發起人

日高善市 瀧山良一 桂住市  
村田次郎 古河善録 小野虎助  
木村清一郎 齊藤彌一 瀬成田格

右趣旨書發送の結果集め得たる謝恩金は四千六百圓程に達しました。  
二宮牧師昭和年代即ち最後の八年間の統計

清田 榮之 木村 寛一 橋 静雄  
石神 愛子 岡本 小松 小枝 彌生  
會計 村田 次郎 同古河 善録

年	教會員の數		現住他行戸數	年中の増員		年中の減員		差引	小兒 S S	禮拜 祈會
	男	女		受洗告白轉入計	就眠轉中除去計	増	減			
昭和 二	1129	1081	199	177	1	1	16	33	93	33
三	1455	1044	197	151	1	1	2	16	89	40
四	1400	1155	213	215	1	1	6	15	89	50
五	1355	1133	225	223	1	2	6	15	96	54
六	1381	1131	229	211	1	1	1	14	95	61
七	1212	1121	233	200	1	1	1	17	76	65
八	1144	1134	248	218	2	1	1	10	83	60
九	1111	1133	253	214	4	8	5	3	84	55

八年間、經濟状態

年	常 費	S S 費	建築費	其他集會本部寄附	計	財 産
二	2,901	259	263	611	4,447	85,110
三	3,359	110	51	971	4,939	85,062
四	3,399	131		493	4,023	78,395
五	3,437	110		433	4,388	78,395
六	3,659	144		509	4,748	56,650
七	3,979	208	982	1,000	6,441	84,012
八	3,808	214	374	484	5,426	84,012
九	3,305	254	965	1,684	6,771	84,012

以上

菅原牧師時代の事は次の機会に譲り、四十年小史には略す。本小史は専ら二宮牧師時代の活動記録を以て結尾とす。

## 追 録

我教會創立時代教會に起居し、後には役員としてその創始時代より發展時代に盡力せられし、中野篤兄及び二宮牧師時代約三十年に亘る執事として盡力せられ柱石として盡瘁されし、齊藤市次兄並に二宮牧師の四十年小史に寄せられたる文章を追録として茲に載せ得る事は本小史の棹尾を飾るものとして最も貴重の事と信ずる。

### 九條弘道館當時ノ感想

中野 篤

雄大なる神の御攝理の下に羽育まれ今日に至りました事を感謝致します、私一身上から回顧致しますれば明治廿九年の秋は私の實兄が一高を卒業後住み馴れし大津市境川町の土地家屋を賣り拂ひ父は醫業を棄て、兄に伴はれて京都に出で嘗ては内村鑑三先生が御住居で在たと聞く新町竹屋町便利堂の借屋で神道精神學會等と云ふ看板を掲げて間もなく兄は米相場に手を出し失敗して無一物となり、三人を遺して家出を致しました。父は年六十八歳彦根藩家老の家に生れ、幼にして京都に出で梅田雲濱先生の門下に最後迄先生の志を見護りしと聞きますが、今は無一物致し方なく私と次姉を伴ひ没落の運命を辿り大阪九條新道二丁目五六三地九條弘道館に私の長姉の嫁する安藤乙三郎家の宅に身を寄する事となりまし

た。當時私は十三歳であり、即刻中の島附屬小學校に通學する事になりましたが、一家の都合上明治三十年十一月一日大阪教會員清水多助氏の紹介で義兄の世話で現在の銀行に給仕として入行致しました。次姉小末は中の島大阪府立病院に看護婦として働く身となりました。當時の安藤一家の苦心の程思ひやられます。之れが弘道館の創立されました翌年の春の出来事であります。

斯くして私の父はオルチン教師より洗禮を受け次に私の姉が次に私が十七歳で洗禮を受けました。

想ひ起せば大連教會牧師磯郎氏が大阪高等工業學校に受験の爲め弘道館に夜間通學をされて居りました。亦井上良民君神園萬助君、竹中悦三君の三氏は夜間神代信平氏（當時の西電話局長にて弘道館最初の執事）の御世話で交換手として働かれ晝は泰西學館に通學されて居りましたが、安藤教師の奨めにより京都同志社神學部に入校せられ二、三年後に西宜立、竹中悦三兩君が同じく同志社に何れも傳道界に身を獻げられた私は思ふ當時斯の如き燃ゆるが如き傳道に對する情熱は年長者たる神園君の熱心指導に依る賜かと存じます。同君は現今朝鮮咸興普通學校長と今如何にや消息を聞き度いものであります。次に日高傳三郎君、前田二郎君、眞鍋貫市君、橋本和歌君、木田重治君等青年期に受洗信仰生活に入りし之等の諸氏は今も猶教會生活に信仰生活に脱線のない事實を眼の的り視て感謝せずには居られない。中にも木田君は先年私にイエスの御一代の紙芝居を贈られ現在は東京青年會にて亦自宅にて日曜學校を開設されて居るとの通信を受け私の喜悅を深くし感謝した次第であります。

私は記念寫眞「傳道團」の寫眞を見る時當時を偲び胸中に思はず聞ゆる歌の聲。

皆すゝめもろともに

皆歌へもろともに

悪魔の軍勢と戦ひて

勝鬨きあぐるまで

私はアツコ・ジョン、西君は小太鼓、橋本君は銀笛、同君は晝は三軒家の某寺の小僧さん衣を替へて傳道隊に然して遂に御拂箱となり私と同居す。安藤教師の愛した青年で同君今は大阪府刑事部長、其の他松本執事行徳氏吾等は信仰に燃へた。演説會の初まる一時間前、本田通から安治川通りへ銀笛バンドで路傍演説實に元氣であつた。

遂に教會堂を建てねばならんと安藤教師の草案建設趣意書を表題として、先づ會員各自十分一の献金で一ヶ年間の克己寄附を或は未明に大阪を出で生駒山上に大和平野を見下して圓をなし互に祈つた時の感想を當時の同志を互に語り合ひ度きものである。

吾等は九條弘道館時代より九條教會時代を経過した。安藤乙三郎教師も逝き富田教師も逝きミス・ダニエル教師も逝き。ジョージ・オルチン教師も天上の人となる。吁今在るは内田政雄先生と二宮平二郎先生私も十三歳より五十三歳約四十年を経過した。

其れ信仰は望む所を疑はず

未だ見ざる所を誠とするにあり

と聖句が私の胸に油然として湧き来るを覺ゆ、吾等は信仰によりて勇者とならねばならん。中之島榎の下の宮川先生、私の生立ちを承知して下さる宮川先生も逝かれた。吁

之等天上の恩人を憶ひては今も猶信仰に依りて生き永遠を望んで老ゆる事を識らざる壯者とならねばならん。

今年創立四十周年の記念會があると聞く、弘道館時代の者がでしやばる幕ではない。菅原教師に弘道館時代の感想を聞かると、まゝに思出での感懐を書綴りた次第であります。

## 回顧

齋藤市次

九條基督教會創立四十周年記念會を開催せらるゝに當り漫然小生の記憶に存する儘を羅列し御參考に供す。不惡御取捨を乞ふ。

小生は明治卅九年五六月頃當時アメリカカミツション教師デヨジ・オルチン教師の傳道に係る港區九條通り(俗稱九條新道と云ふ)弘道館「内田牧師時代」に天滿基督教會より轉籍し其後間もなく教會會計を引受くる事となり會計員たりし當時、伏木カツ子今日宇佐美カツ子より現金八圓五十錢の經常費を引繼ぎ其當時會員は十數名に過ぎず、而して暫時にして内田牧師は他に轉任代つて富田政氏を傳道師として迎へられ、傳道師も僅かに半年斗りにて又他に轉任せられ、此間時には不詳なるも右兩氏が任中より教會新築の議ありて他に同情者を募りつゝありしが、既に四百餘圓の資金ありしを愈々新築するの決心を

造り、大々的募金に奔走し其金額は記憶せざるも茲に豫てオルチン教師の先見に依り、ミツシヨンより教會の敷地として九條南通一丁目(一番道路電車道)に敷地百十坪を購入せられたる地に教會堂を新築したり、「月時不詳」越へて翌四十年一月二日當時神戸神學校にオルチン教師の指圖にて小生一人二宮牧師を迎ふる交渉を爲し、同月六日聖日に二宮牧師の最初の禮拜説教を煩すこととなりたり。

爾來二宮牧師の非常なる活動により教勢日に増し發展し、會員數も増し當初の教會にては其狭きを感じ増築の止むなきに至りたるも其資金に困難せし折柄、同牧師は恰も未信者なりし南堀江居住の故山本葉那姉に謀り同姉より四百圓の寄附を仰ぎ増築着手し、焦眉の急を救ひたり其後教勢増々發展し、從て日曜學校の教室に不足を告ぐることとなり其際元檢事の未亡人御座禮子姉の堺基督教會より轉籍せられ、同夫人の義舉に依り同教會堂の東北隅同夫人の居室を新築せられ其二階に同會堂の二階より通路を作り之を日曜學校生徒の教室に宛て其階下には同夫人一人居住せらるることとなりたり、爾來教勢増々上り一方前記教會敷地百十坪を右ミツシヨンより參千五百圓にて教會へ買収することになり毎月教會常費の内より金五十圓を月賦として右ミツシヨン支拂を持續し既に其殘額貳千圓となりし際右御座未亡人の義舉にて其殘額全部の寄附を受け全く教會の所有に歸したるを以て茲に愈獨立する事となり、其筋に教會設立の許可を受け小生と眞鍋貫一氏白井某氏の三名の名義して設立許可を了したり。

然るに其後教勢日に日に發展し一時は九條教會の祈禱會に出席せば其信仰は横溢し「波が漂ふ」と迄他教會員より羨望せられたることあり、而して其頃教會員のみならず其近隣も急速度に發展し、人家も

増々密度を加へ到底この調子にては前道路の電車の音響も甚しく説教にも支障を起し他に候補地を物色し移轉の議起り從て財界も好況に遭遇し、當時日高善市兄の斡旋にて前記百十坪を五萬餘圓に賣却し其資金の内より現在の教會敷地「九條南通二丁目」二百餘坪を買収し、爰に愈々教會堂を新築することとなり當時三谷徳松兄の肝煎にて現今會堂を新築し、又前記御座夫人の居室は既に同夫人の永眠せられたる當時其儘教會寄附を受け其居室全部を現今會堂の裏手に之を移し増築を爲し牧師館に充當したるものなり。

而して茲に小生一人責務怠慢の爲め悲想なる事實を附言せんに右道路より現今教會へ移轉の際其筋に對し未だ本會堂の新築成らざるを以て、右牧師館を以て假教會堂に充當する旨届出て爲し置きたる儘數年間其儘打ち捨て置き其後漸やく新會堂に假教會の移轉と同時に會堂新築の届出と共に會堂の設計圖面をも添へ其筋に届出認可を受けんとしたる處豈計らんや、其間に市街建築物の改正法規の發令ありて新法規抵觸する個處數多ありて不許可となり其建直しを命ぜられたり。其驚き一方ならず全く小生一人の責務にして小生一人が割腹したりとて何の効果もなく爾來再三再四其筋の掛官に歎願の結果漸やく右法規改正以前の建築物として許可の指令を領することとなり今日にても其當時の心情を想像する毎に背に汗を覺ゆる次第なり。

因に小生先きに弘道館にありし祈禱會の或る日神より御前は畢生の事業として此弘道館を九條の獨立教會とせよ夫迄努力を繼續せよとの暗示を受け其恩寵に由り終に獨立を見ることとなりし其獨立許可の

際は終生の感謝に溢れたる次第なり。

## 所 感

二宮平二郎

世界各所に地形上自然の良港もあるが人工の港にして更に優れたものもある。我が大阪築港の如きは其一であります。私の如き其影も形もない時の海岸を知つて居る者に取りては目下見るが如き廣大なる港は一の驚きである。桑園變りて海となるといふに反して海が陸になり、淺瀬が港になつたりしたのでありますから因より之れは大資本が投せられたのであるが、其大部分は水面下に沈没せる無限の捨石となつたのであります。捨石の上の捨石、して其上に防波堤が築かれ燈臺が建設さるゝになつたのであります。私は此等無数の捨石を人柱とも又かの無名戦士に似通へる者とも見、此等の捨石に對して敬意を表したい様な氣が致します。さて此様に考へつゝ西大阪の靈的燈臺たるを以て自任し來つた我が九條教會の創立當時を追想し、其今日を見るに至りしは恰も我が築港に等しき者あるを感じ幾多の捨石となり、無名戦士となりし者の顯著なる功蹟を三嘆せざるを得ないのであります。

其第一の擧ぐべきはオルチン教師と其相談相手であつた安藤乙三郎氏で、海のものとも山のものとも見當の附かない時に身を挺して之に追隨し支援したる安藤夫人、葛岡春藏醫師、ミス・ダニエルと其助手

宇佐美勝子氏の如きは夫れであり其陣痛期にあたりて轉入し來りし齊藤市次氏夫妻内田政雄、富田政兩教師の如き又能く協調戮力せし中野、眞鍋、長野三氏の如き永へに記憶せらるべき人々である。之に次ぎて四十年間の男女團體の目星しき方々と移轉増築に偉功ありし人々の氏名は歴史の本文に譲りますが未信者たる山本葉那老女の増築、地代償却の爲に二千圓と家屋を寄附されし御座たか子姉、移轉に關して日高善市兄の盡力の如きは特筆すべきであります。

不肖私は弘道館開始當時の説教、安藤師病中の代理等を併せ四分三即ち約三十年近く奉仕させて戴いた其間私の肝銘して忘る能はざるものは私のフアッシュ肌なる氣儘の行動に對して會員諸君の寛恕と忍耐に依り私を牧師として能く奉つて下さつた。換言すれば牧師を愛するを以て會員當然の義務となし終始變らせ給はざりし事に對し私は心から「私は幸福な牧師だ」と自覺さしれし迄愛し貫いて下さつた事であります。して之が今や教會の傳統的精神となつて私に對する以上に私の後任牧師に敬と愛とを捧げらるゝ事を信じて疑はず頗る満足し居る事であります。又私の信仰は餘りに平面的常識的で與行の缺けて居るかを疑惧し且つ濟まぬ事とも思つて居ましたが、これ亦私の信頼する後任牧師によりて遺憾なく補充せらるべきを確信し今後最も力強く進展し地の鹽世の光たるべき模範的の教會とする様にと祈り續けませう。冀くは神の御祝福によりて無名戦士の墓碑名を襲ぎ何時く迄も主イエスの忠僕として神の榮光の爲盡されん事を。

339  
1211

昭和十一年十月十日印刷  
昭和十一年十月十一日發行

(非賣品)

編輯者 菅原 菊三

印刷者 平田 敏雄

印刷所 ホイント社印刷所

大阪市港區九條南通二丁目

發行所 九條基督教會

電話西七四四五番



終

